



第2次うるま市 観光振興ビジョン

改定版

住んでよし！
自慢のまちをつくり、
訪れてよし！
自然・歴史・文化で感動を与え、
受け入れてよし！
明るくおもてなす
～自慢のまちをつくり、感動を与える“うるま”～



沖縄県うるま市うるま



うるま市
令和5年3月

市長挨拶

第2次うるま市観光振興ビジョンの見直しにあたって

うるま市は、沖縄本島の中部東海岸に位置し、海洋レジャーに適した海中道路や多くの海浜を有するほか、島しょ地域には昔ながらのまちなみが残るなど、美しい風景や豊かな自然環境に恵まれた風光明媚なまちです。

また、世界遺産群の一つである勝連城跡をはじめ、貴重な歴史遺産や文化財が数多く保存され、勝連地域の中高生による勝連城 10 代目城主「阿麻和利」の半生を描いた現代版組踊「肝高の阿麻和利」や各地域の伝統あるエイサー、獅子舞、ハーリーなど伝統芸能や文化活動も盛んで脈々と若い世代へと受け継がれているほか、文化財に指定された闘牛は、県内でも特に盛んで「闘牛のまち」と知られています。



これらの個性豊かで多様な観光資源を目的に毎年多くの観光客が訪れ賑わいを見せており、市民・事業者から観光消費拡大による地域経済の活性化が期待されています。

本市では、戦略的かつ効果的に観光振興を推進していくため、平成 29（2017）年3月に「第2次うるま市観光振興ビジョン」を策定し、豊かな地域資源と特性を活かした観光振興を進めてまいりました。

一方、令和元（2019）年度からの3年間は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により入域観光客数も大きく減少し、市内観光関連事業者は大きな打撃を受けました。そのような中、計画策定から6年が経過し、社会情勢や上位関連計画、関係団体についても変化している状況です。

こうしたうるま市観光をとりまく環境の変化を踏まえ、今後5年の計画期間とする「第2次うるま市観光振興ビジョン改定版」を策定いたしました。

本改定版では、現行計画基本理念である「住んで自慢のまちをつくり、訪れて感動を与えるうるま」の市民・観光客の目線に加え、「受け入れてよし！」という新たに事業者の目線に加え、市民・観光客・事業者の全ての目線から「よし！」となる観光振興に取り組むこととしており、市民や観光関連事業者の満足度を新たに目標値として据えたほか、基本方針毎に目標値を設定することにより、さらなる実効性の高い計画となるよう改定しております。

本改定版に基づき、うるま市の魅力ある観光まちづくりの推進と実現に向け、官民連携をさらに強化して取り組んでまいりますので、観光振興施策に対するより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本改定版の策定にあたりご尽力賜りましたうるま市観光まちづくり推進協議会の皆さまをはじめ、貴重なご意見・ご提言をお寄せいただきました市民及び関係者の皆さまに対し、心から感謝申し上げます。

令和5（2023）年3月

うるま市長 中村 正人

目次

序章 第2次うるま市観光振興ビジョン改定にあたって.....	1
1. 計画策定の背景と目的.....	1
2. 観光振興ビジョンの位置付け.....	1
3. 観光振興ビジョンの計画期間.....	2
4. 観光振興ビジョンの策定手順と体制.....	3
5. 観光振興ビジョンの構成.....	4
第1章 観光を取り巻く情勢と観光の現状.....	5
1. うるま市の観光を取り巻く環境.....	5
1.1 社会動向及び関連動向.....	5
1.2 沖縄県の観光動向.....	5
1.3 市内観光拠点の整備状況と公民連携の可能性.....	9
2. うるま市の関連計画の整理.....	10
3. うるま市の観光の実態.....	14
3.1 地域資源及び観光入込客数.....	14
3.2 観光客・市民・事業者を対象としたアンケート調査結果からの示唆.....	15
4. 改定前ビジョンの振り返り.....	24
4.1 目標値の達成状況.....	24
4.2 施策の進捗状況.....	26
4.3 過去5年の総括.....	28
第2章 うるま市観光のこれからの取り組み課題.....	29
第3章 うるま市の観光振興に向けた考え方.....	31
1. うるま市の観光の基本理念.....	31
2. うるま市の観光振興の基本方針.....	32
3. 5年後（令和9（2027）年度）の目標値.....	33
第4章 観光振興に向けた基本施策と展開施策.....	35
第5章 地域別の取組方針.....	63
1. 石川地域.....	63
2. 具志川地域.....	64
3. 勝連・与那城地域.....	65
第6章 セグメント別の取組方針.....	66
1. 県外観光客.....	66
2. 県内観光客.....	67
3. 外国人観光客.....	68
4. 目的特化型のセグメント.....	69
第7章 取組の推進体制と計画管理.....	70
1. 取組の推進体制.....	70
2. 計画管理.....	72
巻末資料.....	73
巻末資料－1：うるま市の主な地域資源.....	75
巻末資料－2：観光客アンケート調査結果.....	79
巻末資料－3：市民アンケート調査結果.....	86
巻末資料－4：観光事業者アンケート調査結果.....	92
巻末資料－5：各種会議・WGの開催結果.....	96
巻末資料－6：うるま市観光まちづくり推進協議会設置要綱・委員名簿.....	99

序章 第2次うるま市観光振興ビジョン改定にあたって

1. 計画策定の背景と目的

我が国では「観光立国推進基本法」を定め、観光の国際競争力の強化に努めるとともに、それぞれの地域が持つ特色を活かした魅力ある観光地づくりの推進を支援しています。観光産業は、沖縄県や本市のリーディング産業として、市民の雇用や暮らしを支えるとともに、経済における重要な振興発展に寄与しています。

本市の観光施策については、平成29（2017）年3月に、「まちの活力を生み出す産業づくり」を具体化し、観光振興による活用に満ちた経済活動の展開を目指して、今後10年間を計画期間とする『第2次うるま市観光振興ビジョン』を策定し、各種施策を展開してまいりました。

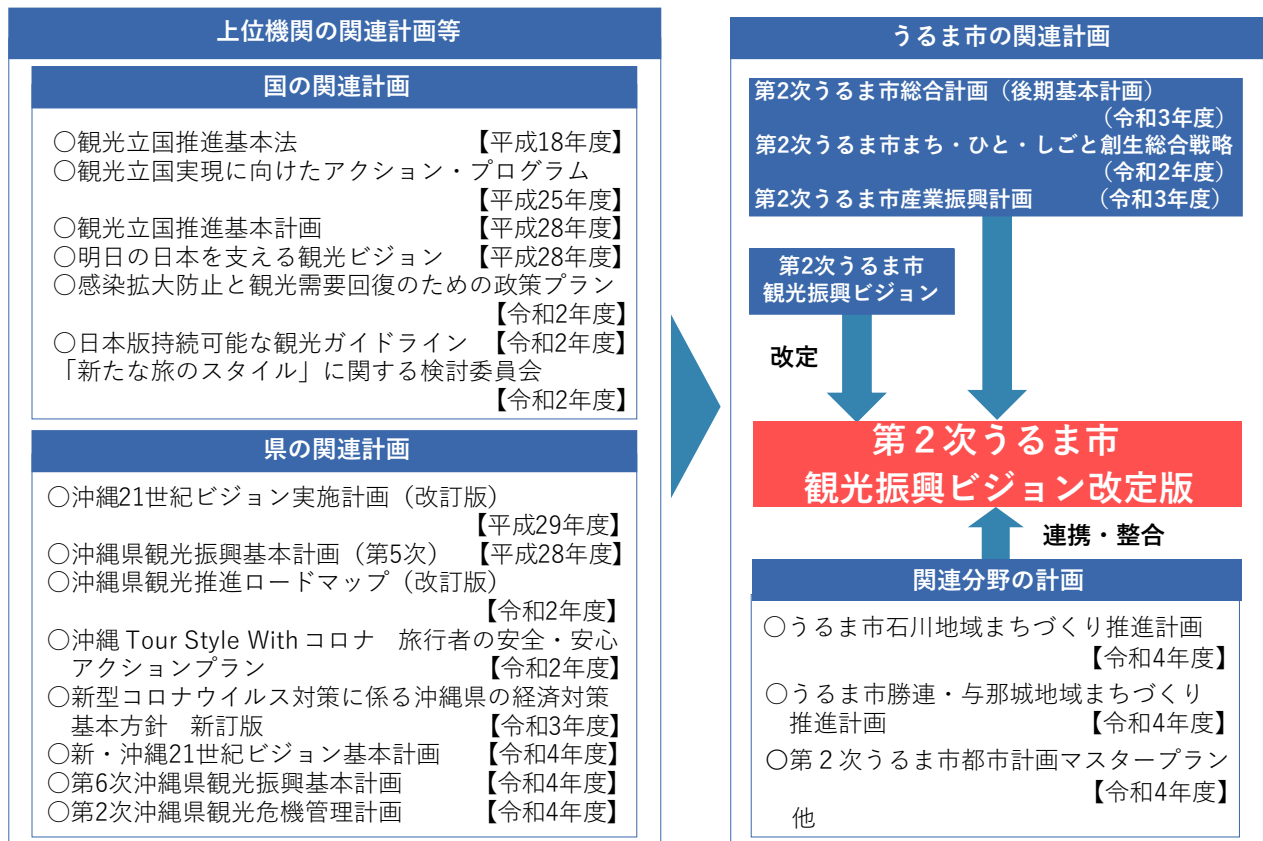
一方、現行のビジョンも6年が経過し、上位計画、関連計画等も改定が行われており、また、新型コロナウイルス感染症の影響により入域観光客数も大きく減少し、当時掲げた目標値をもとに進捗管理を行っても効果をなさない状況となっているため、現状の社会情勢等に合った計画にする必要があります。

上述の「社会情勢の変化」に加え、「関係部署、関係団体の体制の変化」、「関係部署、関係団体と連携した施策の強化」、「数値目標達成に向けた取組施策の見直しやターゲット設定等の強化」を踏まえ、今後5年の計画期間とする「第2次うるま市観光振興ビジョン改定版（以下、本ビジョンと称す）」を策定いたしました。

2. 観光振興ビジョンの位置付け

本ビジョンは、上位計画となる「第2次うるま市総合計画（後期基本計画）」（令和3（2021）年度策定）、「第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2（2020）年度策定）」、「第2次うるま市産業振興計画（令和3（2021）年度策定）」において、観光関連施策の方向性や目標値との整合を図ります。

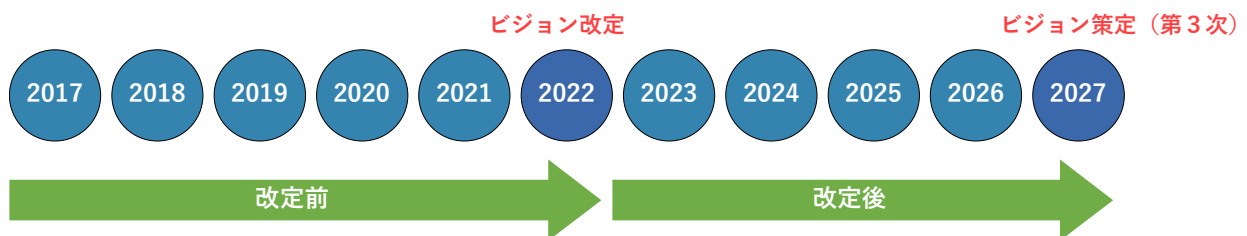
また、国の「観光立国推進基本計画」（平成28（2016）年度）、「明日の日本を支える観光ビジョン」（平成28（2016）年度）や沖縄県の「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」（令和4（2022）年度）、「第6次沖縄県観光振興基本計画」（令和4（2022）年度）等の観光振興の方向性を踏まえて取りまとめています。



▲第2次うるま市観光振興ビジョン改定までの流れ

3. 観光振興ビジョンの計画期間

現行のビジョンは、平成29（2017）年度から令和8（2026）年度までの10年間の計画となっていましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各観光施策等が停滞したことから改定時期を1年先延ばしし、令和4（2022）年度に見直し・改定を行ったため、本ビジョンの計画期間は、令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までの5年間を計画期間とします。



▲改定及び見直しの期間

4. 観光振興ビジョンの策定手順と体制

本ビジョンは、基礎調査や市の観光物産協会、商工会、宿泊事業者、旅行者、観光サービス事業者、地域団体、有識者、庁内関係部局との様々な話し合いをもとに策定いたしました。

はじめに関係部局から前ビジョンの施策の評価・検証を行うとともに、観光客や地域の求める観光振興のあり方や課題を的確に捉えるため、上位指針及び関連計画の整理及び計3つの観光動向調査を実施いたしました。

その調査結果を踏まえ、「うるま市観光まちづくり推進協議会」にて、本ビジョンに基づく各種施策の推進及び観光振興に関し必要な事項について協議するとともに、市民及び関連団体で構成された「うるま市観光まちづくり事業者ワーキンググループ」での議論・検討をもとに計画案を策定し、「うるま市観光振興ビジョン庁内会議」にて、施策の役割などのオーソライズを図ってまいりました。

前段整理・基礎調査

前計画の施策の評価・検証（関係部署・団体ヒアリング）

- ①施策の整理 ②ビジョン策定後の取組状況 ③課題及び今後の方針
- ④取組の評価及び継続意向 ⑤観光まちづくり推進に対する期待や懸念事項等

観光振興の現状把握

（1）上位指針及び関連計画の整理

（2）観光動向調査の実施

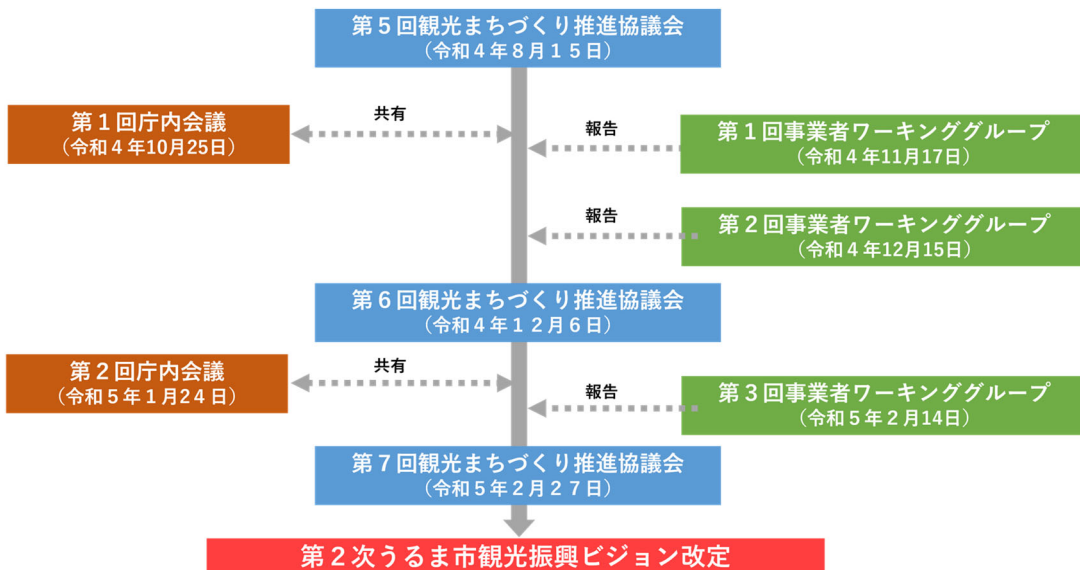
- ①市民アンケート調査 ②観光関連事業者等アンケート調査 ③観光客調査

新計画の主要課題の整理

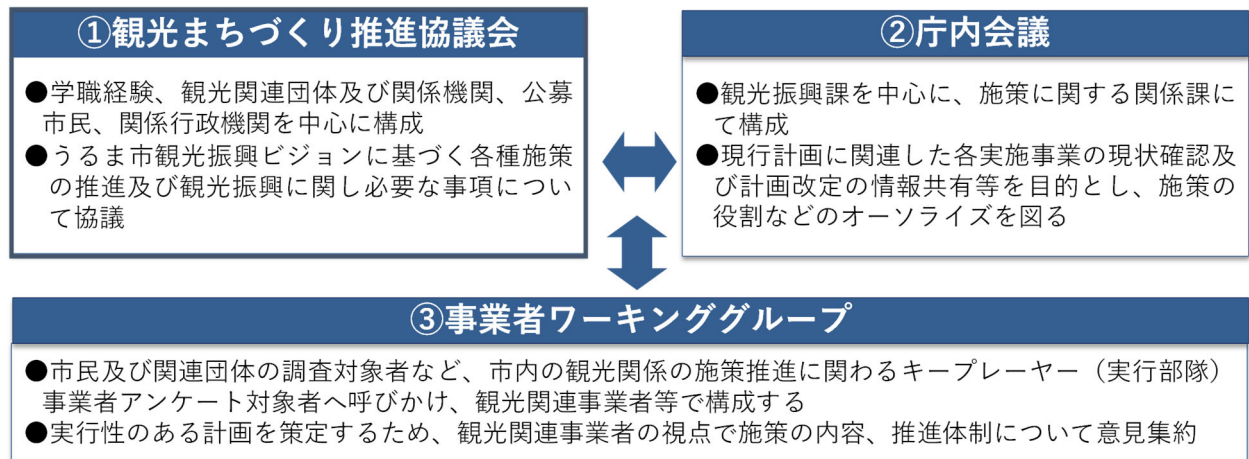
施策の検討

第2次うるま市観光振興ビジョン改定

第3回のうるま市観光まちづくり推進協議会※での議論を踏まえ計画を策定
※計画運用時の平成29年度からの通算回数で表記



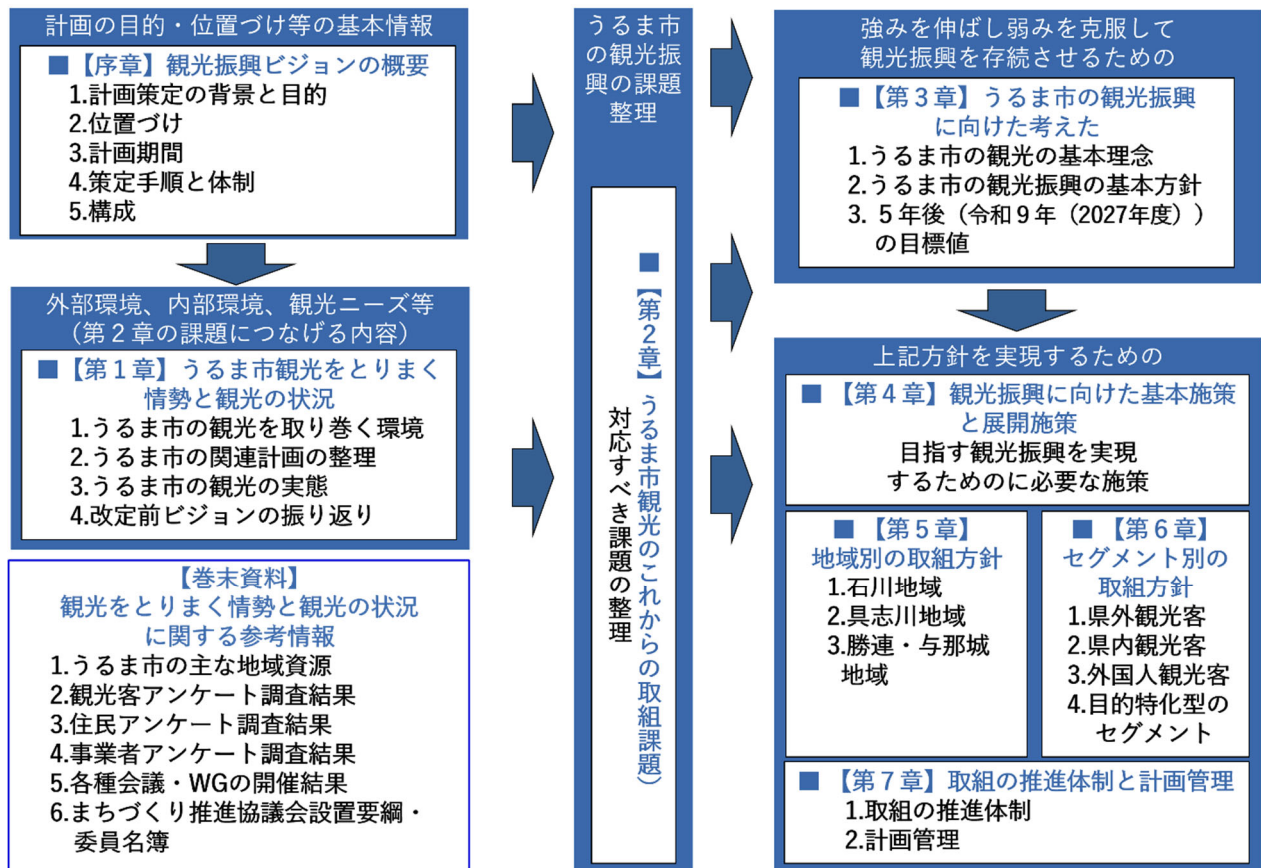
▲改定及び見直しの手順



▲実施体制図

5. 観光振興ビジョンの構成

本ビジョンの構成を以下に示します。



第1章 観光を取り巻く情勢と観光の現状

1. うるま市の観光を取り巻く環境

1.1 社会動向及び関連動向

- わが国は、“観光”を21世紀における重要な施策の柱と位置付け、旧「観光基本法」(昭和38(1963)年)を全面改正し、「観光立国推進基本法」が平成19(2007)年1月から施行されました。
- 平成29(2017)年に閣議決定された新たな「観光立国推進基本計画」では、「世界が訪れたいくなる日本」へと飛躍するための基本方針として、国民経済の発展、国民生活の安定向上、国際相互理解の増進及び災害、事故等のリスクへの備えを掲げています。
- また、観光関連の新たな財源として、平成31(2019)年に「国際観光旅客税」が創設されたことで、日本における旅行環境の整備と充実が進展しています。
- 令和2(2020)年には、新型コロナウイルス感染症の流行により経済的損失を被った旅行業界や国内旅行の再活性化を目的として「GoTo トラベルキャンペーン」が開始されました。新型コロナウイルス感染症再拡大の影響で一時的に停止されましたが、令和4(2022)年10月から、政府の財政支援を受けて各都道府県が実施している観光需要喚起策として、「全国旅行支援」が開始され、沖縄県では、旅行支援「おきなわ彩発見 NEXT」を展開しています。

1.2 沖縄県の観光動向

(1) 沖縄県の観光施策

世界から選ばれる持続可能な観光地 -世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」-の実現を目指しています。

- 沖縄県では、観光を県経済のリーディング産業と位置づけ、昭和51(1976)年度から「観光振興基本計画」を策定し基盤整備等を進めてきました。
- 「第6次沖縄県観光振興基本計画」(令和4(2022)年7月)は、沖縄県観光振興条例第7条に基づき、沖縄観光の目指す将来像(VISION)「世界から選ばれる持続可能な観光地 -世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」-」の実現に向けて、以下の具体的な目標値(OUTCOMES)を定めています。

<社会の視点>

県民の幸せ感 90% / 観光事業者の満足度 80% / 観光客の満足 80%

<経済の視点>

観光収入 1.2兆円 / 人泊数(延宿泊者数) 4,200万人

観光事業者(正社員・正規職員)20代の平均年収 280万円

観光事業者における役職者(部長級・課長級・係長級)の平均年収 448万円

<環境の視点>

観光関連施設等における再生可能エネルギー対応施設数 100件

宿泊施設におけるアメニティグッズ廃止を導入している施設数 100件

「3010」運動(フードロス削減)を推奨しているホテル数 100件

中部圏域では、歴史文化の継承・発展及び観光振興や生活環境基盤等の充実及び島しょ地域の振興等の取り組み等を基本方向としています。

- 「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」(令和4(2022)年5月)の「圏域別展開-中部圏域-」では、歴史文化の継承・発展及び観光振興や生活環境基盤等の充実及び島しょ地域の振興等の取り組みを基本的な考え方としています。
- 歴史文化の継承・発展及び観光振興においては、異文化が融合する圏域の特性を生かした観光振興やスポーツコンベンション地域の形成等の取り組みが掲げられています。
- 生活環境基盤等の充実及び島しょ地域の振興においては、周辺離島における定住条件の整備及び地域活性化等の取り組みが掲げられています。

沖縄の強みである豊かな自然環境や独自の歴史、文化等のソフトパワーを最大限に発揮するコンテンツを造成することで「安全・安心で快適な島沖縄」を実現し、国内外において「世界から選ばれる持続可能な観光地」として認知された状態を将来像達成のイメージとする。

- 沖縄県では、「安全・安心で快適な島沖縄」を実現することを目指しています。
- 「第2次沖縄県観光危機管理計画」(令和4(2022)年3月)は、以下の観光危機管理体制を整備することにより安全・安心で快適な観光地としての沖縄観光ブランドを構築し、「世界から選ばれる持続可能な観光地の形成」を図ることを目的としています。

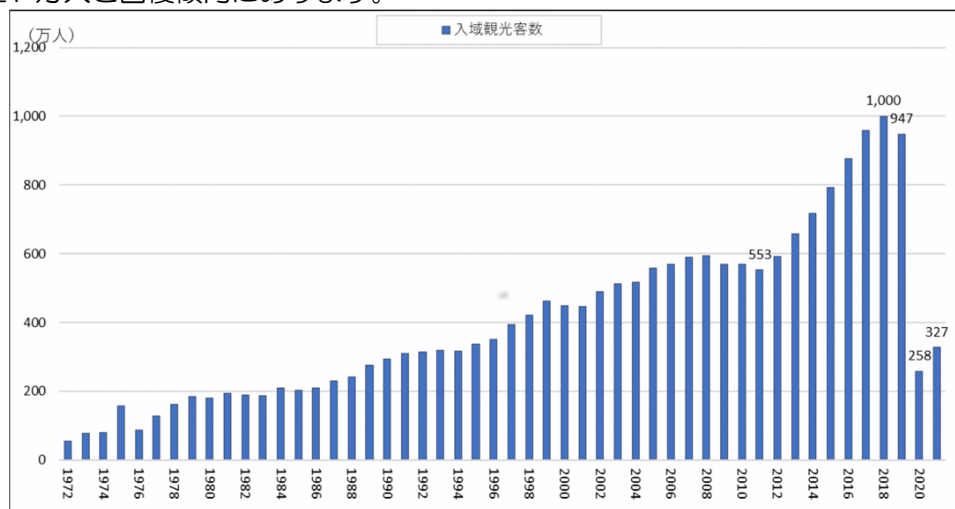
- ・観光産業に負の影響を与える観光危機に対し、県、市町村、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、観光関連団体・事業者、県民等の各主体が、観光危機管理の役割と行動を認識し、各主体が連携して対応できる体制
- ・危機への減災対策、危機に備えた定期的な訓練等の実施、危機発生時の観光客への的確な情報発信、避難誘導・安全確保、帰宅困難者対策、危機発生後の風評被害対策、観光産業の早期復興・事業継続支援等を迅速かつ確実に実施できる体制
- ・観光産業に影響を及ぼす様々な危機の被害を最小化するため、
 - ① 平常時の減災対策 (Reduction)
 - ② 危機対応への準備 (Readiness)
 - ③ 危機への対応 (Response)
 - ④ 危機からの回復 (Recovery)の4段階(4R)において、県、市町村、OCVB、観光関連団体・事業者及び県民が一体となって、最善の対策を取ることができる体制

(2) 沖縄県観光の現状

入域観光客数は新型コロナウイルスの影響により、令和2（2020）年2月以降大幅に減少していますが、令和3（2021）年から徐々に回復傾向にあります。

■ 平成20（2008）年のリーマンショック以降の景気低迷、インフルエンザの流行、平成23（2011）年の東日本大震災の影響などもあり、入域観光客数は一時期落ち込みましたが、平成24（2012）年度以降再び増加に転じ、平成30（2018）年度には過去最高の約1,000万人となりました。

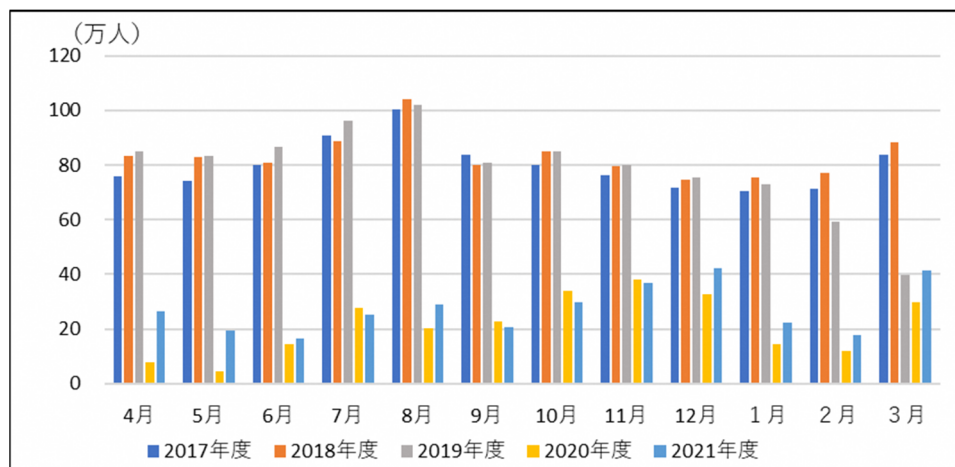
■ しかし、平成31（2019）年度は、新型コロナウイルスの影響により、2月以降大幅に減少し、約947万人となり、続く令和2（2020）年度は、約258万人と2年連続で減少となり、昭和63（1988）年度に次ぐ低水準まで落ち込んでいます。その後、令和3（2021）年度は、約327万人と回復傾向にあります。



入域観光客数の推移

出典：「令和3（2021）年度版観光要覧」沖縄県（令和5（2023）年1月）

■ 月別入域観光客数の推移では、令和2（2020）年度は全ての月で前年同月を大幅に下回ったものの、令和3（2021）年度は12月以降回復傾向にあります。



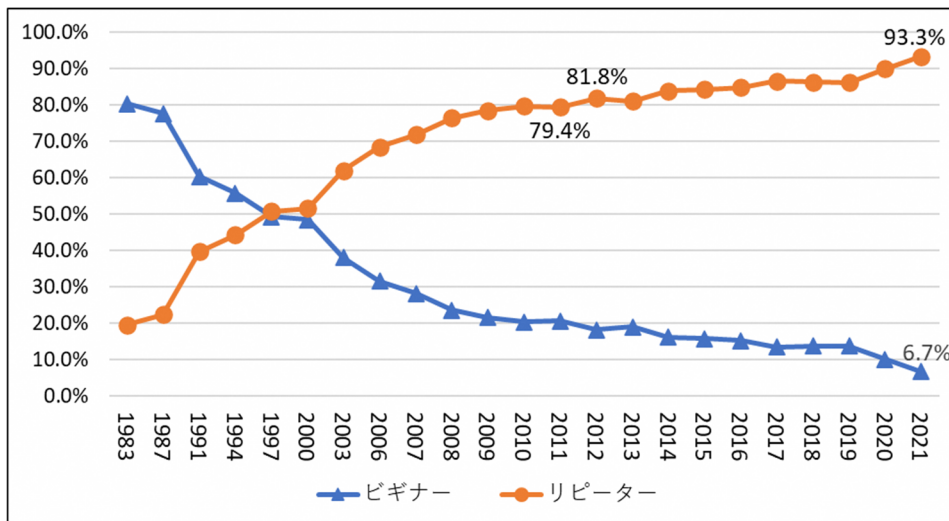
月別入域観光客数の推移

出典：「令和3（2021）年度版観光要覧」沖縄県（令和5（2023）年1月）

沖縄県のリピーター率は、8割を超えて推移しています。

■沖縄県を訪れる国内観光客のリピーター（再来訪者）の比率は年々増加傾向にあり、平成24（2012）年度には8割を超えました。

■令和3（2021）年度のリピーター率は93.3%と9割を超える結果となっています。



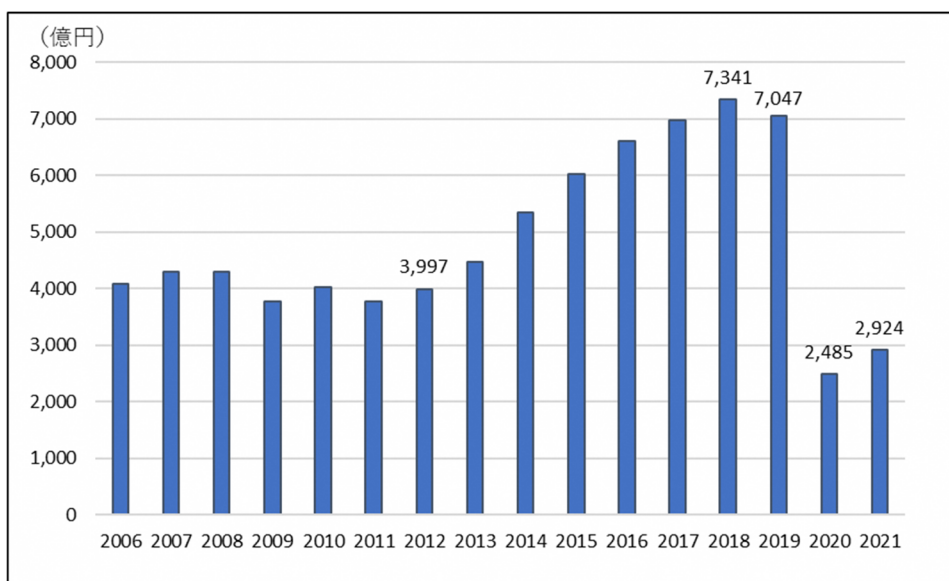
リピーター率の推移

出典：「令和3（2021）年度版観光要覧」沖縄県（令和5（2023）年1月）

観光収入は大幅に減少したのに対して、観光客一人あたり県内消費額は過去最高を更新しました。

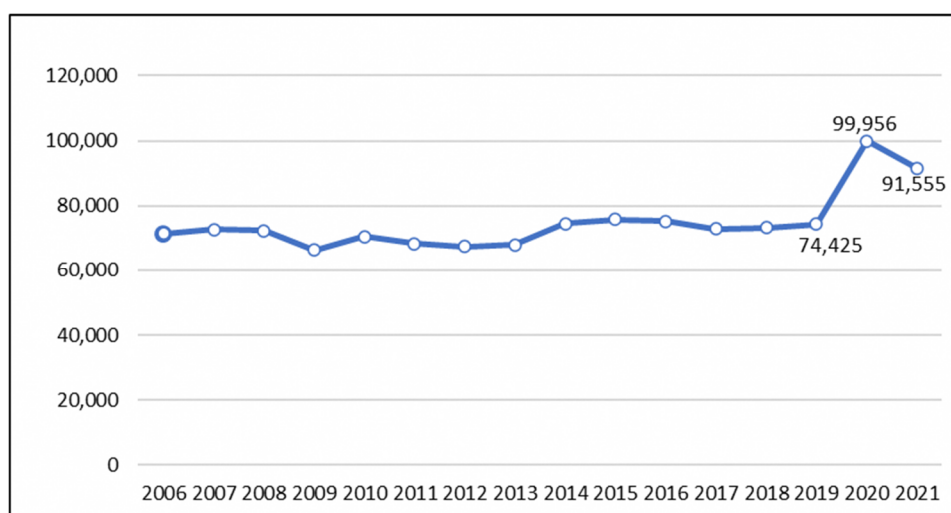
■観光収入は、平成24（2012）年度以降増加を続け、平成30（2018）年度には7,341億円となりました。しかし、新型コロナウイルスの影響により、令和2（2020）年度には、2,485億円まで減少しています。その後、令和3（2021）年度には、2,924億円と回復傾向にあります。

■観光客一人あたりの県内消費額は、7万円台で推移していましたが、令和2（2020）年度には、99,956円と大幅に増加しています。



観光収入の推移

出典：「令和3（2021）年度版観光要覧」沖縄県（令和5（2023）年1月）



観光客一人あたり県内消費額

出典：「令和3（2021）年度版観光要覧」沖縄県（令和5（2023）年1月）

1.3 市内観光拠点の整備状況と公民連携の可能性

第2次うるま市観光振興ビジョン策定後、うるま市内では、新たな観光拠点の整備が進められてきました。本ビジョンにおいては、観光拠点の整備を踏まえた、推進体制や取組施策の対応部署等を現状に見合った計画へと改定していきます。

		
うるマルシェ	東照間商業等施設	総合アリーナ
平成30（2018）年11月1日	令和3（2021）年10月10日	令和10（2028）年供用予定
		
あまわりパーク	浜比嘉島交流拠点施設	中部東道路
令和3（2021）年10月14日	令和4（2022）年7月2日	未定

2. うるま市の関連計画の整理

本ビジョンの策定に伴い、第2次うるま市観光振興ビジョン（平成29（2017）年3月）以降に、策定された計画との整合を図りました。

整理した上位・関連計画は以下の通りです。

No.	名称	発行者	発行年度
1	第2次うるま市総合計画（後期基本計画）	うるま市	令和3（2021）年度
2	第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略	うるま市	令和2（2020）年度
3	第2次うるま市産業振興計画	うるま市	令和3（2021）年度
4	うるま市交通基本計画	うるま市	平成30（2018）年度
5	うるま市観光危機管理計画	うるま市	令和3（2021）年度
6	第2次うるま市都市計画マスタープラン	うるま市	令和4（2022）年度
7	うるま市石川地域まちづくり推進計画	うるま市	令和4（2022）年度
8	うるま市勝連・与那城地域まちづくり推進計画	うるま市	令和4（2022）年度

（1）第2次うるま市総合計画（後期基本計画）【令和3（2021）年度】

【概要】

基本構想を実現するための分野ごとの方針や主要な施策、達成すべき目標を定めた計画

【関連項目（抜粋）】

第2章 基本目標別施策＞基本目標3：まちの活力を生み出す産業づくり
 施策3-3：観光の振興基本施策

主な取り組み方針

- 方針1 観光振興の取組みを推進
- 方針2 東海岸を新しい観光として整備・充実

成果指標

- ・主要観光施設の来場者数（勝連城跡・あやはし館・東照間商業等施設）
 現状値（令和2（2020）年度）：317,357人
 →目標値（令和8（2026）年度）：520,000人
- ・プロスポーツ等の誘致による経済波及効果額
 現状値（令和2（2020）年度）：27,128千円
 →目標値（令和8（2026）年度）：59,682千円
- ・教育（修学旅行や遠足、校外学習など）旅行等の誘致数
 現状値（R2年度）：210件→目標値（R8年度）：215件

（2）第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略【令和2（2020）年度】

【概要】

うるま市における人口減少対策や地域活性化を図ることを目的とした計画

【関連項目（抜粋）】

3 施策の展開＞基本目標1 魅力ある安定した雇用の場を創出する
 基本施策1-3 観光関連産業の活性化＞（1）重要業績評価指標（KPI）

- ・勝連城跡の来場者数
 現状値（令和元（2019）年度）：168,405人
 →目標値（令和6（2024）年度）：216,000人

(3) 第2次うるま市産業振興計画【令和3（2021）年度】

【概要】

これまで取り組んできた産業振興施策の効果や社会経済情勢の変化を踏まえ、本市の産業の課題を明らかにしたうえで、柔軟かつ的確に対応した実効性の高い産業振興施策を展開し、市全体の産業振興の実現と豊かな市民生活の実現を図る計画

【関連項目（抜粋）】

第5章 産業振興施策＞地域の強みを活かした“うるまツーリズム”の形成

施策1 地域における受入態勢の構築

- ①地域事業者と連携した受入体制構築支援、②着地型観光推進の人材育成の計画支援
- ③市内事業者のマッチング支援、④外部人材の活用支援
- ⑤民泊事業の推進、⑥既存施設等の活用（官民連携による誘致検討）

施策2 “うるまツーリズム”の形成に向けた着地型プログラムの創出

- ①スポーツコンベンションの推進、②サイクルツーリズムの推進
- ③勝連城跡を生かした文化ツーリズムの推進、④観光闘牛の推進
- ⑤新たなツーリズムの創出

施策3 PR・プロモーションの強化

- ①国内外への魅力的なプロモーションの推進

(4) うるま市交通基本計画【平成30（2018）年度】

【概要】

本市総合計画や都市計画マスタープランで掲げる将来像実現のため、観光資源を活かせるよう観光周遊ネットワークの構築等の課題解決に向けて、交通街づくりの観点から策定された計画

【関連項目（抜粋）】

基本方針V：魅力があり、使いやすい道路交通空間の創出＞3. 将来交通ネットワーク道路整備の方針（基本方針V関連）

- ・島しょ部のみならずうるま市全体における自転車ネットワークの整備を行う

成果指標

・主要観光施設（勝連城跡）の観光客数増

現況値（平成29（2017）年）：174,421人／年→目標値（短中期令和12（2030）年）：26万人／年 目標値（中長期2040年）：35万人／年

(5) うるま市観光危機管理計画【令和3（2021）年度】

【概要】

観光危機管理体制を整備することにより安全・安心で快適な観光地としての沖縄観光ブランドを構築し、「世界から選ばれる持続可能な観光地の形成」を図ることを目的とした計画

【関連項目（抜粋）】

第3章 基本方針と取り組むべき対応＞1. 観光危機管理の基本方針

- ・基本方針1：平常時の減災対策（Reduction）
- ・基本方針2：危機対応への準備（Readiness）
- ・基本方針3：危機への対応（Response）
- ・基本方針4：危機からの回復（Recovery）

第5章 観光危機管理体制

- 1) 本市の体制
- 2) 観光関連団体、観光関連事業者の体制
- 3) 国・県及び近隣市町村との連携

(6) 第2次うるま市都市計画マスタープラン【令和4（2022）年度】

【概要】

都市づくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、個別具体の都市計画の指針として地区別の将来のあるべき姿をより具体的に明示し、地域における都市づくりの課題とこれに対応した整備等の方針を明らかにする市町村のマスタープラン

【関連項目（抜粋）】

石川地域<①北部東地域>【地域将来像】

- ・豊かな自然と調和した文化を彩る集約型都市の形成

【基本方針】

- ・本市の北の玄関口として、交通及び物流拠点の形成
- ・アクセス性の高さを生かした滞在型観光空間の創出及び交流人口を増進する産業集積

石川地域<②北部西地域>【地域将来像】

- ・豊かな自然と伊波城跡などの歴史文化が織りなす活力とやすらぎのあるまち

【基本方針】

- ・自然環境を活用した観光等産業誘導による地域活性化

具志川地域<③中部北地域>【地域将来像】

- ・人と風土がつくるやすらぎとふれあいのまち

具志川地域<④中部南地域>【地域将来像】

- ・県中部都市圏の発展と定住を牽引し、歩いて楽しい賑わいのあるまち

具志川地域<⑤南部臨海地域>【地域将来像】

- ・商工業・農業・住環境が調和し、人々の交流と活力のあるまち

【基本方針】

- ・観光交流拠点となりうるマルシェ等の交通結節機能の強化

勝連地域<⑥東部地域>【地域将来像】

- ・豊かな自然環境を守りながら、勝連城跡などの歴史伝統文化を活用した賑わいのあるまち

【基本方針】

- ・歴史・文化や自然が持つ観光資源と住環境が共存した、うるおいと賑わいのあるまちの形成
- ・勝連城跡周辺のまちづくりから生まれる新たな交流と発展の創出

〇島しょ地域【地域将来像】

- ・多様な資源を活用した地域振興による賑わい魅力ある島々

【基本方針】

- ・交流人口・関係人口の増加
- ・自然・歴史・文化的景観を活用した魅力ある観光拠点の形成
- ・地域資源を活用した移住・定住の促進
- ・地域振興に結びつく交通ネットワークの構築

(7) うるま市石川地域まちづくり推進計画【令和4（2022）年度】

【概要】

「公民連携による地域の経済活性化」に主眼を置き、地域の将来像やまちづくりの基本方針を明確化している。プロジェクトの実現方策や優先順位を示すことで、住民の理解や協働によるまちづくり、事業者の参画や投資の促進を図り、実効性のあるまちづくりに繋げることを目的としている

【関連項目（抜粋）】

第4章 石川地域の目指す姿

2. 石川地域の将来像

中南部と北部をつなぐゲートウェイとして多くの人が訪れ暮らす賑わいのあるまち

4. まちづくり推進に向けたプロジェクト

プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～」 ※★

プロジェクト2「石川庁舎周辺の利活用推進」 ※★

プロジェクト3「石川市民の森公園のリニューアル」

プロジェクト4「子育て・福祉」複合施設の整備」

プロジェクト5「国道329号沿道の新たな土地利用」 ※★

プロジェクト6「（仮称）うるまICの整備推進及び新たな産業誘致の検討」

プロジェクト7「東恩納周辺の新たな土地利用」

※★印は石川地域の将来像の実現に向けたまちづくりを進めていくうえで重要なプロジェクト（リーディングプロジェクト）として位置づけている。

(8) うるま市勝連・与那城地域まちづくり推進計画【令和4（2022）年度】

【概要】

「公民連携による地域の経済活性化」に主眼を置き、地域の将来像やまちづくりの基本方針を明確化している。プロジェクトの実現方策や優先順位を示すことで、住民の理解や協働によるまちづくり、事業者の参画や投資の促進を図り、実効性のあるまちづくりに繋げることを目的としている

【関連項目（抜粋）】

第4章 勝連・与那城地域の目指す姿

2. 勝連・与那城地域の将来像

歴史・文化・自然などの特色ある地域資源が継承され、多くの人を惹きつける魅力あふれるまち

4. まちづくり推進に向けたプロジェクト

プロジェクト1「勝連城跡周辺の魅力向上」 ※★

プロジェクト2「海中道路やあやはし館・ロードパークの魅力向上」 ※★

プロジェクト3「旧与那城庁舎周辺及び県道37号線沿道の利活用推進
～（仮称）あやはしスポーツビレッジ～」 ※★

プロジェクト4「勝連地域における既存ストックの利活用推進」

プロジェクト5「きむたかホールの機能強化による文化観光ネットワークの構築」

プロジェクト6「島しょにおける民間活力導入の推進」

プロジェクト7「広域からの誘客促進及び回遊性向上」

※★印は勝連・与那城地域の将来像の実現に向けたまちづくりを進めていくうえで重要なプロジェクト（リーディングプロジェクト）として位置づけている。

3. うるま市の観光の実態

3.1 地域資源及び観光入込客数

(1) 主な観光資源

うるま市における主な観光資源は以下の通りです。

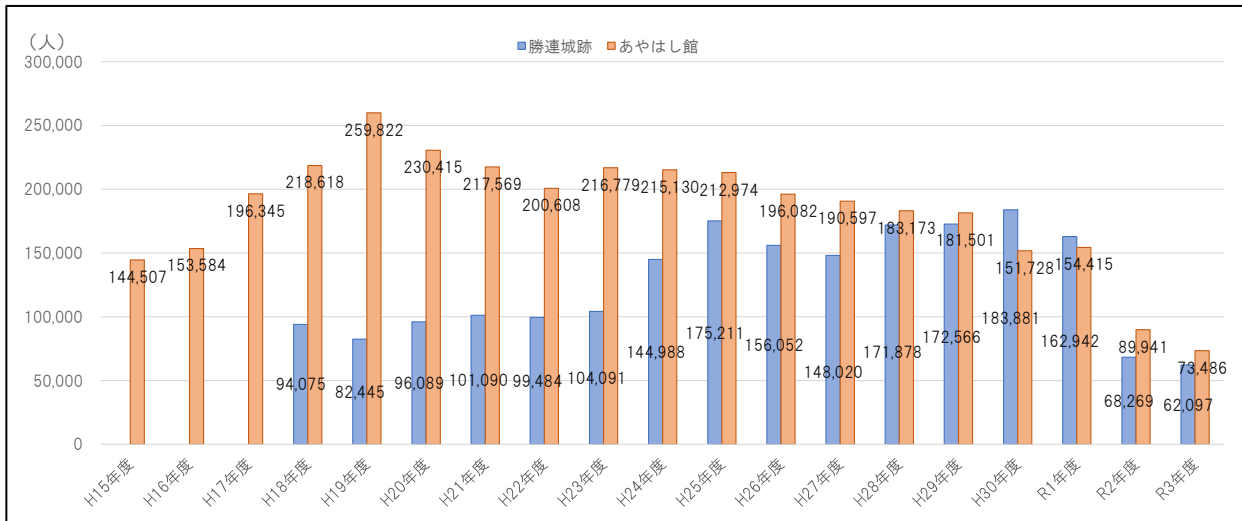


出典：うるま市観光マップ（うるま市観光物産協会）

(2) 観光入込客数

■勝連城跡の入域観光客数は、平成 18 (2006) 年度から緩やかに増加していたものの、平成 30 (2018) 年度をピークに減少。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和 2 (2020) 年度、令和 3 (2021) 年度は平成 30 (2018) 年度の半分以下と、入域観光客数は大きく減少しています。

■あやはし館の入域観光客数は、平成 15 (2003) 年度から増加していたものの、平成 19 (2007) 年度以降、入域観光客数は緩やかに減少しています。また、勝連城跡と同様に 令和 2 (2020) 年度では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和 2 (2020) 年度、令和 3 (2021) 年度は平成 19 (2007) 年度の 1/3 程度と、入域観光客数も更に減少しています。



出典：うるま市 HP「うるま市観光の推移」及び市提供データ

3.2 観光客・市民・事業者を対象としたアンケート調査結果からの示唆

本ビジョンを検討するにあたり、観光客アンケート・市民アンケート・事業者アンケートより、うるま市の観光特性を整理しました。

【観光客アンケート調査】

◇調査対象：18歳以上の県内外の観光客かつコロナ禍以降（令和2（2020）年度4月以降）に来訪した方。

◇調査方法：WEB調査

【市民アンケート調査】

◇調査対象：無作為抽出した3,500人の18歳以上のうるま市民を対象。765票を回収。

◇調査方法：郵送による調査及びWEB調査

【事業者アンケート調査】

◇調査対象：うるま市内の事業者（約100事業者）を対象とし、42事業者より回答。

◇調査方法：郵送による調査及びWEB調査

＜観光客アンケート調査より得られる示唆＞

過年度の観光客アンケート調査との比較を行い、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間（以下、コロナ禍と略す）の前後の観光客の動向の変化等を把握しました。コロナ禍は令和2（2020）年度4月以降としました。

＜観光入込客数＞

■勝連城跡は、平成18（2006）年度から緩やかに増加していたものの、平成30（2018）年度をピークに減少しています。あやはし館の入域観光客数は、平成19（2007）年度以降、入域観光客数は緩やかに減少しています。両施設ともにコロナ禍以降は大幅に減少しています。

＜観光客の属性＞

■居住地は「関東地方」が多く、次いで「近畿地方」が多くなっています。過年度と比較すると「関東地方」、「近畿地方」のみが増加し、その他の地方が減少しています。

■市内への泊数は「日帰り」が最も多く、次いで「1泊」が多くなっています。過年度と比較すると「日帰り」「2泊」「5泊以上」が増加し、「1泊」が減少しています。

■来訪目的は、「観光地巡り」が最も高く、次いで「沖縄料理を楽しむ」などが続いています。過年度と比較すると「観光地巡り」が減少し、「仕事」、「離島巡り」が増加しています。

■来訪箇所は、「海中道路」、「海の駅あやはし館」、「ビオスの丘」への訪問が多くなっています。過年度と比較すると「果報バンタ」「ぬちまーす」「離島」が増加し、「ビオスの丘」「海、マリンレジャー」「勝連城跡」は減少しています。

※【平均訪問箇所数】令和4（2022）年度：2.6箇所、平成28（2016）年度：2.4箇所

＜観光満足度＞

■満足度の傾向は過年度と変わらず、大変満足割合は、「海の美しさ」が一番高く5割を超えています。次いで「景観」となっております。過年度と比較し、「土産」、「食事」の「大変満足」は減少しているものの、やや不満・とても不満の割合も減少しています。

【観光客・市民・事業者アンケート調査より得られる示唆】

＜うるま市観光の将来像＞

■観光客「地域の食材を活かした食」、市民「県内客・地元住民を楽しめる」「伝統芸能やイベントを活かす」、事業者「緑や海などの自然豊か」「マリンレジャーや琉球文化等の様々な体験が楽しめる」が他より高くなっています。

＜うるま市の観光振興に必要なこと＞

■いずれも「交通アクセスの充実」は最も高い項目となっています。

■観光客「商店等の充実」「宿泊施設の充実」、市民「環境の整備（地域の美化等）」、「行事やイベントの充実」「伝統や歴史文化の継承」、事業者は「市内移動の充実」「プロモーションの強化」「自然環境の保全」が他より高くなっています。

＜観光振興が進むことで心配される影響＞

■事業者、観光客は「自然環境の破壊が進む」が「市民」より高くなっています。

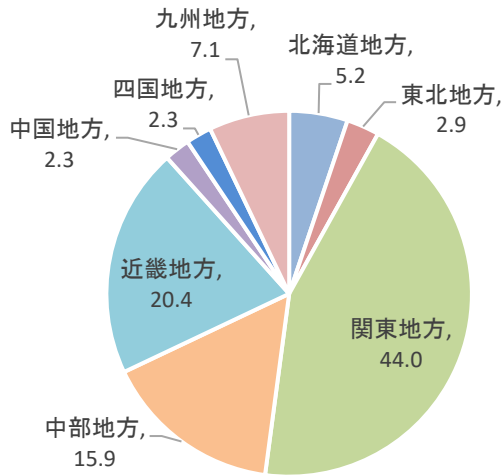
■事業者は外国人観光客への対応も高くなっています。

■市民は「交通渋滞・路上駐車」「住環境」「新型コロナの感染拡大」が高くなっています。

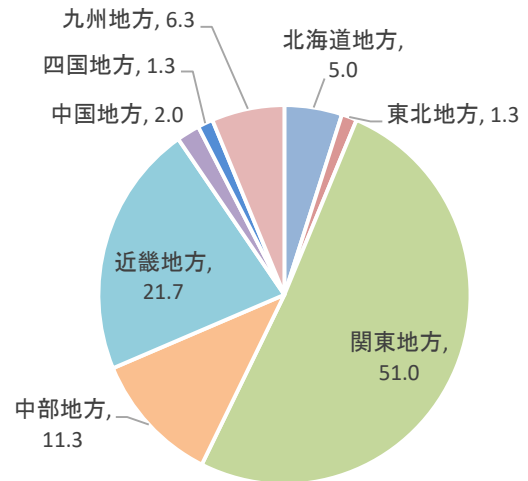
(1) うるま市の来訪属性

■居住地は「関東地方」が多く、次いで「近畿地方」が多くなっています。

■過年度と比較すると「関東地方」、「近畿地方」のみが増加し、その他の地方が減少しています。



【H28 年度県外観光客 (n=309)】

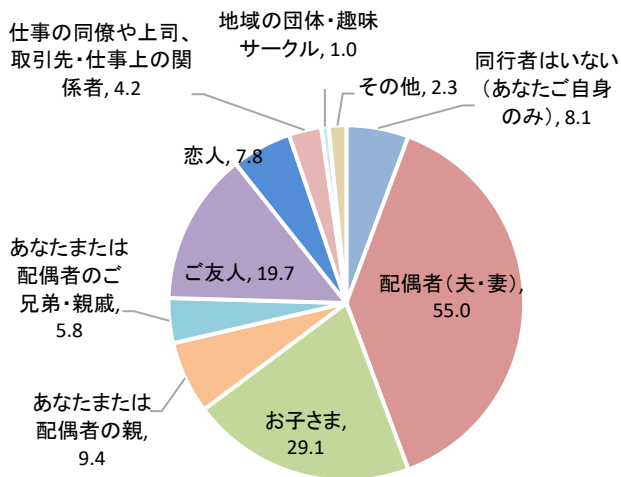


【R4 年度県外観光客 (n=300)】

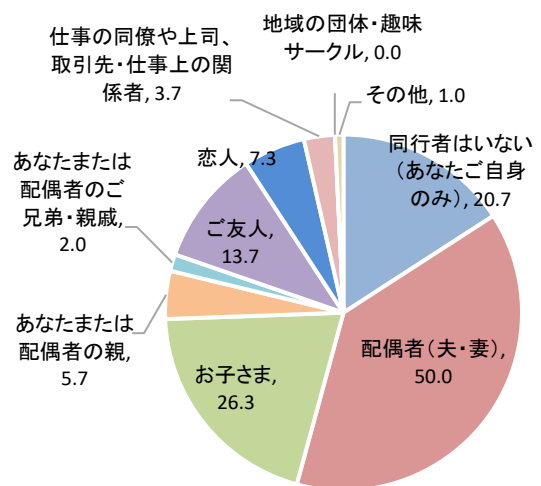
(2) うるま市の来訪属性 (同行者)

■同行者は「配偶者」が最も多く、次いで「お子さま」が多くなっています。

■過年度と比較すると「同行者はいない」が増加しています。



【H28 年度県外観光客 (n=309)】

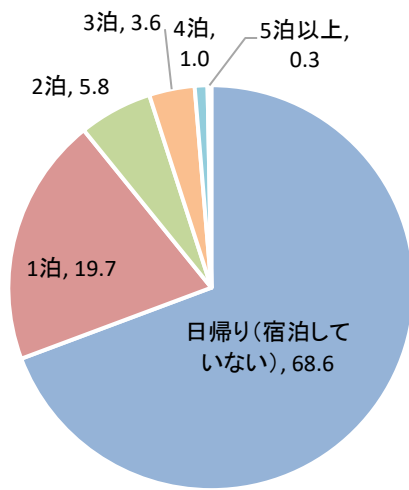


【R4 年度県外観光客 (n=300)】

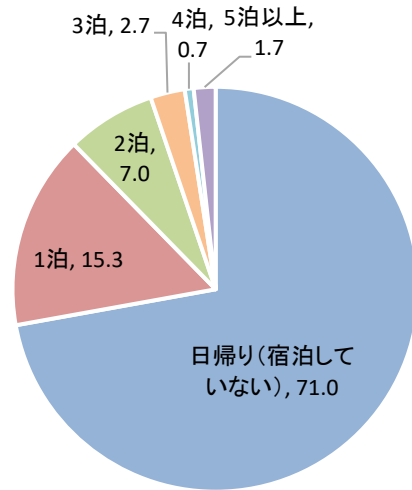
(3) うるま市内の泊数

■うるま市内への泊数は「日帰り」が最も多く、次いで「1泊」が多くなっています。

■過年度と比較すると「日帰り」「2泊」「5泊以上」が増加し、「1泊」が減少しています。



【H28年度県外観光客 (n=309)】

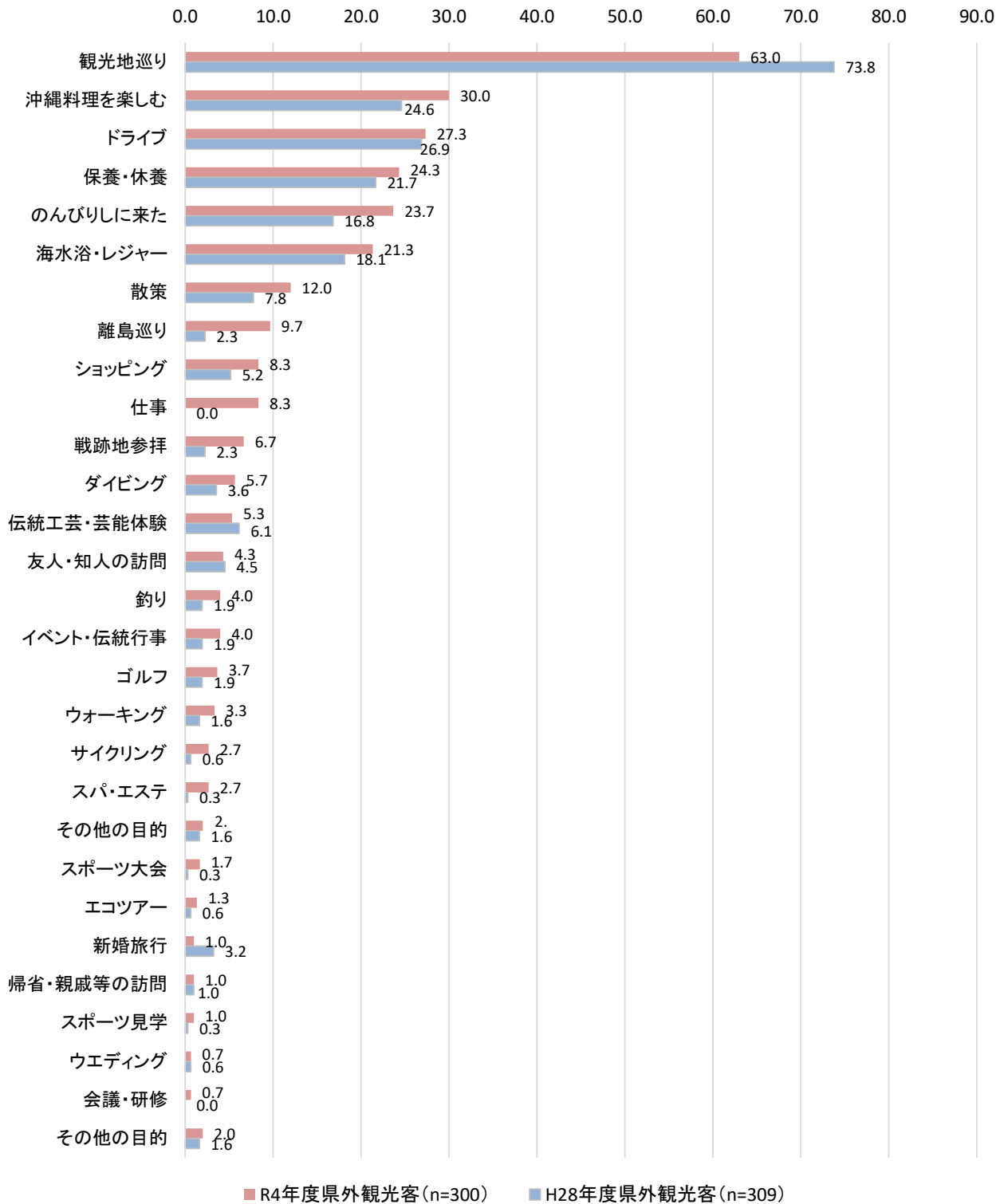


【R4年度県外観光客 (n=300)】

(4) うるま市への来訪目的

■「観光地巡り」が最も多く、次いで「沖縄料理を楽しむ」などが続いています。

■過年度と比較すると「観光地巡り」が減少し、「仕事」、「離島巡り」が増加しています。

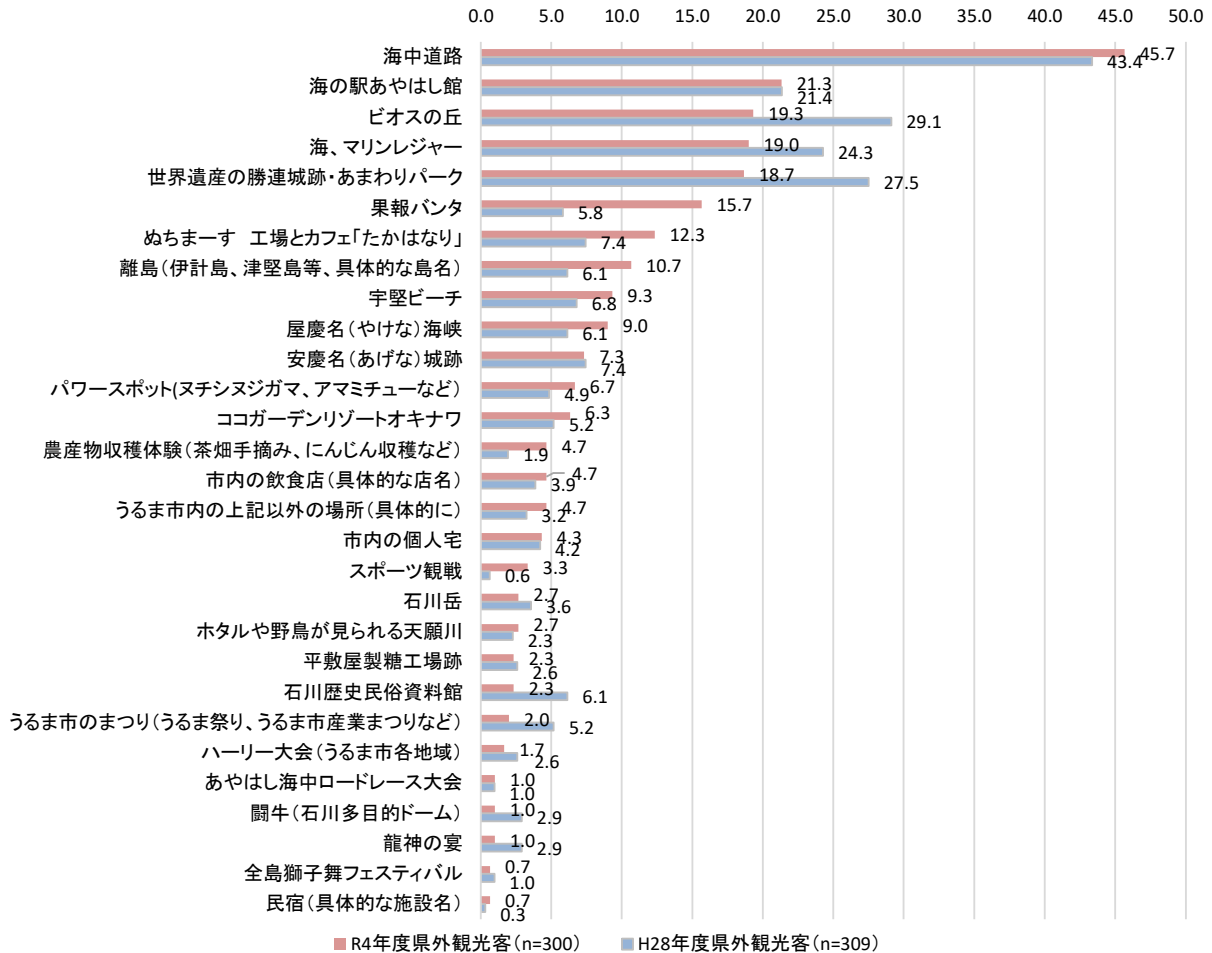


(5) うるま市内の訪問箇所

■「海中道路」、「海の駅あやはし館」、「ピオスの丘」への訪問が多くなっています

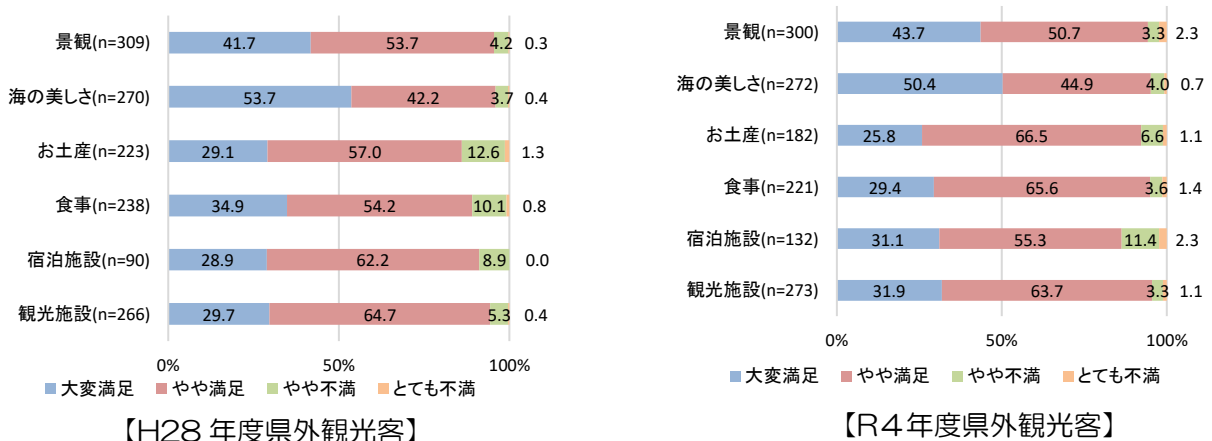
■過年度と比較すると「果報バンタ」「ぬちまーす」「離島」が増加しています。「ピオスの丘」「海、マリンレジャー」「勝連城跡」は減少しています。

※【平均訪問箇所数】令和4（2022）年度：2.6箇所、平成28（2016）年度：2.4箇所



(6) うるま市観光の満足度

■満足度の傾向は過年度と変わらず、大変満足 of 割合は、「海 of 美しさ」が一番多く5割を超えています。次いで「景観」となっています。過年度と比較し、「土産」、「食事」 of 「大変満足」は減少しているものの、やや不満・とても不満 of 割合も減少しています。

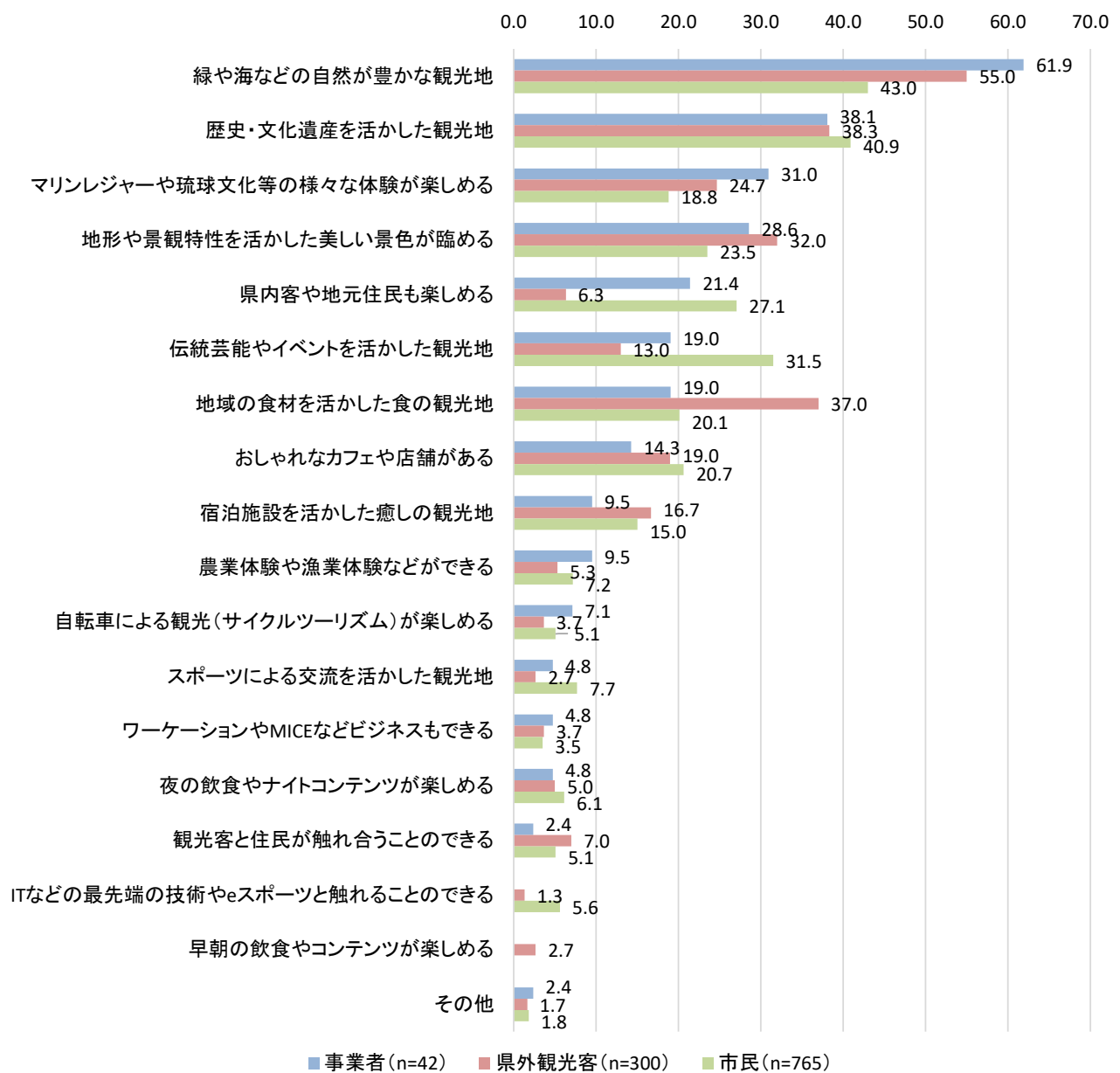


<観光客・市民・事業者アンケート調査より得られる示唆>

観光客・市民・事業者アンケート調査結果から、うるま市の今後の観光の方向性等において、各視点からの意向を整理しました。

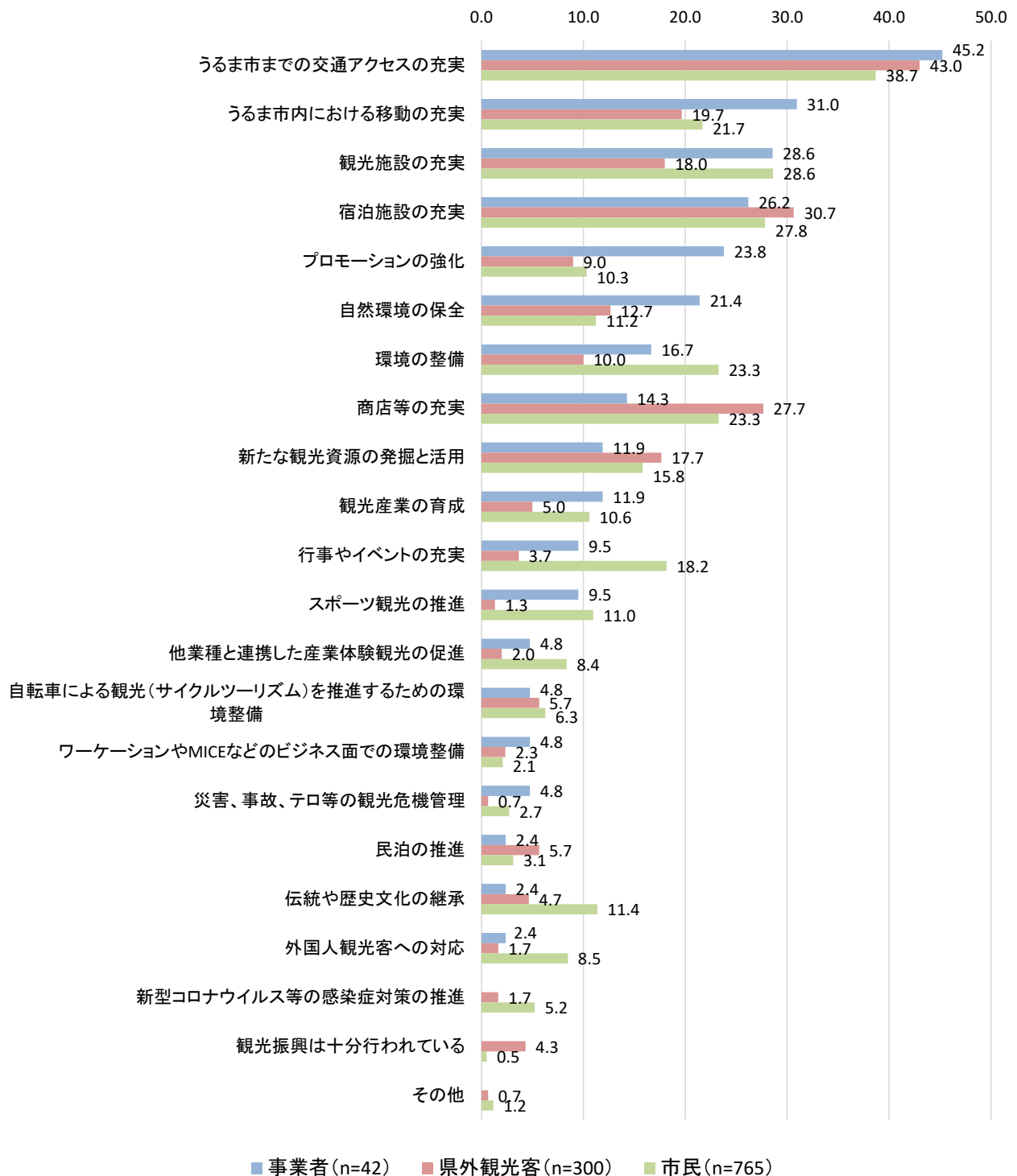
(7) うるま市観光の将来像

- 観光客は「地域の食材を活かした食の観光地」が他より多くなっています。
- 市民は「県内客や地元住民も楽しめる」「伝統芸能やイベントを活かした観光地」が他より多くなっています。
- 事業者は「緑や海などの自然豊かな観光地」「マリレジャーや琉球文化等の様々な体験が楽しめる」が他より多くなっています。



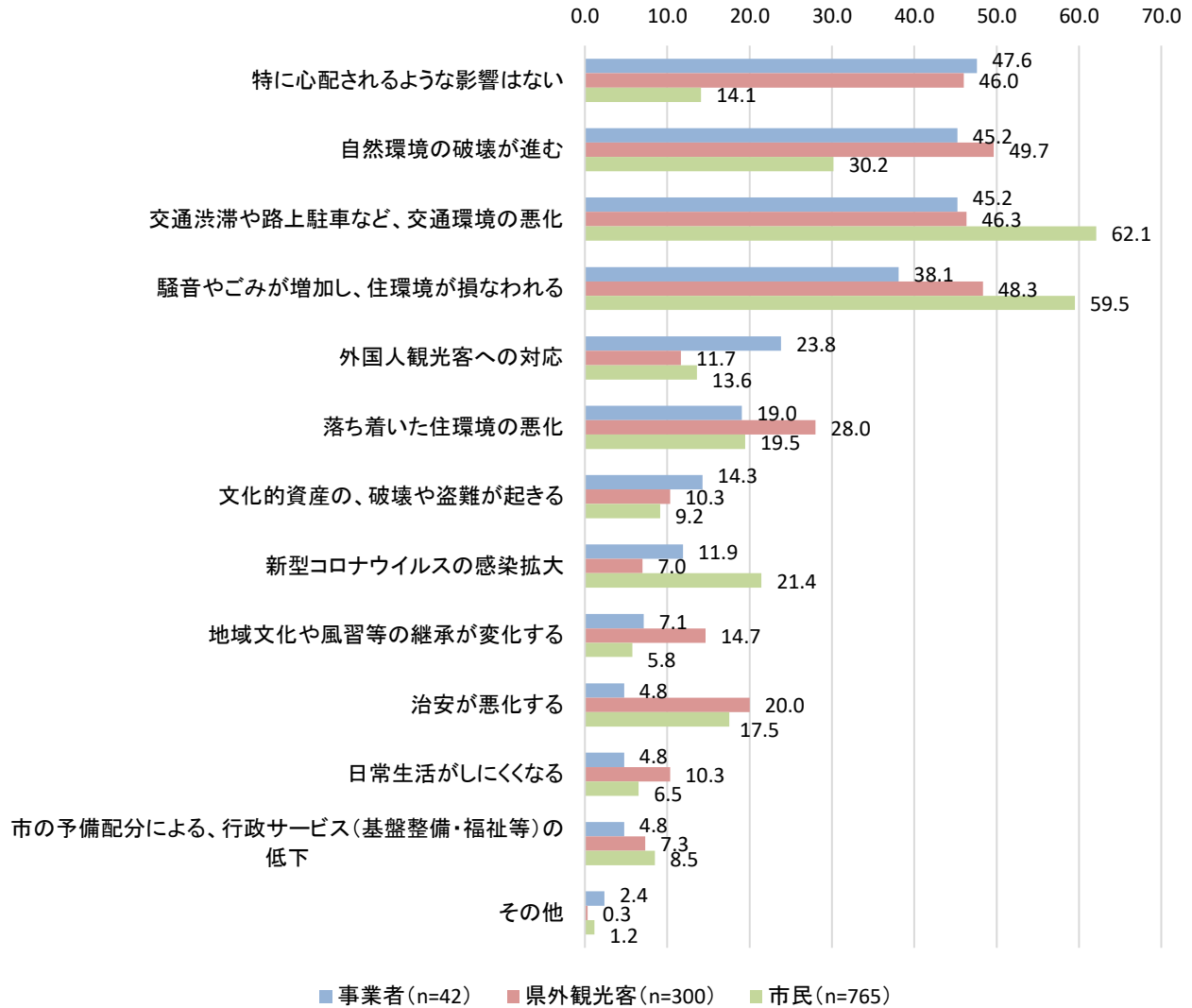
(8) うるま市の観光振興に必要なこと

- いずれも「交通アクセスの充実」は最も多くなっています。
- 観光客は「商店等の充実」「宿泊施設の充実」が他より多くなっています。
- 市民は「環境の整備（地域の美化等）」や「行事やイベントの充実」「伝統や歴史文化の継承」が他より多くなっています。
- 事業者は「市内移動の充実」「プロモーションの強化」「自然環境の保全」が他より多くなっています。



(9) 観光振興が進むことで心配される影響

- 事業者、観光客は「自然環境の破壊が進む」が「市民」より多くなっています。
- 事業者は外国人観光客への対応も多くなっています。
- 市民は「交通渋滞・路上駐車」「住環境」「新型コロナの感染拡大」が多くなっています。



4. 改定前ビジョンの振り返り

4.1 目標値の達成状況

第2次うるま市観光振興ビジョンでは、以下7つの数値目標を位置づけています。計画の目標値の達成状況は以下の通りです。

表：第2次観光振興ビジョンの目標値と実績値の比較

指標	基準値	目標値 (R3)	実績値 (R3)	対目標値比
指標1 うるま市へのリピーター率 (県外観光客)	30.9%	50%	60.9%	10.9%
指標2 沖縄県への来訪者がうるま市へ来訪する割合 (県外観光客)	13.9%	23%	16.7%	-6.3%
指標3 主要観光施設の入場者数 (あやはし館と勝連城跡)	355,051 人	430,000 人	133,583 人	-294,417 人
指標4 一人あたり市内観光消費額 (県外観光客)	お土産：2,826 円 飲食費：3,030 円	お土産：3,730 円 飲食費：4,000 円	お土産：2,729 円 飲食費：3,056 円	お土産：-1,001 円 飲食費：-944 円
指標5 うるま市内の宿泊日数 (県外観光客)	0.6 泊	0.8 泊	0.6 泊	-0.2 泊
指標6 うるま市観光の満足度 (県外観光客)	お土産：62.1% 食 事：68.6%	お土産：75.0% 食 事：80.0%	お土産：79.3% 食 事：72.2%	お土産：-0.7% 食 事：-2.8%
指標7 うるま市で食事をしている人、お土産を購入している人の割合 (県外観光客)	お土産：72.2% 食 事：77.0%	お土産：80.0% 食 事：86.0%	お土産：49.7% 食 事：65.8%	お土産：-30.3% 食 事：-20.2%

表：第2次観光振興ビジョンの目標値の達成状況及び評価
 (評価 ○：中間目標値超え、△：一部未達、×未達(数値の見直しが必要))

指標	達成状況	評価
指標1 うるま市へのリピーター率 (県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> リピーター率は大幅に増加。コロナ禍における、うるま市来訪者を対象としているため、リピーターの割合が過年度調査より高い傾向にある。 	○
指標2 沖縄県への来訪者がうるま市へ来訪する割合 (県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> うるま市への来訪割合は県外観光客を対象とし、累積値となるため、今後増加が見込まれる。令和3(2021)年度の割合は、基準年を上回る結果となったが、目標値には達していない。 それ以外の年度では基準年を下回っている。 	△
指標3 主要観光施設の入場者数 (あやはし館と勝連城跡)	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、入込客数は大幅に減少している。令和3(2021)年度の入込客数は、緊急事態宣言などの影響により、基準年の半数以下、目標値の1/3の入込となっている。 今後、アフターコロナによる観光客の回復により、令和3(2021)年度以上の入込は見込めるが、基準年、目標年までの入込まで回復するかは不透明である。 	×
指標4 一人あたり市内観光消費額 (県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> 土産代は3千円弱、飲食費は3千円程度で推移しており、目標値の金額までは達していない。新型コロナウイルス感染症対策の観光振興施策により、沖縄県では令和2(2020)年度、令和3(2021)年度の飲食費は増加傾向にある。 	△
指標5 うるま市内の宿泊日数 (県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> 基準値の0.6泊から1泊弱で推移しており、平成30(2018)年度は目標の0.8泊を上回っている。 	○
指標6 うるま市観光の満足度 (県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> お土産、食事ともに満足度は目標値まで達していない。利用者の満足度が低下しているのではなく、滞在時にお土産未購入、食事をしていない観光客の割合が増加し、相対的に満足度が低くなる傾向にある。 	△
指標7 うるま市で食事をしている人、お土産を購入している人の割合(県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> お土産、食事ともに購入率は目標値まで達していない。お土産に関しては基準年の割合が非常に高く、目標値の見直しが必要である。また、指標6の未利用者の値と同じ傾向であることから、指標の統合も必要である。 	—

4.2 施策の進捗状況

第2次うるま市観光振興ビジョンの展開施策の実施状況を確認するとともに、計画の推進状況について調査・検証を行い、改定に向けた評価を行いました。

第2次うるま市観光振興ビジョンで掲げた12の基本施策に対する36の施策の進捗状況は、「継続実施」：6施策、「一部内容を変更して施策継続」：23施策、「実施体制を見直して施策継続」：5施策、「他の施策への統合」：1施策、「施策の実施が困難」：1施策、「完了」：0施策という状況です。

特に、重複する取組みの施策が含まれることから、他の施策への完全統合、一部内容を変更して複数の施策の統合を図ることが求められます。

▼第2次うるま市観光振興ビジョンの施策の取り組み状況（1）

◎：継続実施／○：一部内容を変更して施策継続／●：実施体制を見直して施策継続／▲：他の施策への統合／×：施策の実施が困難／－：完了

基本方針	基本施策	施策	評価
基本方針1. うるま市の統一イメージ形成	1.1 うるまブランドの構築	①世界遺産勝連城跡の魅力と価値の向上	○
		②海中道路から島しょ地域の魅力づくり	○
		③闘牛などのうるまらしい伝統文化・芸能を活かしたまちの魅力向上	○
		④食の魅力づくり	○
	1.2 効果的な情報発信	①メディア戦略の展開	○
		②インターネット等を利用した魅力的な情報発信	○
基本方針2. 美しい観光まちづくりと観光機能の充実	2.1 美しい自然景観とまちなみ整備	①緑でつなぐ沿道整備	◎
		②うるまらしいまちなみづくり、自然景観保全	○
		③環境基本計画に基づく環境の保全と創出	○
	2.2 観光拠点の魅力創出と機能強化	①あやはし館、ロードパークの魅力創出と機能強化	◎
		②勝連城跡周辺整備の推進	◎
		③石川IC周辺整備の推進	○
		④島しょ地域の魅力づくり	○
		⑤アクセス機能の強化	○
		⑥その他の観光関連施設整備の推進	○

▼第2次うるま市観光振興ビジョンの施策の取り組み状況(2)

◎：継続実施／○：一部内容を変更して施策継続／●：実施体制を見直して施策継続／
▲：他の施策への統合／×：施策の実施が困難／—：完了

基本方針	基本施策	施策	評価
基本方針3. 地域の魅力を 活用した観光 消費拡大の仕 掛けづくり	3.1 観光消費の拡大	①地域資源の掘り起こしと着地型観光の推進	○
		②食のコンテンツづくり、観光と農業・水産業の連携	○
		③着地型観光プログラムの開発、販売	●
	3.2 滞在型観光地へ の転換	①宿泊施設の確保	○
		②地域特性を活かした滞在型観光コンテンツづくり	○
		③スポーツツーリズムの推進	◎
		④MICEの推進	○
	3.3 通年型観光の推 進	①既存イベントの継続推進	○
		②新規イベントの開発と誘致の強化	○
基本方針4. 観光推進体制 の構築とマー ケティングの 推進	4.1 観光動向調査・ 分析	①観光統計データの収集・整理と観光動向・消費動向 の分析	●
	4.2 中核人材の育成 と観光推進体制 の構築	①データ分析に係る人材確保、育成	▲
		②うるま市版DMOの検討	×
	4.3 広域連携の構築	①東海岸ルート形成における広域連携の推進	◎
		②恩納村エリアからの誘客連携	◎
		③クルーズ船受入れに関する連携	●
基本方針5. 受入体制整備 とおもてなし の充実	5.1 受入体制の整備	①観光案内所の設置	○
		②外国人観光客の受入体制整備	○
		③観光危機管理対策の推進	○
	5.2 おもてなしの充 実	①ユニバーサルツーリズムの推進	●
		②専門的な人材の確保と育成	○
		③シビック・プライドとおもてなしの醸成	●

4.3 過去5年の総括

第2次うるま市観光振興ビジョンの36の施策の取り組み状況から、過去5年間の総括及び、本ビジョンへの継承に向けた課題の整理を行いました。

12の基本施策に対する、本ビジョンへの継承に向けた評価を踏まえ、継承すべき施策については継続的な取り組みを推進していきます。

▼第2次うるま市観光振興ビジョン改定版への継承に向けた課題

基本方針	基本施策	第2次うるま市観光振興ビジョン（改定版）への継承に向けた課題
基本方針1. うるま市の統一イメージ形成	1.1 うるまブランドの構築	<ul style="list-style-type: none"> 勝連城跡、肝高の阿麻和利、闘牛、伝統エイサーなどの独自の文化、歴史、海中道路からの景観等のさらなるブランド化に向けたコンセプトの設定 勝連城跡周辺整備の活用（PFI等への取り組み、都市公園の整備） もずく、津堅人参、黄金芋、ピーグなどの名産品等を活用
	1.2 効果的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 多様なメディアを活用した戦略的なプロモーション ターゲット設定を意識したメディア広報 観光大使の有効活用・地域キャラクターの活用 市、観光物産協会のプロモーション活動の棲み分け 観光情報を正確に分かりやすくする仕組みづくり（SNS等）
基本方針2. 美しい観光まちづくりと観光機能の充実	2.1 美しい自然景観とまちなみ整備	<ul style="list-style-type: none"> 観光に資する景観形成（伊計島） 地域住民の生活の妨げにならないマネジメント、持続可能な観光地形成 公民連携（P-PFI、設置管理許可等）による公園の観光利用
	2.2 観光拠点の魅力創出と機能強化	<ul style="list-style-type: none"> あやはし館とロードパークの一体的な連携を推進 旧石川庁舎、旧与那城庁舎の活用、まちづくり計画の連携 観光客も利用可能な公共施設間連絡バスの路線、時刻表見直し 環境に配慮した交通整備、MaaSの推進
基本方針3. 地域の魅力を活用した観光消費拡大の仕掛けづくり	3.1 観光消費の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源の掘り起こし、観光資源データベースの構築・活用 観光客への地域消費拡大に向けた周遊観光の促進
	3.2 滞在型観光地への転換	<ul style="list-style-type: none"> 新たな観点（ワーケーション、サンライズ観光等）の推進 プロ野球のキャンプによる誘客、スポーツを通じた交流促進等による地域活性化
	3.3 通年型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> 観光客のイベントに対するニーズの把握 関係各課及び関係団体が連携したプロモーション活動の推進
基本方針4. 観光推進体制の構築とマーケティングの推進	4.1 観光動向調査・分析	<ul style="list-style-type: none"> 市観光部局と観光物産協会の分担の明確化 観光誘客のターゲットの明確化
	4.2 中核人材の育成と観光推進体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 観光物産協会の在り方や役割、体制の明確化・強化 データの詳細分析が可能な人材育成及び確保
	4.3 広域連携の構築	<ul style="list-style-type: none"> 隣接市との連携（プロスポーツキャンプ・イベント関係の沖縄市） クルーズ船寄港時の体制の構築
基本方針5. 受入体制整備とおもてなしの充実	5.1 受入体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 多言語化、キャッシュレス化、Wi-Fi等の整備推進 観光案内所の整備（あまわりパーク周辺／ロードパーク）
	5.2 おもてなしの充実	<ul style="list-style-type: none"> 着地型観光推進の人材育成、地域的なガイドの育成 うるま祭り等によるシビックプライドの醸成

第2章 うるま市観光のこれからの取り組み課題

本ビジョン（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）におけるうるま市の観光が抱える取り組み状況や、近年のうるま市の観光の実態や整備状況等を踏まえ、さらなる観光振興の実現に向けて、今後の取り組むべき5つの課題を抽出しました。

■観光資源のブランディング、プロモーションの展開

- うるま市内には、「海中道路から島しょ地域」、「世界遺産勝連城跡」など認知度が高い資源がありますが、その資源を活用したプロモーションの統一イメージが明確に定められておらず、県外観光客からの認知度は、他の自治体よりも低いことが想定されます。
- うるま市観光のブランディングとして、知名度の高い「海中道路から島しょ地域」、「世界遺産勝連城跡」を中心としたさらなる「ブランド」化を図るとともに、プロモーションの全体コンセプトの検討や、観光誘客のターゲットを想定したメディア広報を図っていく必要があります。

■豊かな自然など、有形・無形の地域資源の利活用と保全

- 世界遺産勝連城跡、闘牛、エイサー、獅子舞、ハーリー、肝高の阿麻和利などの独自の文化や歴史、海中道路や島しょ地域における景観、もずく等の食といった有形・無形の地域資源が多くありますが、特性を活かした利活用や、保全が課題です。
- これら有形・無形の地域資源（ソフトパワー）の効果的な保全や、市民・市外からの観光客に対する体験型観光の提供や商品化を図ることにより、域内観光の消費を生み出すことや、伝統文化の保全の人材育成、シビックプライドの醸成を図ることが重要です。

■まちなみづくりと公民連携による観光拠点の機能強化

- うるま市は豊かな自然や景観が魅力ですが、街路樹や道路の舗装、沿道看板の整備が課題です。観光客の再来訪意欲の向上のために自然景観や景観資源、沖縄らしいまちなみの継続的な保全・整備の推進が重要です。
- 前ビジョン策定後、東照間商業等施設（TERUMA）、あまわりパーク、うるマルシェなどの観光拠点が整備されてきました。
- 今後も勝連城跡周辺、あやはし館・ロードパーク、石川IC周辺などの整備を進めることで観光拠点の機能強化による魅力創出が重要です。

■ 滞在型観光の推進による観光客数の拡大・消費単価の向上

- うるま市内には、丘陵地から半島、平地、湾、島しょ地域など、多様で独特な地形や景観が凝縮しており、農業や水産業と連携した各種体験プログラム等が展開されています。また、近年では、スポーツ振興として、スポーツコンベンションの推進、サイクルツーリズム（東海岸、島しょ地域）の推進も展開しています。
- 来訪観光客の半数程度が、地域の景観や文化に触れあう旅行で訪れており、通過型の形態の観光が見受けられることから、滞在型観光の推進が重要な課題と考えます。上記の滞在型観光のプログラムの展開、東海岸魅力強化としてのサンライズ観光の推進、ワーケーションなど新たな観点での観光促進を図りながら、立ち寄り客の長時間滞在、宿泊者向けの体験プログラムの充実が重要です。

■ 関係者間の連携、受入体制の整備、市内各地域やセグメント別の観光テーマの設定

- 前ビジョン策定後、観光部局が中心となりながら、庁内の各課や観光関連団体（観光物産協会、商工会）が連携して施策を進めていくことが重要です。
- うるま市内においての観光振興の現状や課題、方針等も地域別で異なることが想定されます。
- そのため、庁内観光部局と観光物産協会が連携を図りながら、観光振興の方向性や受入体制の整備を図るとともに、地域の歴史・文化などによる観光のゾーニングを図りながら、各地域のテーマ設定を行い、観光振興ビジョンの施策を検討することが重要です。
- また、併せてセグメント別の特性を把握していくことが重要です。

第3章 うるま市の観光振興に向けた考え方

1. うるま市の観光の基本理念

- うるま市は、「サンゴ礁に囲まれた美しいまち」という意味をもっており、その言葉どおり、豊かな風景と自然環境に恵まれたまちです。東南部に広がる勝連半島の東方海上には、全長4.7kmの海中道路をはじめとして、有人、無人の8つの島々や海洋レジャーに適した海浜を有しており、東海岸特有の穏やかさを活かしたマリンスポーツが盛んに行われています。
- 歴史・文化では、平成12（2000）年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」に登録された世界遺産勝連城跡をはじめとして、県内随一の闘牛や各地域で特色を持つエイサー、獅子舞、ハーリー、肝高の阿麻和利など固有の風土に育まれた貴重な歴史文化がしっかりと受け継がれています。また、島しょ地域には、高台から眺める絶景や古民家が残る集落、沖縄の昔ながらの生活等、多種多様な地域資源を有しています。
- うるま市が観光客に選ばれ続ける、魅力ある観光地を形成するためには、うるま市の豊かな自然、素朴な風土、貴重な歴史・文化を、地域住民・観光関連団体及び行政が一体となって大切に保全、継承していくとともに、観光資源として活かすことで、うるま市らしい観光まちづくりに取り組んでいくことが重要です。
- そのためには、うるま市に住んでいる人々が、他の地域にはない自然、風土、歴史・文化を持っていることを知り、愛着と誇りを持つことが大切です。自分たちの地域を他の人に見てもらいたい、紹介したいという気持ちの高まりは、情報発信力の強さに繋がり、守り育てたい、もっと磨きたいという気持ちは、うるま市の魅力向上に繋がっていきます。
- これからの観光振興の方向性として、地域の活性化と持続的な観光の発展に向けて、地域の方々をはじめとする多様な関係者と連携して取り組んでいくとともに、うるま市の地域資源が持つ固有の特性を活かした様々な体験や滞在時間を提供していきます。そして、「住んでよし！自慢のまちをつくり、訪れてよし！自然・歴史・文化で感動を与え、受け入れてよし！明るくおもてなす～自慢のまちをつくり、感動を与える“うるま”～」の観光まちづくりを推進していきます。



2. うるま市の観光振興の基本方針

基本方針1 うるま市の統一イメージ形成

- うるま市の統一したイメージ形成に向けて、うるま市の中でも強みのある地域資源を核として、資源磨きと活用を図ることで「うるまブランドの確立」を目指します。
- これまで構築してきたホームページ、SNS等の各種メディアについて管理方法を見直すとともにコンセプトと誘客ターゲットを明確にした効果的な情報発信に取り組みます。
- ブランドの核となるうるま市の自然、文化などの地域資源の魅力向上を図ります。

基本方針2 美しい観光まちづくりと観光機能の充実

- うるま市の自然や景観、施設等の地域資源について、関係者と連携しながら保全や整備を進め観光機能を図ります。
- 多くの観光客が訪れる島しょ地域では地域住民の生活の妨げとならないよう観光地マネジメントの構築を図ります。
- 勝連城跡周辺、あやはし館・ロードパーク、石川IC周辺等の観光の拠点となる施設については公民連携を視野にさらなる魅力創出や機能強化を推進します。

基本方針3 地域の魅力を活用した観光消費拡大の仕掛けづくり

- 観光客のうるま市内の消費額を高めるために着地型体験プログラムや多様なツーリズムを展開し、セグメントごとの周遊観光を促進します。
- うるま市の課題である市内宿泊日数の延伸に向けては、既存宿泊施設との連携、新規宿泊施設の整備を推進します。
- イベント等を活用した更なる誘客促進を推進します。
- 一年を通じた観光の平準化を図るため、スポーツツーリズム及びワーケーションを推進します。

基本方針4 観光推進体制の構築とマーケティングの推進

- うるま市の観光振興を推進するにあたって行政、観光物産協会、観光関連事業者、関連団体との強固な推進体制を構築します。
- 東海岸地域や隣接する恩納村などの広域連携を図り、相互に補完しあう連携体制を構築します。
- うるま市の観光実態を把握するため継続的な基礎調査の実施と分析を推進します。
- 分析結果をもとに誘客ターゲットを明確化し、魅力ある多様な地域資源の効果的な情報発信に活用します。

基本方針5 受入体制整備とおもてなしの充実

- 外国人や高齢者、障がい者など多様な観光客の受け入れに向けた体制整備を図るとともに観光人材の育成・確保を推進します。
- 市内アクセスや市内周遊等の移動利便性の向上や市内観光関連施設の整備、観光危機管理体制を強固にし受入体制の充実を図ります。
- 市民が地域に誇りと愛着を持ち、おもてなしの心を醸成します。

3. 5年後（令和9（2027）年度）の目標値

- 本ビジョンは10年間の計画の改定版であることから、現行のビジョンに位置付けられている、数値目標の検証を行い、新たに令和5（2023）年度～令和9（2027）年度の「5年間の成長目標」を設定しました。
- 現行のビジョンに位置付けられていた7つの目標は県外客を対象とした目標設定（来訪割合、消費額、宿泊日数、満足度）が中心に設定されていました。
- 本ビジョンでは観光振興の基本となる①“経済”の視点に加え、②“観光客、③“社会（市民・事業者）”の観点で目指すべき目標値（KGI）を設定するとともに、後述する基本方針における重要業績指標（KPI）を位置づけています。

<目標値（KGI）>

区分	指標	現状値	数値目標 (5年後)	①目標設定の考え方 ②数値把握の方法
経済	指標1 主要観光施設の 入場者数	135,583人 (令和3年度)	550,000人	①上位計画である総合計画の目標値（令和2（2020）年度、令和8（2026）年度）の増加率を踏まえて設定 ②3施設の入込客数を基に算出
経済	指標2 一人あたり市内 観光消費額（県 外観光客）	土産：3,340円 飲食：5,354円 (令和4年度調 査)	土産：4,000円 飲食：6,000円	①土産代は、コロナ禍での長期滞在でもほとんど変動が無い（県統計）ことを踏まえ、現状値の1.2倍と設定 ①飲食費は、滞在型観光などで長期滞在することにより増加（県統計）を踏まえ、現行目標値の1.2倍と設定 ②従来通り、県外観光客でうるま市に来訪経験者を対象に、アンケート調査にて把握
観光客	指標3 うるま市観光の 満足度 (県外観光客)	土産：56.0% 飲食：70.0% (令和4年度調 査)	土産：66.5% 飲食：76.0%	①利用者の95%の満足度で設定。 ②従来通り、県外観光客でうるま市に来訪経験者を対象に、アンケート調査にて各費目の満足度を算出 ※本満足度には、「利用していない」の割合が含まれることから、「利用していない」の割合を外して満足度を再計算する方法も検討
社会	指標4 市民の幸福度	64.0% (令和4年度調 査)	74.0%	①市民アンケートの「とても思う」、「やや思う」の合算値を基準値とし、年2%の増加率をもって、5年後の目標値として設定 ②市民アンケート調査にて「観光が発展すると、あなたの生活も豊かになるか」を5段階評価で確認
社会	指標5 事業者の期待度	81.0% (令和4年度調 査)	86.0%	①事業者アンケートの「期待している」、「やや期待している」の合算値を基準値とし、年1%の増加率をもって、5年後の目標値として設定 ②事業者アンケート調査にて「うるま市の観光振興の取組の期待度」を5段階評価で確認

第3章 うるま市の観光振興に向けた考え方

<重要業績指標 (KPI) >

区分	指標	現状値	数値目標 (5年後)	①目標設定の考え方 ②数値把握の方法
方針 1	SNS フォロワー 数、市 YouTube の登録数	11,003 件 (令和5年2月)	23,000 件	①観光のプロモーションが高まると、認知率 も高まるため、市観光の部署及び観光物産 協会の SNS 等のフォロワー数、YouTube の登録数を設定 ②SNS 等の登録数を適宜把握
方針 2	リピーター率	74.0% (令和4年度調 査)	70.0%	①令和4(2022)年度は、直近3カ年の来 訪者を対象に実施。今後、コロナ禍より新 規での観光客の割合が増加する見込みで あり、リピーター率は減少することが想定 される。そのため、見直し年度の基準年よ り低下するものの、改定前の目標値 (70.0%)を据え置く ②従来通り、県外観光客でうるま市に来訪経 験者を対象に、アンケート調査にて把握す る
方針 3	プロスポーツ等 の誘致による経 済波及効果	27,128 千円 (令和元年)	65,108 千円	①総合計画、産業振興計画の成果目標値とし て位置づけ。それぞれの計画は令和8 (2026)年度までの期間であることか ら、一次曲線の割合で増加することで設定 ②総合計画、産業振興計画の調査結果を活用
方針 3	教育旅行数等の 誘致数	210 件 (令和元年)	216 件	①総合計画、産業振興計画の成果目標値とし て位置づけ。それぞれの計画は令和8 (2026)年度までの期間であることか ら、一次曲線の割合で増加することで設定 ②総合計画、産業振興計画の調査結果を活用
方針 3	宿泊日数	0.6 泊 (令和4年度調 査)	0.8 泊	①基準年から6年間に於いて調査年により 0.6泊~0.9泊の変動はあるものの1泊ま では増えていない。長期計画において旧庁 舎の跡地利用による宿泊施設の増加が見 込めるものの、本計画の目標値として5カ 年で0.2泊増を目指す ②従来通り、県外観光客でうるま市に来訪経 験者を対象に、アンケート調査にて把握す る
方針 4	来訪割合	42.2% (令和4年度調 査)	50.0%	①県外観光客を対象とし、累積値となること から、一定の増加割合を想定する。今後、 シティプロモーション等で首都圏の認知 度が高まった際に、新たな誘客、リピー ターの増加により、将来予測よりも増加が見 込まれることを考慮して設定 ②従来通り、県外観光客で沖縄県への来訪経 験者を対象に、アンケート調査にて把握す る。その際、うるま市のみならず、関連市 町村を把握することで、他都市との違いを 把握する

第4章 観光振興に向けた基本施策と展開施策

今後5年の観光振興に向けた、5つの基本方針、13の基本施策、35の展開施策の展開図を以下に示します。本計画では、特に重要な取組みとして、「基本施策 1-2. 地域資源の保全と活用による魅力向上」、「基本施策 2-2. 公民連携による観光拠点の機能強化と魅力創出」の2つの基本施策を重要プロジェクトとして位置付けるとともに、重要プロジェクト以外の重点的に推進する10の取組みを重点施策として位置付けます。



凡例：基本施策（赤枠）：重要プロジェクト（2） 展開施策（青枠・☆）：重点施策（10）

第4章 観光振興に向けた基本施策と展開施策

■令和5（2023）年度～令和9（2027）年度の5年で、取り組むことにより多くの目標値・重要業績指標の達成が見込まれる重要な基本施策を重要プロジェクトとして位置付けています。5年間の成長目標の達成に向け、うるま市だけでなく、各主体の役割分担及び市民協働と公民連携を図りながら、一丸になり以下の観光施策を推進していきます。

▼重要プロジェクト（基本施策）

基本施策 1.2 地域資源の保全と活用による魅力向上	基本施策 2.2 公民連携による観光拠点の機能強化と魅力創出
◆展開施策 3 世界遺産勝連城跡をはじめとした歴史資源の保全と活用による魅力向上 ⇒勝連城跡周辺をはじめとした観光客の受入環境の整備 ⇒歴史的価値・文化的価値の保全	◆展開施策 8 世界遺産勝連城跡周辺整備の推進 ⇒消費と滞在の観光拠点としての魅力創出（勝連城跡周辺整備） ⇒PFI手法を採用した公民連携による整備
◆展開施策 4 闘牛などのうるまらしい伝統文化資源の保全と活用による魅力向上 ⇒「闘牛振興協議会（仮称）」の設立を検討 ⇒「闘牛のまち・うるま」の推進	◆展開施策 9 海の駅あやはし館、海中道路ロードパークの機能強化と魅力創出 ⇒「ロードパーク活性化基本計画」の策定 ⇒公民連携による民間活力を導入した整備を推進
◆展開施策 5 島しょ地域を中心とした保全と活用による魅力向上 ⇒島しょ地域を中心とした、地域関係者や観光関連事業者と連携 ⇒適切な観光客の受入れを目指す観光地マネジメント、レスポンスフルツーリズムの推進	◆展開施策 10 石川IC周辺の交流拠点形成 ⇒ゲートウェイとしての立地を生かした交流拠点の形成 ⇒公民連携手法による事業化を視野に石川IC周辺整備を推進
◆展開施策 6 農水産資源を活かした食の魅力づくり ⇒うるまマルシェ等の市内観光拠点や物産展やイベント、アンテナショップ等での積極的なプロモーションし、地産地消の取組を推進	◆展開施策 11 旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線沿道の利活用推進 ⇒旧与那城庁舎周辺：サッカー、陸上競技場等を中心としたスポーツ宿泊・キャンプの受入拠点 ⇒県道 37 号線沿道：景観の改善、小規模な飲食、宿泊、物販等の機能が集積する魅力あるエリアの形成を促進

■基本方針毎に設定した重要業績指標の達成に向け、以下の展開施策（10 施策）を重点施策として位置づけており、より重点的に推進していきます。

▼重点施策（展開施策）

◆展開施策 1 コンセプト設定と戦略的なプロモーションの展開 ⇒「感動」をキーワードに観光プロモーションコンセプトを設定 ⇒統一イメージの形成、シティプロモーションの実施	◆展開施策 23 観光消費の拡大に向けた商品開発 ⇒「つむぐうるま」をコンセプトとして効果的な商品開発又は既存商品のブラッシュアップ、リブランディング ⇒「基幹商品」、「高付加価値化」となる商品開発の支援
◆展開施策 12 地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げと開発 ⇒観光闘牛など地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げと新たな開発	◆展開施策 24 関連団体との連携強化による事業者間連携基盤の構築 ⇒観光物産協会によるプロモーション・情報発信 ⇒民間活力の導入によるイベント・施設運営
◆展開施策 13 ふるさと納税の観光関連返礼品の拡充と推進 ⇒個人向けの特産品等のPR強化や企業版ふるさと納税の実施 ⇒電子旅行商品券や観光体験商品等の観光関連返礼品の開発、滞在型観光の推進、関係人口の拡大	◆展開施策 26 恩納村エリアからの誘客連携 ⇒宿泊機能の強みを持つ恩納村と闘牛などの魅力ある資源を持つうるま市との連携 ⇒恩納村宿泊客がうるま市の観光資源で楽しめる取り組みの推進
◆展開施策 16 スポーツコンベンションの推進 ⇒うるま市スポーツコンベンション推進協議会を中心とした積極的な誘致活動 ⇒プロスポーツチームを受け入れた際の地域経済への波及効果を最大限高める取組み	◆展開施策 30 多様な観光客の受入体制整備によるユニバーサルツーリズムの推進 ⇒案内板やパンフレット等の多言語化、Wi-Fi 整備、キャッシュレス化、食の提供 ⇒認知度向上に向けた SNS 等による多言語での情報発信
◆展開施策 17 教育旅行の推進 ⇒民泊連携組織や各種体験事業者、文化・芸能団体などとも連携 ⇒教育旅行プログラムの造成と商品化、販売先の開拓と受入れ体制の構築・強化	◆展開施策 35 シビックプライドとおもてなしの醸成 ⇒市民イベントにおいて特産品や闘牛等に触れる機会の創出 ⇒あまわりパーク、東照間商業施設等の観光拠点やマリッジャー等の観光プログラムを市民が日常的に体験する機会の創出

基本方針1 うるま市の統一イメージ形成

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■うるま市内には「海中道路から島しょ地域」、「世界遺産勝連城跡」、など認知度が高い資源がありますが、その資源を活用したプロモーションの統一が明確に定められておらず、県外におけるうるま市の認知度は、他の自治体よりも低いことが想定されます。 ■ホームページ、SNS等の各種メディアにおいてプロモーションを実施してきましたが、管理方法や統一的な情報発信については課題がある状況です。
-------	---

KPI（令和9（2027）年までの成果指標）

	現状値 (令和5(2023)年2月)	目標値 (令和9(2027)年度)
SNS フォロワー数、 市 YouTube の登録数	11,003 件	23,000 件



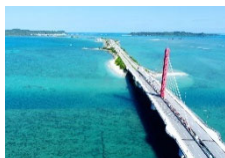
基本施策1-1. うるまブランドの構築と効果的な情報発信

展開施策1 コンセプト設定と戦略的なプロモーションの展開

- ・うるま市は「海中道路」「世界遺産勝連城跡」「現代版組踊 肝高の阿麻和利」「闘牛」「エイサー」のほか、自然景観、歴史文化、スポーツ等の多様で豊かな資源を数多く有しています。多様で豊かな資源を活かしながら「感動」をキーワードに観光プロモーションコンセプトを設定し、うるま市の統一イメージの形成を図りながらシティプロモーションに取り組みます。
- ・また、コンセプトと誘客ターゲットを明確にし、マスコミ（新聞・雑誌・テレビ等）や旅行代理店へのプロモーションを展開し、訴求力の高い情報発信に取り組みます。
- ・さらに、地域キャラクター（うるうらら）については、利用ルールや管理体制等を整理し、商品化を推進するとともに、観光大使をはじめとしたうるま市出身の著名人等を活用したプロモーションを推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①効果的なブランド戦略の策定	観光イベント課	観光物産協会
新規	②各セグメントに応じた戦略策定	観光イベント課	観光物産協会
新規	③シティプロモーションの展開	観光イベント課 産業政策課 商工振興課	プロジェクト推進2課 観光物産協会 商工会
新規	④地域キャラクターや観光大使等の利活用	観光イベント課	観光物産協会



海中道路



勝連城跡



肝高の阿麻和利



闘牛



エイサー

展開施策2 既存メディア、SNS等を活用した効果的な情報発信

- うるま市では、ホームページ、SNS、パンフレット等、各種メディアによる情報発信を行ってきました。
- これら構築してきた各種メディアやコンテンツを効果的に活用するため、ターゲットや目的を踏まえ関係者とともに管理体制を見直し効果的な情報発信を行います。
- また、うるま市の認知度向上に向けて引き続き、県外PRイベントへの出店やSNS、ふるさと納税等の実施を図ります。
- さらに、市内の魅力ある宿泊施設を利用してもらえるよう、周知広報について事業者とも連携して取り組みます。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①メディア広報の展開	観光物産協会	観光イベント課
継続	②ホームページ等の更新、情報発信	観光物産協会	観光イベント課 秘書広報課 文化財課 商工会
継続	③ホームページコンテンツ開発	観光物産協会	観光イベント課
継続	④SNSによる情報発信	観光物産協会	観光イベント課 商工会
継続	⑤パンフレット・ガイドブック・ポスターの作成・ 外国語対応	観光イベント課 観光物産協会	文化財課
継続	⑥ふるさと納税の推進	商工振興課	観光イベント課 観光物産協会 商工会 産業政策課
継続	⑦まちの情報誌発行の促進	観光物産協会	観光イベント課
継続	⑧観光客による情報拡散プロジェクト	観光物産協会	観光イベント課
新規	⑨既存宿泊施設との連携	観光イベント課 観光物産協会	—

基本施策1-2. 地域資源の保全と活用による魅力向上

展開施策3 世界遺産勝連城跡をはじめとした歴史資源の保全と活用による魅力向上

- 世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産である勝連城跡においては、令和3(2021)年10月にあまわりパークや市の施設を開館しました。
- 引き続き勝連城跡周辺をはじめとした観光客の受入環境を整えるとともに、勝連城跡及びその周辺地域の歴史的価値・文化的価値の保全を図ります。
- また、市内各地には仲原遺跡など、各地域にて守られてきた有形の文化資源については、地域関係者と連携し適切な保全と整備による魅力向上を図ります。

【取組】

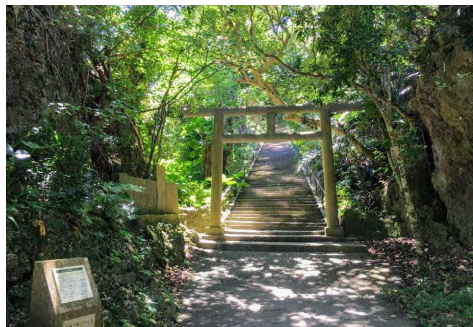
状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①「勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画」の推進	プロジェクト推進2課	文化財課 観光イベント課
新規	②仲原遺跡などの地域の文化資源の保全・整備	観光イベント課	文化財課



勝連城跡



仲原遺跡



シルミチュー



アマミチュー

展開施策4 闘牛などのうるまらしい伝統文化資源の保全と活用による魅力向上

- うるま市には県内随一の「闘牛」をはじめ、現代版組踊 肝高の阿麻和利、エイサー、獅子舞、ハーリーなど、これまで受け継がれ守られてきた“うるまらしい” 伝統文化や文化活動があります。
- 闘牛については、庁内関係部署で取りまとめた闘牛振興に係る行動計画表の見直しを図り、関係機関と関係各課の連携を強化していくため「闘牛振興協議会（仮称）」の設立を検討し、「闘牛のまち・うるま」を推進します。
- また、エイサー、獅子舞、ハーリー等の伝統文化資源については各地域の自治会等の運営主体や学校教育機関と連携し、保全と継承を図るとともに、観光活用を促進するための方策を推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①闘牛振興に係る行動計画表の見直しと関係機関と関係各課の連携強化	観光イベント課	商工振興課 商工会 文化財課 観光物産協会
継続	②文化観光推進に向けた、うるま市の生活・なりわいと地域資源をつなぐストーリーづくり	観光物産協会	観光イベント課 文化財課
新規	③伝統文化資源の保全・整備につながる取組	文化財課	観光イベント課 プロジェクト推進2課 生涯学習文化振興センター



闘牛



エイサー



獅子舞



ハーリー

展開施策5 島しょ地域を中心とした保全と活用による魅力向上

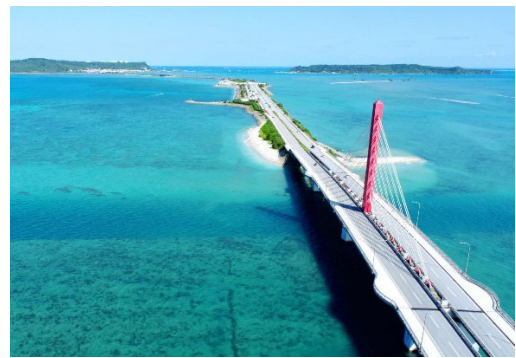
- 浜比嘉島をはじめとしたうるま市の島しょ地域は、観光地として魅力のある地域である一方、観光客の受け入れにあたっては地域住民の生活の妨げとならないようマネジメントしていくことが重要です。
- 島しょ地域を中心として、地域関係者や観光関連事業者と連携のもと、適切な観光客の受入れを目指す観光地マネジメントを進めます。
- また、地域の御嶽や史跡等に訪れる観光客に対し、保全や整備に資する資金等の協力を依頼など、レスポンシブルツーリズム（責任ある観光）の推進を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①島しょ地域を中心とした観光地マネジメントの検討	観光イベント課	観光物産協会
新規	②事業者・地域と連携したフィールドの保全	観光イベント課	観光物産協会



島しょ地域のまちなみ



海中道路

展開施策6 農水産資源を活かした食の魅力づくり

- うるま市の農水産物等の市産品を活かして、事業者や市内各課と連携し、意見交換等を図りながら食の魅力づくりを進めてきました。
- 引き続き食の魅力づくりとして、商品開発および開発した商品は、うるマルシェをはじめとした市内観光拠点や物産展やイベント、アンテナショップ等で積極的にプロモーションを展開し、地産地消の取組を推進します。
- また、優れた農水産物、加工食品、体験型観光商品等を「うるまブランド」に指定するなど、市のイメージアップ、情報発信を図ります。
- さらに、こうした食の魅力づくりにより県外観光客だけではなく、県民もターゲットとすることで県民旅行（マイクロツーリズム）の促進につなげます。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①特産品の開発、販売、津堅島における農産物の高付加価値化の取組み	農林水産政策課 商工振興課	商工会
継続	②地産地消の取組み推進	農林水産政策課 商工振興課	商工会
継続	③観光関連事業者と農家・漁家による意見交換、アイデア出しの場の設定	農林水産政策課	商工振興課 観光イベント課
継続	④物産展の開催、参加促進	商工振興課 農林水産政策課 商工会	観光イベント課 観光物産協会
継続	⑤効果的なブランド戦略の策定	商工振興課	観光イベント課 観光物産協会 商工会
継続	⑥観光物産協会や観光事業者と連携し、体験型観光メニューの開発及び民泊事業の展開検討	観光イベント課 観光物産協会	産業政策課 農林水産政策課



うるマルシェ



あま SUN



にんじん



もずく

基本方針 2 美しい観光まちづくりと観光機能の充実

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■うるま市は豊かな自然や景観が魅力ですが、街路樹や道路の舗装、沿道看板の整備が課題です。 ■勝連城跡周辺、あやはし館・ロードパーク、石川IC周辺等の観光の拠点となる施設については公民連携を視野にさらなる魅力創出や機能強化を進めていく必要があります。また、旧庁舎等の活用により新たな観光拠点の創出も重要です。
--------------	--

KPI（令和9（2027）年までの成果指標）

	現状値 （令和4（2022）年度調査）	目標値 （令和9（2027）年度）
リピーター率	74.0%	70.0%



基本施策 2-1. 豊かな自然景観・まちなみ整備によるサステナブルツーリズムの推進

展開施策 7 豊かな自然景観とまちなみの保全・整備と活用

- うるま市は観光客の多くが訪れる海中道路や高台から眺める景観、ビーチから眺める夕日や青い海、島しょ地域の赤瓦葺きのような昔ながらのたたずまいを残す集落など、観光資源としての魅力をもつ美しい自然景観や特色あるまちなみを数多く有しています。
- 自然環境や景観資源、沖縄らしいまちなみ等を「うるま市景観計画」に基づいた保全・整備を継続実施することにより、持続可能（サステナブル）な観光地を目指すとともに、保養に適した居心地がよい観光地を形成し、観光客の再来訪意欲の向上を図ります。
- また、景観資源の保全だけでなく、景勝地の来訪客拡大を図る環境整備や市内周遊を高める観光案内板の設置等、豊かな自然景観を活かした観光振興の取り組みを推進します。
- さらに、雰囲気あるまちなみを整備するため、観光資源へのアクセス経路となる沿道を中心に、街路樹づくり、沿道看板の統一化に取り組みます。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①うるま市景観計画に基づくまちなみづくり	公園整備課	観光イベント課
継続	②みどりの基本計画に基づくまちなみづくり	公園整備課	都市政策課
継続	③緑でつなぐ沿道整備	維持管理課	公園整備課
継続	④環境基本計画に基づく環境の保全と創出	環境政策課	観光イベント課
新規	⑤景勝地の環境整備	観光イベント課	維持管理課



果報バンタ



屋慶名展望台からの景色

※展望台は老朽化のため解体されています



野鳥の森公園からの景色



石川高原展望台からの景色

基本施策 2-2. 公民連携による観光拠点の機能強化と魅力創出

展開施策 8 世界遺産勝連城跡周辺整備の推進

- 世界遺産勝連城跡は、うるま市における主要観光スポットとして、多くの観光客で賑わっており、消費拡大や滞在時間延伸につながる機能の集積を図るため勝連城跡周辺整備を進めてきました。
- 令和3（2021）年には、勝連城跡の近接エリアに、出土品や市の歴史・文化の展示、肝高の阿麻和利の物語を伝えるライブパフォーマンスなどを楽しめるあまわりパーク「歴史文化施設」が開館しました。
- 消費と滞在の観光拠点としての魅力創出を図るため、勝連・与那城地域まちづくり推進計画のリーディングプロジェクトとして、引き続き勝連城跡周辺整備を推進します。
- また、周辺整備の手法としては、民間事業者の資金やノウハウを活用して魅力的な観光拠点を効果的に形成するためPFI手法を採用した公民連携による整備を推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①勝連城跡及びあまわりパーク等を拠点とした誘客促進	プロジェクト推進2課	観光イベント課
継続	②あまわりパーク内の観光ターミナルを活用した観光促進	観光イベント課	プロジェクト推進2課
継続	③観光案内所の設置検討	観光イベント課	観光物産協会



勝連城跡からみる周辺整備イメージ

展開施策9 海の駅あやはし館、海中道路ロードパークの機能強化と魅力創出

- 海中道路の中央部に位置する海の駅あやはし館は、来訪者の休憩スポットや消費・滞在の場として多くの観光客と県内客で賑わっています。
- 海の駅あやはし館は、管理運営面における諸問題を整理し、観光拠点としての魅力向上に取り組めます。
- また、海の駅あやはし館に隣接する駐車場「海中道路ロードパーク」は、所有が沖縄県、管理がうるま市となっており、市主導による柔軟な利活用が難しい状況にあり、市の権限拡大に向けた沖縄県との協議が進められています。
- さらに、市への権限移譲の機運が高まってきている中、海の駅あやはし館とロードパークの一体的な機能強化整備による魅力創出を図るため令和4（2022）年度から「ロードパーク活性化基本計画」の策定に取り組んでいます。
- 加えて、令和5（2023）年度中に策定予定の「ロードパーク活性化基本計画」をもとに公民連携による民間活力の導入を図ることのできる手法の採用を念頭に置いた整備を推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①あやはし館、ロードパークの魅力創出と機能強化	観光イベント課	スポーツ課
継続	②観光案内所の継続実施	観光物産協会	観光イベント課



海の駅あやはし館



海中道路ロードパーク

展開施策 10 石川 IC 周辺の交流拠点形成

- 石川 IC 周辺には、闘牛大会等の集客イベントが数多く開催される「石川多目的ドーム」や起業支援等を行うインキュベーション施設「石川地域活性化センター舞天館」、令和3（2021）年に公民連携により公園内にカフェをオープンした「石川運動広場」が立地しています。
- 集客イベント開催時の駐車場確保と沖縄自動車道を利用して西海岸エリア等に訪れる観光客等の市内への観光周遊につなげる機能整備等が求められており、石川 IC 周辺における交流拠点形成の検討を行ってきました。特に集客イベント開催時における路上駐車対策が大きな課題とされています。
- 「石川地域まちづくり推進計画」をもとに石川 IC への近接性や沖縄本島北部と中南部をつなぐゲートウェイとしての立地を生かした交流拠点（駐車場や交通結節点機能、道の駅等の集客施設）の形成を推進し、周辺都市から石川地域への人流の創出や地域住民の利便性の向上を図るため、公民連携手法による事業化を視野に引き続き石川 IC 周辺整備を推進します。
- また、石川 IC 周辺整備が実施されるまでの間、「石川多目的ドーム」や「石川地域活性化センター舞天館」、「石川運動広場」の連携を強化し、一体的な管理運営を含めた利便性向上や魅力創出、誘客促進を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①石川 IC 周辺整備の交流拠点形成 （仮称：ブルファイトパーク）	プロジェクト推進 2課 スポーツ課 観光イベント課	企画政策課 産業政策課 農林水産政策課 都市政策課



石川 IC 周辺整備イメージ 出典：うるま市石川地域まちづくり推進計画

展開施策 11 旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線沿道の利活用推進

- 旧与那城庁舎は勝連・与那城地域の主要観光スポットである世界遺産勝連城跡と海中道路をつなぐ位置にあります。また、旧与那城庁舎から海岸沿いの県道 37 号線を北西に進むと、物販、飲食、バーベキュー等の機能を有する東照間商業等施設（TERUMA）がありますが、その間の2キロ弱には店舗がほとんどない状況です。
- 旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線沿道については、「勝連・与那城地域まちづくり推進計画」に基づき利活用推進を図ります。具体的には、旧与那城庁舎周辺は、公民連携を視野にいれながら、陸上競技場におけるサッカー、陸上競技場等を中心としたスポーツ合宿・キャンプの受入拠点としての利活用を推進するとともに、海中道路におけるマリンスポーツ・アクティビティやサイクリング等に関連する機能の導入もあわせて検討するなど付加価値の高い拠点の形成を目指します。
- また、県道 37 号線沿道では、沿道利活用活性化に向けた土地利用への見直しを図るとともに、海岸の視界を遮る樹木を伐採するなどの景観の改善を行うなどのエリア価値向上に向けた取組を進め、小規模な飲食、宿泊、物販等の機能が集積する魅力あるエリアの形成を促進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線沿道の利活用 ～（仮称）あやはしスポーツビレッジ～	プロジェクト推進 2課 観光イベント課 スポーツ課	企画政策課 都市政策課 農林水産政策課 農林水産整備課 環境政策課 公園整備課



旧与那城庁舎周辺の利活用イメージ 出典：うるま市勝連・与那城地域まちづくり推進計画

基本方針 3 地域の魅力を活用した観光消費拡大の仕掛けづくり

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ マリンレジャーや観光闘牛などうるま市ならではの観光プログラムについては事業者間および官民の連携をより強固にしていくことで周遊向上を図ることが重要です。 ■ 観光事業者の生産性向上や魅力的な観光商品の開発が求められます。 ■ スポーツコンベンションやサイクルツーリズム、ワーケーションなど夏季だけではない通年で体験することのできる観光を推進することが重要です。 ■ うるま市の弱みである宿泊施設の確保については引き続き官民一体となって積極的に推進することが重要です。
-------	---

KPI（令和9（2027）年までの成果指標）

	現状値 (令和4(2022)年度調査)	目標値 (令和9(2027)年度)
宿泊日数	0.6泊	0.8泊



基本施策 3-1. 滞在型観光の推進

展開施策 12 地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げと開発

- 沖縄における闘牛は明治後期から現代まで継承されている沖縄独自の文化であり、本市の石川多目的ドームでは全島闘牛大会など各種大会が年間を通じて開催しています。闘牛のほか、うるま市では地域資源を活かした観光コンテンツを多く造成してきました。
- 滞在型観光の推進のため、これら観光コンテンツの磨き上げと新たな開発を推進します。
- また、宿泊施設や観光事業者とも連携し、観光客を対象にした「観光闘牛」を推進します。
- 加えて、海中道路には早朝からサイクリストが海中道路に多く訪れるなど、日中以外の時間帯のポテンシャルを秘めているため、うるま市の滞在日数を確保するために早朝および夜間におけるプログラムの充実を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①闘牛の観光活用推進	観光イベント課	観光物産協会
継続	②闘牛イベントの年間開催等の支援	観光イベント課	観光物産協会
継続	③石川多目的ドームを活用したイベントの推進	観光イベント課	観光物産協会 スポーツ課
新規	④早朝（サンライズコンテンツ）の推進	観光イベント課	観光物産協会 商工会
新規	⑤ナイトコンテンツの充実	観光イベント課	観光物産協会 商工会



早朝の海中道路



石川多目的ドーム

展開施策 13 ふるさと納税の観光関連返礼品の拡充と推進

- 平成 20（2008）年5月に地方税法が改正され、地方公共団体へ寄附を行った場合の寄附金控除制度、ふるさと納税制度が開始されました。うるま市では、返礼品のメニューの増加、民間のポータルサイトの活用拡大など受入強化に努めてきました。
- 引き続き個人向けの特産品等のPR強化や企業版ふるさと納税を行うとともに、電子旅行商品券や観光体験商品等の観光関連返礼品を開発し、滞在型観光を推進することで、うるま市と多様な関わりのある方々を増やし、関係人口の拡大を図ります。
- また、市内の消費拡大を図るため、旅先で寄付を行い、その場で市内において活用できる電子商品券などを受け取れる、新たなふるさと納税「旅先納税」の導入を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①ふるさと納税（個人）の推進	商工振興課	産業政策課 企画政策課
継続	②企業版ふるさと納税の推進	商工振興課	産業政策課 企画政策課
新規	③電子商品券の開発	商工振興課	産業政策課 商工会

展開施策 14 観光周遊ルートの構築

- うるま市は歴史文化、自然環境、マリンスポーツなど多様なコンテンツが各エリアに点在しており多様な観光体験が可能です。
- これらコンテンツを周遊するために、石川多目的ドーム、世界遺産勝連城跡及びあまわりパーク、東照間商業等施設、ロードパーク及び海の駅あやはし館、うるマルシェ等の観光重要拠点を軸としたゾーニングを図るとともにセグメントに応じた周遊ルートの構築を図ります。
- また、きむたかホールの機能強化を行い、「現代版組踊 肝高の阿麻和利」を活かした文化観光ネットワークの構築を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①周遊観光プログラムの開発、販売	観光イベント課	観光物産協会
新規	②きむたかホールの機能強化による文化観光ネットワークの構築	生涯学習文化振興センター	プロジェクト推進2課 観光イベント課



きむたかホール



現代版組踊 肝高の阿麻和利

展開施策 15 新規宿泊施設の創業推進

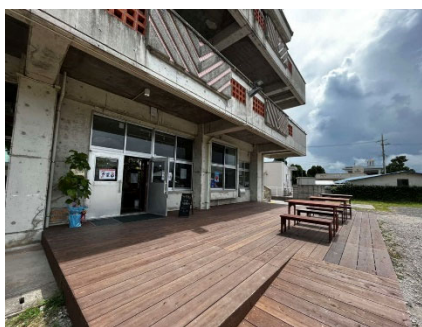
- うるま市は、客室数が30室を超える中型以上の宿泊施設が少なく、新規宿泊施設の誘致や創業に向けた相談支援、既存公共施設の跡地活用を検討しており、石川地域に大型ホテルが立地したほか、旧浜中学校跡地には、宿泊機能を備えたコワーキング施設「浜比嘉島地域交流拠点施設／hamachū（ハマチュー）」が令和4（2022）年7月にオープンしました。
- 観光客の受入環境を整備するため、自然やまちなみの景観に配慮しながら、引き続き新規宿泊施設の創業推進に積極的に取り組むほか、既存公共施設の跡地活用を推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①宿泊施設の確保	産業政策課	観光イベント課
継続	②既存施設の活用	観光イベント課	産業政策課



浜比嘉島交流拠点施設 hamachū



hamachū 1階売店

基本施策 3-2. 通年型観光の推進

展開施策 16 スポーツコンベンションの推進

- 一年中温暖な気候は、キャンプ・合宿を検討しているプロ・アマチュアスポーツチームにとって、魅力的な環境であり、継続的な施設整備と積極的な誘致活動、社会情勢等により国内プロ野球チーム、プロサッカーチームがキャンプ・合宿に訪れるようになりました。
- スポーツ施設の充実を図りつつ、うるま市スポーツコンベンション推進協議会を中心として、積極的な誘致活動を継続し、プロスポーツチームを受け入れした際の地域経済への波及効果を最大限高める取り組みを推進します。
- また、うるま市のスポーツに係る産業的・経済的・教育的等、様々な視点における発展を目指すため、うるま市スポーツコンベンション推進協議会のキャンプ・合宿の誘致・受入機能等を自立的に果たします。加えて、地域のスポーツクラブ活動の運営管理やキャンプ・合宿受入チームと地域スポーツクラブの相互連携による地域のスポーツ環境整備に取り組む組織「うるま市スポーツコミッション（仮称）」の設立を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①スポーツコンベンションの推進	スポーツ課	観光イベント課
継続	②（仮称）うるま市総合アリーナの整備	プロジェクト推進1課	スポーツ課
継続	③スポーツ施設の改修及び機能強化、既存施設の活用方策の検討	スポーツ課	資産マネジメント課

展開施策 16 の KPI（令和 9（2027）年までの成果指標）

	現状値 （令和元（2019）年）	目標値 （令和 9（2027）年度）
プロスポーツ等の誘致による経済波及効果	27,128 千円	65,108 千円

※本展開施策は個別に KPI を設定し確認します



阪神タイガース2軍のキャンプ



町田ゼルビアのキャンプ

展開施策 17 教育旅行の推進

- ・うるま市は歴史・文化や自然など教育旅行に適した地域資源や体験プログラムを有していますが、うるま市内に宿泊した修学旅行生は体験プログラムを市外にて体験するなど課題がある状況です。
- ・民泊連携組織や各種体験事業者、文化・芸能団体などとも連携し、役割分担を明確にしながら、教育旅行（修学旅行等）プログラムの造成と商品化、販売先の開拓と受入れ体制の構築・強化を進めます。
- ・また、教育旅行においては、「現代版組踊 肝高の阿麻和利」を活用したプログラムの造成も図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①教育旅行（修学旅行等）プログラムの造成・商品化	観光イベント課	観光物産協会
新規	②販売先の開拓と受入れ体制の構築・強化	観光イベント課	観光物産協会

展開施策 17 の KPI（令和 9（2027）年までの成果指標）

	現状値 （令和元（2019）年）	目標値 （令和 9（2027）年度）
教育旅行数等の誘致数	210 件	216 件

※本展開施策は個別に KPI を設定し確認していきます

展開施策 18 サイクルツーリズムの推進

- ・うるま市には、海中道路をはじめとするサイクリングに魅力的なコースがあります。
- ・自転車ネットワーク計画に基づく施策推進を行い、安全で走りやすい自転車通行空間の整備、レンタサイクル普及促進の支援、サイクルサポーターの拡大や案内サインの設置などを推進し、国内外からの誘客を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①サイクルツーリズムにて誘客するための受入環境の整備支援	スポーツ課	観光物産協会 観光イベント課
継続	②勝連半島及び島しょ地域にて、レンタサイクル普及促進の支援	スポーツ課 都市政策課	観光イベント課 観光物産協会
継続	③自転車ネットワーク計画に基づく施策推進	都市政策課	スポーツ課 道路整備課



サイクルツーリズム



サイクルツーリズムサポーター

展開施策 19 ワークেশョンの推進

- ・コワーキング施設「浜比嘉島地域交流拠点施設／hamachū（ハマチュー）」を活用したワークেশョンを推進し、一年を通じた交流人口及び関係人口の拡大を図ります。
- ・また、沖縄本島西海岸エリアの休養目的（バケーション）を強みとしたワークেশョンとの差別化を図り、仕事（ワーク）・企業連携目的や地域課題解決に向けたワークেশョンを推進します。
- ・さらに、新規ビジネスの創出や企業誘致のツールとしてワークেশョンを活用し、連携企業による定期的な長期滞在者等の創出を目指します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①浜比嘉島地域交流拠点施設／hamachū（ハマチュー）を活用したワークেশョンの推進	産業政策課	観光イベント課
新規	②海中道路周辺のロケーションを活かしたワークেশョン事業の展開	産業政策課	観光イベント課
新規	③企業と連携したワークেশョンの推進	産業政策課	観光イベント課

展開施策 20 既存イベントの観光誘客促進と新規イベントの誘致・開催

- ・うるま市では闘牛大会や龍神の宴、各地域のエイサーが一同に集まるエイサーまつり、島しょ地域の魅力を活かした文化イベントなど、県内外の観光客の集客が見込める多様なイベントがあります。このようなイベントを観光シーズン以外で継続的に実施することにより、季節に応じたうるま市の魅力を伝え、観光客の平準化に寄与することが期待されます。
- ・イベントを通じて、市外居住者を対象に、うるま市への継続的な来訪や関心を持ってもらえるよう効果的なイベントの運営やPRを図ります。
- ・また、イベントの運営主体にあたっては、行政のみならず、民間事業者との連携や委託も検討し、行政や観光物産協会は情報発信等の支援に注力することで、効果的かつ持続的な運営を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①既存イベントの推進（龍神の宴 等）	観光イベント課	文化財課 観光物産協会 商工会
継続	②エイサーの観光活用の推進	観光イベント課	観光物産協会
継続	③全島獅子舞フェスティバルの観光への活用	観光イベント課	文化財課
継続	④ハーリー大会の観光誘客	観光イベント課	秘書広報課
継続	⑤新規イベントの開発支援	観光イベント課	観光物産協会
継続	⑥イベント誘致による平準化の取組	観光イベント課	観光物産協会
継続	⑦あやはし海中ロードレース大会の充実化	観光イベント課	スポーツ課



うるま市エイサーまつり



龍神の宴



うるまシマダカラ芸術祭

基本施策 3-3. 観光消費の拡大

展開施策 21 地域資源を活かした着地型体験プログラムの開発

- うるま市ではマリンスポーツや自然体験等、民間事業者が主体となり着地型体験プログラムを推進してきました。今後は、さらなる観光消費の拡大に向けて、地域資源の発掘や開発を推進します。
- 地域資源の発掘に向けては、市民目線での観光資源としての魅力を抽出するとともに、地域資源のデータベース化を図り、地域資源を活用した着地型体験プログラムの構築に資する情報を整理します。
- また、うるま市の山岳、河川、海岸、島しょ地域等の地域資源を活用し、沢下り、登山、洞窟探検等のアドベンチャーツーリズム、マリンスポーツなどの既存プログラムの磨き上げ、モータースポーツなど新たなプログラムの開発支援を行います。
- さらに、勝連・与那城地域まちづくり推進計画に基づき世界遺産勝連城跡及びあまわりパーク、きむたかホール等を拠点とした歴史・文化ツーリズムを促進します。

【取組】

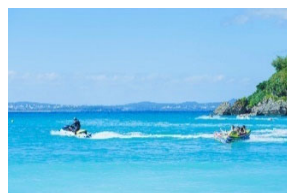
状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①フォトコンテスト等の地域資源の掘り起こし	観光物産協会	観光イベント課
継続	②観光資源データベースの構築・活用	観光物産協会	観光イベント課
継続	③地域特性を活かした滞在型観光コンテンツづくり	商工振興課 観光イベント課	観光物産協会
新規	④石川川・天願川等の河川や石川岳等を活用した新たなツーリズムの開発支援	観光イベント課	観光物産協会
継続	⑤マリンスポーツプログラムの開発支援	観光物産協会	観光イベント課
継続	⑥島しょ地域を活用した体験プログラムの開発支援	観光物産協会	観光イベント課
継続	⑦勝連城跡を活用した体験プログラムの開発支援	観光イベント課	プロジェクト推進2課 観光物産協会
新規	⑧肝高の阿麻和利を活かした観光体験プログラムの推進	観光イベント課	プロジェクト推進2課 生涯学習文化振興センター 観光物産協会
新規	⑨地域資源を活用したモータースポーツツーリズムの展開検討	プロジェクト推進1課	観光イベント課 スポーツ課



石川川



石川岳



マリンスポーツ



Cave Okinawa

展開施策 22 観光 DX の推進

- 観光分野におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進により、旅行者の利便性向上や観光産業における生産性向上等に取り組むとともに、地域間・観光事業者間の連携を通じた地域活性化や持続可能な経済社会の実現を目指した取組が必要です。例えば、顧客管理予約システムによる情報管理の高度化・人員配置の効率化、非接触チェックイン・システム等が挙げられます。
- 観光DXの推進を踏まえ、観光産業の生産性向上の取組みを支援し、旅行者に対する利便性の向上、消費機会の拡大を図ります。
- また、地域の観光地をマネジメントする際にDX化を進めることで持続的な観光地づくりを図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①観光関連事業者の生産性向上	商工振興課 観光イベント課	観光物産協会 商工会

展開施策 23 観光消費の拡大に向けた商品開発

- うるま市内における商品の価値、認知度及び売上げ向上を図るため、「つむぐうるま※」をコンセプトとして効果的な商品開発又は既存商品のブラッシュアップ、リブランディング等に向けて、うるま市を牽引する「基幹商品」、「高付加価値化」となる商品開発の支援を図ります。
- 観光消費の拡大に向けては、開発した商品に対し、販路開拓・流通拡大支援、PR・プロモーション活動の支援等を実施します。

※琉球の歴史、島しょ地域の手つかずの自然、文化や芸能が受け継がれる暮らしなど、うるま市の持つ「本物の沖縄」の魅力を伝える「サステナブルなものづくり」を現したコンセプト。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
既存	①特産品開発及びプロモーション支援	商工振興課 観光イベント課	観光物産協会 商工会



小麦畑



もずく畑



ビーグ



津堅島のニンジン畑

基本方針 4 観光推進体制の構築とマーケティングの推進

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■プロモーションやイベント等について市にて一部実施してきましたが、効果的に推進していくため観光協会との連携や民間活力の導入が重要となります。 ■これまで観光まちづくり推進協議会等において各種目標値の共有を図ってきました。データ整理の人材育成を図りながら効果的なデータ取得・分析を進めることが重要です。
--------------	---

KPI（令和9（2027）年までの成果指標）

	現状値 (令和4(2022)年度調査)	目標値 (令和9(2027)年度)
うるま市への来訪割合	42.2%	50.0%



基本施策 4-1. 観光推進体制の構築

展開施策 24 関連団体との連携強化による事業者間連携基盤の構築

- うるま市の観光振興に向けては市行政、観光物産協会、商工会、観光事業者等その他観光関連団体との役割分担、連携・協働が重要となります。
- プロモーション・情報発信については観光物産協会、イベント・施設運営については民間活力の導入を図ります。
- また、市内の農水商工業者等と観光事業者とのマッチングやテストツアーの実施等を支援し、魅力的な着地型観光商品づくりを推進します。
- さらに、事業者間にて積極的に観光振興について協議・意見交換できる場の構築を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①観光関連団体との連携・協働	観光物産協会	観光イベント課 商工会
新規	②市内の農水商工業者等が持つ観光商品・サービスを活用した着地型観光メニューの開発等に向けて、観光事業者とのマッチング等を支援	観光物産協会	観光イベント課 商工会
新規	③市内事業者の意見交換会の構築	観光物産協会	観光イベント課 商工会

基本施策 4-2. 広域連携の構築

展開施策 25 沖縄本島中部東海岸ルートにおける広域連携

- 沖縄県では、本島東海岸地域の活性化・発展に向け、令和3（2021）年3月に沖縄県東海岸サンライズベルト構想を策定しました。
- 本構想を踏まえながら、南城市から続く東海岸エリアの観光誘客周遊ルートの構築に向けた広域連携を引き続き推進します。
- また、環金武湾地域における域内の持続的な発展と産業活性化に向けて、うるま市・金武町・宜野座村の連携により令和元（2019）年に設立した「環金武湾振興協議会」をもとに、観光誘客に向けた広域連携を引き続き推進します。
- さらに、隣接する沖縄市とは、修学旅行やプロスポーツキャンプ、イベント開催等における誘客促進につながる連携を推進していくほか、沖縄市が中心となって実施している沖縄の歴史・文化体験による観光周遊ルートを形成する事業へ積極的に協力します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①東海岸地域との連携	観光イベント課	観光物産協会
継続	②環金武湾連携（金武町、宜野座村）	産業政策課	観光イベント課
新規	③沖縄市との連携	観光イベント課	観光物産協会

展開施策 26 恩納村エリアからの誘客連携

- 恩納村に宿泊し石川多目的ドームにて観光闘牛を組み込む修学旅行プログラムが増えつつあります。
- 今後、宿泊機能の強みを持つ恩納村と闘牛などの魅力ある資源を持つうるま市との連携により、お互いの強みを活かして、恩納村の宿泊客がうるま市の観光資源で楽しめる取り組みを推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①恩納村エリアからの誘客連携	観光イベント課 観光物産協会	商工振興課 商工会

展開施策 27 クルーズ船受入れに関する連携

- コロナ禍以前は中城湾港にはクルーズ船が寄港していましたが、令和5（2023）年3月現在は受け入れが中断している状況です。
- 今後、中城湾港におけるクルーズ船の寄港を見据えた受け入れ体制の整理を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①中城湾港クルーズ船促進連絡協議会を構成する市町村との連携	観光イベント課	観光物産協会 産業政策課

基本施策 4-3. 観光動向の調査・分析と中核人材の育成

展開施策 28 観光統計データの収集や観光・消費動向の分析と活用

- うるま市はこれまで観光事業者と連携を図り本市の主要な集客施設における入場者数を把握するとともに、観光客を対象とした定期的なアンケート調査の実施により来訪経験、来訪回数、一人当たりの消費金額、満足度等の基礎データの収集を行ってきました。
- 今後も引き続き上記の基礎データの収集を実施するとともに、収集したデータを用いて、観光動向、消費動向を分析し誘客ターゲットを明確化し、戦略的な施策の検討を実施します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①観光統計データの収集	観光イベント課	観光物産協会
継続	②観光動向調査の実施	観光イベント課	観光物産協会
継続	③地域主導で分析するための組織として、マーケティング組織の設置検討	観光イベント課	観光物産協会

展開施策 29 中核人材の育成と確保

- 観光振興の発展のためには継続的かつ発展的なデータ収集・分析が重要です。
- 行政、観光物産協会、観光事業者の役割分担を見直すとともに、観光振興を戦略的に企画・推進できる中核人材の育成・確保に引き続き取り組みます。
- また、地域おこし企業人等の制度を活用し、マーケティング等に関する専門的知識を有する外部人材の採用の推進を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①データ分析に係る人材確保、育成	観光イベント課	産業政策課 商工振興課 観光物産協会
新規	②外部人材の活用支援	観光イベント課	産業政策課 商工振興課 観光物産協会

基本方針 5 受入体制整備とおもてなしの充実

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ インバウンドが回復しつつあるなか、多様な観光客の受入を進めていくことが重要です。 ■ 世界遺産勝連城跡を中心として MICE プログラムを検討してきましたが、今後は継続的な実施に向けた体制の構築が必要です。 ■ コロナ禍の影響を受けた観光事業者については、いち早い回復復興支援が重要となります。 ■ 観光客、事業者ともにうるま市までのアクセス、市内周遊が課題と認識しており対応が必要です。 ■ うるま市観光を醸成していくためには市民によるシビックプライドの醸成が重要です。
-------	--

※本基本方針には KPI（令和 9（2027）年までの成果指標）を設定しません。

基本施策 5-1. 多様な観光客受入に向けた体制・基盤整備

展開施策 30 多様な観光客の受入体制整備によるユニバーサルツーリズムの推進

- コロナ禍により減少していたインバウンドは今後、回復が見込まれます。
- インバウンドの回復を見据えて、案内板やパンフレット等の多言語化、Wi-Fi 整備、キャッシュレス化、食の提供を行います。
- また、認知度向上に向けて SNS 等による多言語での情報発信を行います。
- さらに、高齢者や障がい者など様々な観光客が快適に楽しめる観光地づくりに向けて段差の解消や多目的トイレの設置などユニバーサルツーリズムの実施を目指します。
- 加えて、ハード整備だけではなく、心のバリアフリーを目指し関係機関に対し勉強会を開催します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①外国人観光客にやさしい情報発信、おもてなし	観光物産協会	観光イベント課
継続	②宿泊施設ユニバーサル化促進事業	観光イベント課	産業政策課
新規	③心のバリアフリーに関する勉強会	観光イベント課	スポーツ課

展開施策 31 MICE 受入体制の構築と推進

- ・うるま市は世界遺産勝連城跡や石川多目的ドーム等のイベントや会議・レセプションにおいて、特別感や地域特性を演出できる会場になり得る地域資源を有しています。
- ・関連事業者と連携しながら MICE の開発を行うとともに継続的に販売・受け入れが可能な実施体制を構築し、積極的なプロモーションを推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①世界遺産勝連城跡や石川多目的ドーム等の地域資源を活用した MICE の推進	観光イベント課	プロジェクト推進2課 観光物産協会

展開施策 32 市内へのアクセス及び市内周遊性の向上

- ・うるま市の観光振興にあたっての課題として市内へのアクセス、市内周遊の向上があげられています。
- ・周辺都市からのゲートウェイのひとつである石川 IC 周辺においては交流拠点を形成することで、うるま市への立ち寄りのきっかけを創出します。
- ・また、地域住民のみならずワーケーション等の滞在者の利用も想定した、公共交通ネットワーク構築など、市民や観光客など、誰もが快適で利用しやすい交通環境の実現を図ります。
- ・さらに、持続可能な観光について、津堅島では、グリーンスローモビリティの推進など、環境に配慮した交通インフラの構築を図ります。
- ・加えて、バス、タクシーからライドシェア、シェアサイクルなどあらゆる交通機関を、IT を用いてシームレスに結びつける MaaS の推進を図ります。
- ・沖縄本島中部東海岸や島しょ地域の観光振興に繋がると期待される沖縄北 IC と海中道路を結ぶ高規格道路「中部東道路」の早期実現に向けた働きかけを推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①総合交通戦略に基づく施策の推進	都市政策課	道路整備課
継続	②自転車ネットワーク計画に基づく施策推進	都市政策課	スポーツ課 道路整備課
新規	③グリーンスローモビリティ、MaaS の推進	都市政策課 観光イベント課	産業政策課
継続	④中部東道路の整備推進	都市政策課	産業政策課 観光イベント課

基本施策 5-2. 観光危機管理対策の推進

展開施策 33 関係機関と連携した減災対策の推進

- ・観光まちづくりにあたっては災害時を見据えた観光客の安全・安心の確保が重要です。
- ・観光客が安全・安心に過ごせるよう災害時における早期帰宅支援及び情報提供等の観光危機管理の対策を講じます。
- ・また、観光客に対する危機管理として、災害時の避難計画、支援計画など、地域防災計画の改訂を踏まえた取組を推進するとともに、発災時を想定し平時から宿泊施設やマリインレジャー事業者等の観光事業者と連携を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①うるま市観光危機管理計画と連携した、災害時の避難計画、支援計画の推進	観光イベント課 危機管理課	観光物産協会
継続	②観光関連団体、事業者等との連携充実・強化	観光イベント課 危機管理課	観光物産協会

基本施策 5-3. おもてなしの充実

展開施策 34 観光人材の育成支援

- ・着地型観光を推進するためには、ツアーオペレーター、ツアーガイド、インストラクター等の育成が重要です。
- ・外国人観光客の誘客にあたっては、外国語で案内できるガイドも必要です。観光物産協会と連携し、地元住民を含めた人材育成を推進します。
- ・また、観光闘牛やマリンスポーツ等の体験型観光商品について、プレイヤーの育成や組織化、商品販売窓口の設置を進めます。
- ・さらに、「うるま市文化財ガイドの会」のサポートも継続しており、文化財講座の改善を行い、ガイドの育成を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①外国人観光客への対応	観光イベント課 観光物産協会	—
新規	②インストラクター・ガイドの養成	観光物産協会	観光イベント課
新規	③着地型観光推進の人材育成の計画支援、「うるま市文化財ガイドの会」のサポート継続	観光イベント課 商工振興課 文化財課	観光物産協会

展開施策 35 シビックプライドとおもてなしの醸成

- 持続的な観光まちづくりのためには、うるま市民が自分たちの住むまちを誇りに思い、自慢するようなシビックプライドを醸成し、観光客をおもてなしすることで交流人口や消費向上につなげ、「受け入れて良かった」と思える好循環を図ることが重要です。
- シビックプライドの醸成を目的としてうるま市民がうるま市について知る機会を創出します。
- また、うるま祭り等のイベントにおいて特産品や闘牛等に触れる機会や、あまわりパーク、東照間商業施設等の観光拠点やマリンレジャー等の観光プログラムを市民が日常的に体験する機会を創出します。そして、その知識を活用してまちづくりに取り組もうとする意識を高める機会を創出します。
- さらに教育関係者との連携により、子どもたちに世界遺産勝連城跡や「現代版組踊劇 肝高の阿麻和利」をはじめとしてうるま市の歴史、自然、その他の資源等について教える機会を創出します。「第2次うるま市総合計画」における基本目標の一つである「郷土に誇りをもち未来を拓く人づくり」の一環として、取り組みを推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①ホームページ等の更新、情報発信（市民向け・シビックプライドの醸成）	観光イベント課	秘書広報課
継続	②シビックプライドとおもてなしの醸成	観光イベント課 商工振興課	商工会 観光物産協会
新規	③地域に対する観光の貢献度可視化	観光イベント課	秘書広報課 観光物産協会
継続	④子どもの郷土愛を高めるプログラムの展開	文化財課	観光イベント課
新規	⑤めんそーれ！うるま！！おもてなし観光の推進	観光イベント課	観光物産協会

第5章 地域別の取組方針

うるま市は地域ごとに地域資源や誘客施設を有しており、特性に応じた取組を進めていくことが重要です。以下では「石川地域」、「具志川地域」、「勝連・与那城地域」の3地域の特性と取組方針を整理しました。

1. 石川地域

～闘牛から自然体験、夜のお酒や食事まで楽しめるゲートウェイ～

■概要

- 石川地域はうるま市の北部に位置し、沖縄本島においては中南部と北部をつなぐ位置にあります。
- 市内では唯一、沖縄自動車道のICが立地する地域でもあり、那覇市や那覇空港とは高速バスの定期路線が運行しています。
- 市街地の商店街では飲食施設等が集積しており、恩納村等に宿泊している観光客が訪れています。
- 西側のエリアの多くが山林や丘陵地、農地などで構成されており、ピオスの丘やゴルフ場といった自然を活用したレクリエーション施設や闘牛がみられる石川多目的ドームがあるほか、伊波城跡や鍾乳洞等の史跡、歴史的景観が現存しています。



■主な地域資源

歴史・文化	自然・景観	農水産物・特産品	誘客施設
<ul style="list-style-type: none"> 闘牛 伊波貝塚 伊波按司の墓など 	<ul style="list-style-type: none"> 石川岳 石川ビーチ 石川川 など 	<ul style="list-style-type: none"> 伊波メンサー 	<ul style="list-style-type: none"> 石川多目的ドーム CAVE OKINAWA ピオスの丘 など

■主な取組方針

- 闘牛イベントの会場である石川多目的ドームを有する本地域では、闘牛振興に係る行動計画表の見直しを図りながら「闘牛のまち・うるま」を推進します。
- 西側エリアに広がる農地を活かした農業体験等の体験型観光メニューの推進や、食の魅力向上を図ります。
- 誘客拡大と消費拡大、路上駐車解消を目指し、石川ICを有し中南部と北部をつなぐゲートウェイとしての側面を持つ本地域では「石川地域まちづくり推進計画」に基づき交流拠点等の機能強化を図ります。
- 市街地の飲食施設と連携を図りながら、ナイトコンテンツの充実による滞在型観光を推進します。
- 石川多目的ドームを活用した各種イベントを推進します。
- 石川岳や石川ビーチなどの自然資源を活用し新たなツーリズムの開発促進を行います。
- 隣接する恩納村と連携し修学旅行や団体客の体験の受入等を推進します。
- ピオスの丘での自然体験やCAVE OKINAWAでの鍾乳洞体験など石川に立地する観光事業者と連携し、着地型観光を推進します。

2. 具志川地域

～食とスポーツコンベンションを軸とした交流エリア～

■概要

- 内陸部に位置する県道 75 号線（沖縄石川線）や県道 8 号線、県道 85 号線（沖縄環状道路）沿道を中心に市街地が形成されており、商業が集積するほか、ベッドタウンの機能を有しています。
- 沖縄市との市境や金武湾沿岸を中心に豊かな自然が残り、集落が点在するほか、中城湾新港はクルーズ寄港地となります。
- うるマルシェでは県内客を中心として市内の農産物や特産品を求めて訪れています。また、同施設では新たな特産品なども多く販売されています。
- 具志川野球場にて令和5（2023）年より阪神タイガース2軍のキャンプ地として受入れを開始しています。サッカーについても、令和4（2022）年度に具志川多種目球技場にクラブハウスを整備するなど誘致強化を図っています。



■主な地域資源

歴史・文化	自然・景観	農水産物・特産品	誘客施設
<ul style="list-style-type: none"> • 安慶名城跡など 	<ul style="list-style-type: none"> • 野鳥の森自然公園 • 宇堅ビーチなど 	—	<ul style="list-style-type: none"> • うるマルシェ • 中城湾港（クルーズ） • 具志川野球場 • 具志川多種目球技場クラブハウスなど

■主な取組方針

- うるマルシェでは、農産物を活用した新たな商品開発と提供を推進し、食の魅力向上を図ります。また、農地を活かした農業体験等の体験型観光メニューの推進や、食の魅力向上を図ります。
- 野鳥の森自然公園や宇堅ビーチなどの自然を生かした自然体験やマリンレジャーの開発を推進します。
- ビジネス目的の滞在者が多い中城湾新港地区ではワーケーションやナイトコンテンツを推進します。
- 中城湾港ではクルーズ船受入れに向けた体制の整理を図ります。また、海外のクルーズ客の来訪を見据え多言語対応や周遊ルートの検討を推進します。
- 2月のキャンプシーズンでは具志川野球場を拠点として阪神タイガースファンの周遊促進を図ります。
- 具志川多種目競技場クラブハウスを拠点としてプロサッカーチーム等の誘致の強化を図ります。
- 近接する沖縄市にてプロスポーツイベントが開催される際には連携を図ります。

3. 勝連・与那城地域

～勝連城跡や海中道路、島しょ地域などの保全と活用の両輪による誘客エリア～

■概要

- ・勝連・与那城地域は、うるま市内を南東に伸びる勝連半島と8つの島から成り立っています。
- ・金武湾と中城湾の両湾に面した美しい海岸・島々や斜面地や丘陵地が多く起伏に富んだ風景がみられます。
- ・沖縄有数の観光地であり、世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つである勝連城跡や、沖縄最古の伝統を守る平敷屋エイサー、海中道路等を見に人々が訪れます。
- ・勝連地域では、勝連城 10 代目城主「阿麻和利」の半生を描いた地元の小中高生による「現代版組踊 肝高の阿麻和利」が 20 年以上受け継がれてきています。
- ・本地域は、もずく生産量が全国一位であり、沖縄県内のもずく生産の約4割を占めています。



■主な地域資源

歴史・文化	自然・景観	農水産物・特産品	誘客施設
<ul style="list-style-type: none"> ・勝連城跡 ・仲原遺跡 ・肝高の阿麻和利など 	<ul style="list-style-type: none"> ・海中道路 ・島々の景色など 	<ul style="list-style-type: none"> ・もずく ・小麦 ・塩、ピーグ ・津堅にんじんなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまわりパーク ・東照間商業等施設 ・あやはし館 ・ロードパークなど

■主な取組方針

- ・世界遺産勝連城跡及びその周辺地域の歴史的価値・文化的価値の保全と活用による魅力向上を図ります。
- ・浜比嘉島などの島しょ地域については観光客の受入れにあたって地域住民の生活の妨げとならないよう適切な観光地マネジメントを推進します。
- ・本地域に広がる農地を活かした農業体験等の体験型観光メニューの推進を図ります。
- ・来訪割合が最も高い海中道路については、あやはし館とロードパークの機能強化と魅力創出に取り組みます。
- ・旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線については「勝連・与那城地域まちづくり推進計画」に基づき利活用促進を図ります。
- ・浜比嘉島地域交流拠点施設／hamachū（ハマチュー）を活用したワーケーションの推進を図ります。
- ・肝高の阿麻和利を活かした観光体験プログラムの推進を図るとともに、きむたかホールの機能強化による文化観光ネットワークの構築を行います。
- ・マリンスポーツプログラムや島しょ地域を活用した体験プログラムの開発支援を行います。
- ・「つむぐうるまプロジェクト」などの取組により、もずくや小麦、塩、ピーグなどの特産品のブランド化を図ります。
- ・世界遺産勝連城跡等の地域資源を活かした MICE の推進を図ります。

第6章 セグメント別の取組方針

本ビジョンでは各セグメントに対して効果的な誘客や受入を展開していきます。

セグメントは大きくは県外観光客、県内観光客、外国人観光客にて捉えます。県外客・県内客については、アンケート結果等より把握した世代ごとの目的や訪問先の特性から取組を展開していきます。

1. 県外観光客

- ・県外客は観光地巡りを一番の目的としており、次いで沖縄料理を楽しむ、保養・休養、海水浴・レジャーが続きます。目的地は海中道路が最も多く、次いでピオスの丘、世界遺産勝連城跡、果報バンタが多いです。
- ・また、観光地巡りが主な目的である県外客ですが、離島（伊計島・津堅島等）やうるマルシェなどは県内客より訪問割合が低く、認知されていないことが想定されます。
- ・世代によって訪れるシーズンやニーズが異なることが想定されます。

県外Z世代・ミレニウム層（10代～30代）

特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海水浴やマリレジャーを目的とした割合が高く比較的アクティブであることが想定されます。 ■ 一方で、本世代のうち特に女性はのんびりしに来たとする割合が高く、離島への訪問割合も高いです。また、沖縄料理を楽しみたい割合も高いです。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ マリレジャーなどのアクティブな体験を訴求するとともに、主に女性をターゲットとしてのんびりとした離島巡りの提供を行うことが有効と考えられます。 ■ 食を楽しみに来ているため、うるま市ならではの食の提供も効果的と考えられます。

県外ミドル層（40代～50代）

特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海水浴やマリレジャーを目的とした割合が高いですが、特に女性は目的や訪問先は少ない傾向にあります。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子連れ家族が多いことが想定されるセグメントでは、東照間商業等施設やあやはし館、ぬちまーすなど家族でゆっくり楽しめる観光体験の提供が考えられます。 ■ ゴールデンウィークや夏のピーク期に訪れることが想定されるため、混雑情報の提供することが有効と考えられます。

県外シニア層（60代以上）

特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本世代は世界遺産勝連城跡や離島（伊計島、津堅島等）への訪問が多く、海水浴やマリレジャーを目的とした訪問は少ないです。 ■ 戦跡地参拝も一定程度おり、歴史や文化への興味があることが想定されます。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史や文化への興味があることが想定されるセグメントに対しては世界遺産勝連城跡や地域の史跡、闘牛などの歴史・文化をストーリー立てて提供することが考えられます。 ■ また、比較的時間に余裕のある同世代については夏のピーク期を外した季節での誘客が平準化に寄与することが期待されます。 ■ 海水浴やマリレジャーの体験意向は低いですが、のんびりと海を眺めることにニーズがある可能性があります。

2. 県内観光客

- ・県内客は幅広い世代が主にドライブとショッピングを目的としており、海中道路やうるマルシェに訪れています。うるま市への訪問は観光地めぐりという意識は低い県内客ですが、全ての季節に訪れることが可能であり、未永いリピーターとしてニーズを把握していくことが重要です。

県内Z世代・ミレニアム層（10代～30代）

特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県内客のなかでも他の世代より海やマリトレジャー、ピオスの丘などに訪れています。 ■ 他の世代より帰省・親戚等の訪問をきっかけとした立ち寄りも多いです。 ■ 特に女性は他のセグメントより様々な目的やエリアに訪れておりアクティブです。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海中道路周辺のマリトレジャーなどのアクティブな体験を提供することが有効と考えられます。 ■ 多くのエリアを周遊してもらえるような仕掛けづくりも重要です。

県内ミドル層（40代～50代）

特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本世代は特に女性はショッピングを目的とした訪問が多く、うるマルシェへの訪問割合が多いです。 ■ 訪問箇所は他の世代より少なく、離島めぐりや保養・休養を目的とした訪問もやや多く、のんびりとした観光スタイルです。 ■ 本世代の男性は仕事をきっかけとした訪問も多いです。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子連れ家族も多いと想定される本世代は、東照間商業等施設、ピオスの丘、闘牛などののんびり過ごせる観光地の情報を提供することが効果的と考えられます。 ■ 仕事にて訪れた際に昼食施設等と連携し、パンフレット等によるうるま市の魅力に気づいてもらうきっかけづくりも誘客の可能性がります。

県内シニア層（60代以上）

特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他の世代よりドライブや友人・知人への訪問を目的としており、海中道路や海の駅あやはし館への訪問が多いです。 ■ 男性は他の世代より闘牛や海・マリトレジャーなどの訪問先が多く、ややアクティブです。 ■ ショッピングの割合は他の世代と同程度ですが、うるマルシェへの訪問は他の世代より少ないです。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海中道路やあやはし館を起点としていることが想定されるため、海の駅あやはし館において特産品の販売やパンフレットや看板等による市内周遊のきっかけを提供が効果的と考えられます。 ■ また、うるマルシェや東照間商業等施設などの新たな拠点へ誘導が重要と考えられます。

3. 外国人観光客

- ・外国人観光客については今後、回復していくことが予想されます。
- ・以下では国籍・地域別の特性と方針について、沖縄県の外国人観光客実態調査（令和元（2019）年度）や沖縄観光コンベンションビューロー（以下、OCVBと称す）の地域別海外誘客プロモーション計画（令和元（2019）年度～令和2（2020）年度）より整理しました。

台湾	
特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 旅行国籍別の割合で最も高い（令和元（2019）年度に約3割）ですが、近距離の旅行先としての意識があり長期滞在は少なく中国、香港と比べると消費額は若干低いです。 ■ 個人手配の比率が高くレンタカーを交通手段とし、家族・親族での訪問が多いです。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ リピーター層について SNS を活用した継続的な情報発信が重要と考えられます。 ■ 家族や親族でゆっくり楽しめるような食事（BBQ）や観光体験も想定されます。
韓国	
特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 20～30代の比較的若い層が中心で、消費力のある40代以降の割合が低いです。 ■ 個人手配が大半であり、家族、友人同士のグループ旅行が中心です。アジア圏域のなかでは、ひとり旅の割合も多いです。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 若い層に対してはマリンスポーツなど、アクティブな体験が効果的と考えられます。 ■ SNS等でひとり旅に訪れやすいイメージを発信することも可能性があります。
香港	
特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 祝祭日と合わせた年休取得で連休が作りやすく、年に1～4回海外旅行に行く旅行意欲の高い市場です。 ■ 30～40代、女性の割合が高いです。個人旅行での旅行が主となります。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ ピーク期を意識した効果的な情報発信を進めるとともにボトム期の魅力発信にも取り組むことで平準化が期待されます。 ■ 30～40代女性に対する島しょ地域観光や食の充実が重要と想定されます。
中国	
特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 訪日・訪沖経験は他の市場に比べて「初めて」が多く、人口から見ると潜在層はさらに大きいと考えられます。 ■ レンタカー利用者は少なく公共交通やタクシーによる移動が主となります。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ ボリュームの大きい潜在層に対してリーチすることが重要と考えられます。 ■ レンタカー利用が困難であるため、路線バス等の二次交通によるアクセス・周遊を図ることが重要です。
その他（欧米豪、東南アジア）	
特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 欧米豪は個人手配で訪れており、自然や文化に興味のある層が多い傾向です。 ■ 空港路線の拡充や所得向上等により東南アジアは今後の需要拡大が見込まれます。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 欧米豪に対しては歴史・文化や自然を生かしたテーマ型観光を推進します。また、動物愛護などのアニマルウェルフェアを考慮した取組を推進します。 ■ 東南アジアについては路線等の動向を注視しつつ効果的な情報発信を行います。

4. 目的特化型のセグメント

- 一般的な観光地巡りだけではなく、今後需要が見込まれる世界遺産等の史跡巡り、闘牛鑑賞、島しょ地域巡り、サイクリングやプロスポーツのファンなど特定の目的に特化した方もセグメントとして位置づけていきます。

世界遺産等の史跡巡り

特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」では、勝連城跡や首里城など県内9か所の史跡が登録されています。 ■ 勝連城跡を訪れる方は世界遺産や城跡、史跡のファンも訪れています。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ あまわりパークなど観光客の受入環境を整えるとともに、勝連城跡及びその周辺地域の歴史的価値・文化的価値の保全を図ることが効果的と考えられます。 ■ リピーター化を見据えて SNS 等を活用した効果的な情報発信が重要と考えられます。

闘牛鑑賞

特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 修学旅行やツアーに組み込むことで闘牛鑑賞の機会は増えてきました。 ■ 県内客もイベントを通じて闘牛鑑賞の機会が増えてきました。 ■ 動物愛護等のアニマルウェルフェアを意識した層からは、敬遠される傾向があります。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 団体旅行のツアーに組み込めるよう販売先の開拓と受入れ体制の強化が重要です。 ■ イベントやツアーをきっかけに訪れた方に対して、SNS 等を通じて継続的な闘牛イベント等の情報を発信することで、闘牛ファンの拡大につながると想定されます。

海中道路への訪問、島しょ地域巡り

特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県内外の観光客の多くは海中道路を訪れており、うるま市観光といえば海中道路といったイメージを持つ割合も多いです。 ■ 島しょ地域を巡る方やマリンレジャーを楽しむ層など多様な客層がいます。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 観光拠点である海の駅あやはし館、海中道路ロードパークの機能強化と魅力創出が重要と考えられます。 ■ 島しょ地域や海洋環境の保全活動を進めるとともに同活動を効果的に発信することでブランド構築に寄与することが期待されます。

サイクリング

特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ サイクリストは早朝から活動を開始しており、海中道路や島しょを周遊しています。 ■ レースに参加する本格的な層から景観を楽しむ層など幅広い層がいます。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自転車ラック整備や周遊コースなど、サイクリストのニーズに応じた対応を推進することで、サイクリングといえば、「うるま」というイメージ形成につながることが期待されます。 ■ 早朝に開いている店舗がなく、コンビニなどで食事を済ませてしまうサイクリストが多いため、早朝観光などの取組により消費拡大に寄与することが期待されます。

スポーツコンベンション、プロスポーツのキャンプ見学

特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和5（2023）年2月より阪神タイガースの2軍のキャンプを受け入れており、同球団のファンが市内観光地に多く訪れるなどポテンシャルを秘めています。 ■ こうしたプロスポーツファンはコミュニティによる情報共有が盛んです。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ キャンプ見学やスポーツ観戦だけではなく、市内滞在や周遊促進に寄与するようプロスポーツ団体と連携した情報発信等に取り組むことが効果的と考えられます。 ■ スポーツをきっかけとしてうるま市のファンになってもらいその他の季節にも来訪してもらう仕掛けづくりも重要です。

第7章 取組の推進体制と計画管理

1. 取組の推進体制

- 現行のビジョンの推進体制では、学識者や市民、観光関連団体等や行政等で構成される「うるま市観光まちづくり推進協議会」にて、観光振興ビジョンに基づく各種施策の推進や観光振興に関する協議を行っています。また、「うるま市観光イベント課」と「(一社)うるま市観光物産協会」が中心となり、様々な体験メニューの提供、イベントの開催、民泊、スポーツ合宿の誘致等に取り組んでいます。加えて、うるマルシェ、東照間商業等施設、宿泊施設、飲食店などの「観光関連の事業者」についても、それぞれが誘客等の取り組みを行っています。
- これらの動きを踏まえ、改定前のビジョンと同様に、「うるま市観光イベント課」と「(一社)うるま市観光物産協会」が両輪となり、各主体の役割分担及び協働と連携による取組みと、それら取組みへの支援を進めながら、本ビジョンに沿った観光振興を推進します。
- 本ビジョンでは、特に、統一イメージの形成とブランドの構築を重点的に実施することから、「(一社)うるま市観光物産協会」が中心となり、マーケティング、情報発信、観光推進体制の構築といった一連の取り組みを、統合された戦略に基づいて展開することで、より効果的な取り組みに繋げていきます。
- さらに、観光に関わる庁内外の多様な主体との協働のもとに施策を実施するとともに、沖縄県・OCVB との連携、市町村との広域連携、関係各課の観光振興に関わる取組の支援を行います。

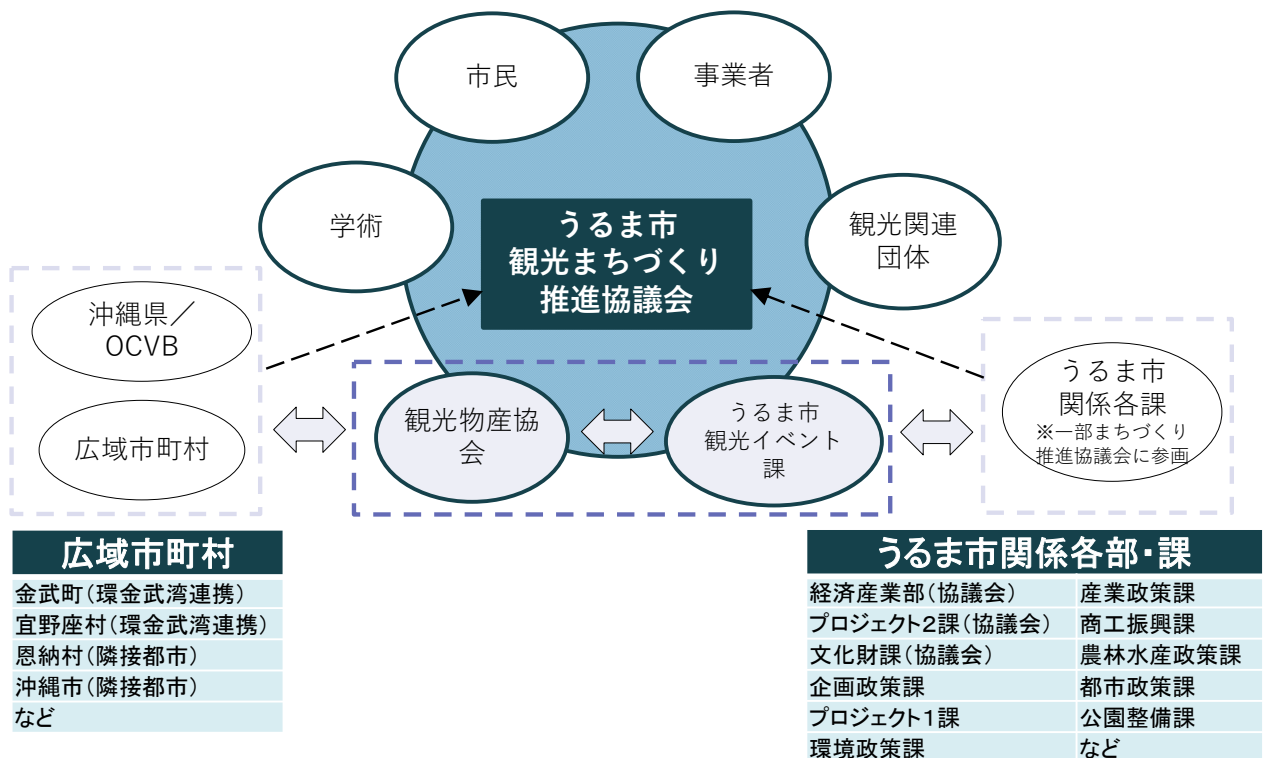


図 観光振興ビジョンの推進体制

各主体	役割
観光まちづくり 推進協議会	①うるま市における観光振興の中心組織として、うるま市観光振興ビジョンに 基づく各種施策の推進 ②うるま市観光振興ビジョンの進捗確認 ③その他、観光振興に関する各種協議の実施 【協議会構成委員】 1号委員：知識経験を有する者 2号委員：関係団体及び関係機関に従事する者 3号委員：公募の市民 4号委員：関係行政機関の職員 5号委員：市職員 6号委員：その他特に市長が必要と認める者
市民	①観光に関する関心と理解 ②観光客に対する、おもてなしの心の醸成 ③地域資源の掘り起しと活用に対する、積極的な参画 ④観光に係わる取り組みへの、積極的な参加
事業者	①各事業者の、観光に関わる本業の積極的な展開 ②他の主体との連携による事業展開の可能性の検討及び実行 ③イベントをはじめとした市内で展開される観光関連事業に対する積極的な参 加 ④入込客数、消費額等、観光の実態や動向に関わる基礎データ収集への協力
学術	①観光振興への助言（協力・支援／助言）
観光関連団体 （うるま市商工 会、漁協、JA、 文化関係団体等）	①各団体の課題解決に、観光を活用することの検討 ②観光関連事業者等、他主体との協力及び連携 ③特産品や体験メニュー等の開発・提供、それを実施する事業者との連携・協力 ④入込客数、消費額等、観光の実態や動向に関わる基礎データ収集への協力
（一社）うるま市 観光物産協会	①観光振興ビジョンの目標達成に向けた情報発信の実施 ②他地域の観光協会との連携による観光振興の取り組み、情報交換及び情報発 信の実施 ③各主体の取り組みや、うるま市各課の取り組みとの連携 ④入込客数、消費額等、観光の実態や動向に関わる基礎データ収集への協力
うるま市 観光イベント課	①うるま市における観光振興の中心組織として、方針と計画の策定、目標設 定、進捗管理、計画の見直しの実施 ②市内イベントの実施／支援 ③観光振興に要する組織横断的取り組みの検討と実行、各課の事業との連携 ④各主体への助成・補助制度活用の検討、人的支援、活動場所や情報の提供 ⑤県内の他自治体との連携事業等の検討と実施、情報交換等の推進 ⑥入込客数、消費額等、観光の実態や動向に関わる基礎データの収集・整理・ 報告
県／OCVB	①県行政とうるま市間での情報共有と協議／連携して情報発信や受入環境の整 備、プロモーション ②県全体の観光地域づくり法人（広域連携 DMO）として、関係省庁、地域 （行政・観光協会・DMO）、観光業界及び観光関連団体の紹介／取組の助成 等
うるま市各関係課	①観光振興ビジョンに位置付けている施策の推進／進捗報告

2. 計画管理

- 本ビジョンの取り組みを推進し目標を達成するため、うるま市観光まちづくり推進協議会を審議機関と位置付け、進捗状況の報告を定期的（年3回を想定）に行い、必要に応じて計画の見直しを行います。
- 各年度のはじめに、各施策の管理ファイルを活用して、具体的取り組みの所管課に対して、施策の実施状況、今年度の実施内容について意見照会を図り、事務局にて各取り組みの進捗状況及び今後予定を把握します。
- 各年度の中間に、うるま市観光まちづくり推進協議会にて、数値目標の進捗報告及び次年度取組施策に関する協議を行います。その結果を踏まえ、庁内会議（年1回）にて、「関係部署への結果報告／施策等の意見交換」、「観光振興ビジョンの実施事業等の追加・変更」を検討するなど、うるま市観光まちづくり推進協議会と市各部署・観光関連団体と一体となって計画管理を図ります。
- 観光振興ビジョンに関連する各種取り組みの検証は、次期ビジョンの改定年の令和9（2027）年度を予定し、進捗の確認及び目標等の見直しを実施します。

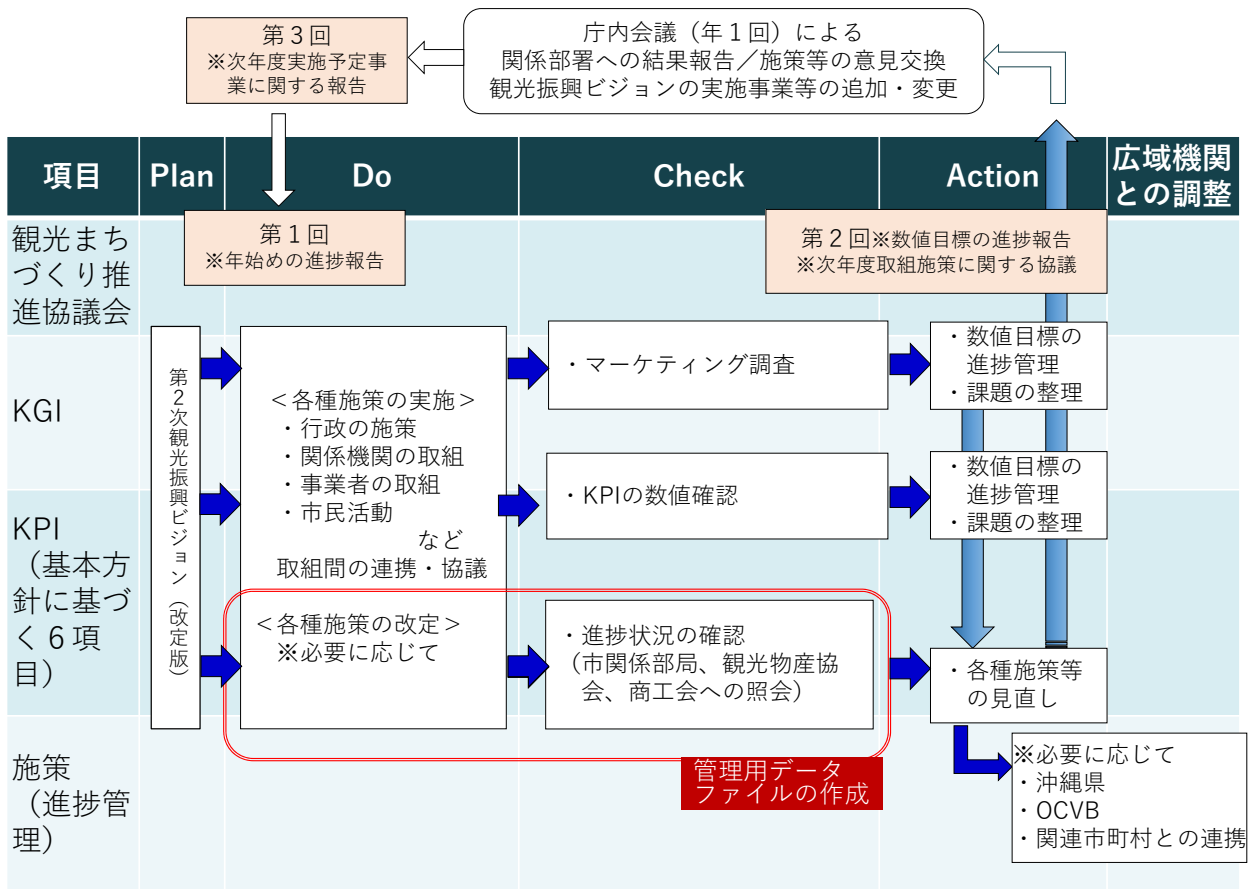


図 進行管理

巻末資料

巻末資料－１：うるま市の主な地域資源

巻末資料－２：観光客アンケート調査結果

巻末資料－３：市民アンケート調査結果

巻末資料－４：観光事業者アンケート調査結果

巻末資料－５：各種会議・WGの開催結果

巻末資料－６：うるま市観光まちづくり推進協議会設置要綱・委員名簿

巻末資料－1：うるま市の主な地域資源

うるま市の主な地域資源（1/4）

分類	地域資源の名称
1. 自然・風景	1 石川岳
	2 石川川のマングローブ
	3 妙山(グール岳)
	4 石川ビーチ
	5 昆布ビーチ
	6 宇堅ビーチ
	7 具志川ビーチ
	8 照間ビーチ
	9 海中道路ビーチ
	10 兼久ビーチ
	11 浜比嘉ビーチ(浜の人工ビーチ)
	12 トンナハビーチ
	13 伊計ビーチ
	14 大泊ビーチ
	15 ムルク浜ビーチ
	16 トゥマイ浜
	17 天願川
	18 屋慶名海峡
	19 浜比嘉島
	20 平安座島
	21 宮城島
	22 伊計島
	23 津堅島
	24 金武湾にある西ノ岩
	25 浜比嘉島のサンゴ礁
	26 津堅島のサンゴ礁
	27 石川高原展望台から見る風景
	28 野島の森自然公園の風景
	29 天願川の風景
	30 世界遺産の勝連城跡の風景
	31 屋慶名展望台からの屋慶名海峡の風景
	32 海中道路からの風景(朝日)
	33 干潮時の風景
	34 ムルク浜海岸の風景
	35 浜比嘉集落の風景
	36 浜比嘉大橋からの風景
	37 平安座島高台の風景
	38 宮城島を望む海からの風景
	39 果報パンタの風景
	40 果報パンタを望む海からの風景
	41 シヌグ堂パンタの風景
	42 ウフパンタの風景
	43 ホテルや野鳥が棲む天願川の風景
	44 宮城島から伊計島に続く伊計大橋からの風景
	45 津堅島から見た風景
	46 兼箇段の電照菊
	47 伊波城址から見た夜景
	48 イッパー通り

分類	地域資源の名称
2. 歴史	49 伊波城跡
	50 安慶名城跡
	51 兼箇段グスク
	52 江洲グスク
	53 喜屋武城跡
	54 勝連城跡
	55 平安座西グスク
	56 平安座東グスク
	57 伊計グスク
	58 泊グスク
	59 比嘉グスク
	60 伊波貝塚
	61 仲原遺跡
	62 平安名貝塚
	63 ワイトゥイ
	64 平敷屋タキノ
	65 製糖工場跡
	66 地頭代火ぬ神
	67 アマミチューの墓
	68 新川・クボウグスク周辺の陣地壕群
	69 兼箇段ジョーミーチャー墓
	70 田場ガ
	71 大田坂
	72 沖縄諮詢会堂跡
	73 東恩納博物館跡
	74 石川部落事務所
	75 犬名河
	76 クボウグスクの植物群落
	77 嘉手刈観音像
	78 ヤンガー
	79 ガーラ缸
	80 ぬちまーす観光製塩ファクトリー ぬちうなーレストラン「たかはなり」
	81 南風原の村獅子
	82 伊波ヌール墓
	83 シルミチュー
	84 宮城御殿
	85 与佐次川
	86 中の御嶽
	87 ヒッチャマー
	88 ヤブチ洞穴遺跡のシャネーガマ
	89 ホートゥガー
	90 シヌグ堂遺跡
	91 ヌチシヌジガマ
	92 仲良し地蔵
	93 「戦後教育発祥の地」の石碑
	94 浜千鳥節の碑
	95 高離節の歌碑
	96 伊計離節の歌碑
97 あまわりパーク歴史文化施設	

うるま市の主な地域資源（2/4）

分類	地域資源の名称
3. 休養施設	98 ビオスの丘
	99 うるま市立石川歴史民俗資料館
	100 うるま市立海の文化資料館
	101 うるま市立与那城歴史民俗資料館
	102 東山カントリークラブ
	103 沖縄ロイヤルゴルフクラブ
	104 具志川ゴルフクラブ
	105 高原ゴルフクラブ
	106 ぬちまーす観光製塩ファクトリー ぬちうなー
	107 海の駅 あやはし館
	108 石川青少年の家
	109 石川市民の森（うるま市民の森公園）
	110 石川公園
	111 安慶名中央公園
	112 石川イベント公園(多目的イベント公園)
	113 うるま市民芸術劇場
	114 石川会館
	115 きむたかホール
	116 キャロット愛ランド キャンプ場
	117 石川多目的ドーム
118 安慶名闘牛場	
119 伊波闘牛場	
120 倉敷ダム	
4. 文化・芸能	121 現代版組踊「肝高の阿麻和利」
	122 津堅島の唐踊り
	123 マーラン船の建造技術
	124 伊波メンサーの織技術
	125 南風原の獅子舞
	126 天願獅子舞
	127 平安名のウムイ・キューナ
	128 田場ティンペー
	129 宮城ウシデーク
	130 浜比嘉島のカジマヤー
	131 エイサー
	132 ハーリー
	133 あまわり浪漫の会
5. 祭・イベント	134 全島闘牛大会
	135 全島獅子舞フェスティバル
	136 うるま祭り

分類	地域資源の名称
5. 祭・イベント (つづき)	137 にーびち余興王決定戦
	138 うるま市産業まつり
	139 うるま市エイサーまつり
	140 ハーリー祭り
	141 あやはし海中ロードレース大会
	142 うるままるごと音楽祭
	143 龍神の宴
	144 うるみん健康・福祉まつり
	145 ていーだフェスタ in J パワー
	146 韓国プロ野球 キャンプ場
	147 阪神タイガース2軍 キャンプ場
	148 まるごと津堅島祭り
	149 伊計島豊年祭
	150 サングウチャー
	151 もすく祭り
	152 ゆいゆいウォーク
	153 キャンプコートニー（天願米軍基地）のイベント
154 ホワイトビーチフェスティバル	
155 ぐしく島唄あしび	
156 島のクラフトピクニック	
157 うるまシマダカラ芸術祭	
6. 健康・運動	158 うるま市具志川総合体育館
	159 うるま市具志川総合グラウンド
	160 うるま市具志川庭球場
	161 うるま市具志川野球場
	162 うるま市具志川ドーム
	163 喜屋武マープ庭球場
	164 うるま市石川野球場
	165 うるま市石川運動場
	166 うるま市石川屋内運動場
	167 うるま市石川庭球場
	168 ぬちまーす観光製塩ファクトリー ぬちうなー レストラン「たかはなり」
	169 うるま市石川市民プール
	170 うるま市勝連B&G海洋センター
	171 うるま市与那城勝連総合グラウンド
172 うるま市与那城総合公園陸上競技場	
173 うるま市与那城庭球場	
174 うるま市与那城多種目競技場	

うるま市の主な地域資源（3/4）

分類	地域資源の名称
7. 体験	175 山城紅茶農園(茶畑手積みと紅茶づくり、農家)
	176 伝統菓子づくり体験(サーターアンダギーとムーチャーづくり)
	177 おきなわの家庭料理体験
	178 エイサー体験
	179 琉球古武道(棒術と空手) 体験
	180 三線体験
	181 琉球舞踊体験
	182 琉球ガラス工芸工房石川本店
	183 合名会社新里酒造の工場見学
	184 美原乗馬クラブ
	185 馬ぐあ広場
	186 浜比真島の塩工房高江洲製塩所
	187 マリンアイランド
	188 アクアラインマリソクラブ
	189 サーフィン
	190 カイトサーフィン
	191 ウィンドサーフィン
	192 モーターパラグライダー
	193 サップ(スタンドアップパドル) 体験
	194 シーカヤック体験
	195 うるま市勝連城跡コガ体験
	196 サイクリング
	197 鳥すば たあば〜家
	198 越来造船(釣船あかね丸)
	199 CAVE OKINAWA
	200 ハンザキビンガタ
	201 芭蕉布こもれび工房
	202 琉球ガラス工房 ミツ星
	203 Calmly Okinawa(カームリーオキナワ)
	204 紅型・デザイン工房 ten天
	205 ブルースカイ
	206 マリンピース
	207 ポポロポイント
	208 ブルーラグーンオキナワ
209 Mマリンスポーツ企画	
210 もりもりマリン	
211 うるま潜水	
212 カモメのジョナサン	
213 小さな島のフォトスタジオ	
214 命と平和の語り部 NPO法人石川・宮森630会	
215 ワイドーaiプロ株式会社	
216 サイクルプラザ池原	
217 美しま島海道案内所(観光協会)	
218 勝連城跡あまわりパーク観光案内所	
8. 特産・食	219 かね食堂
	220 菓子・パン工房 フティ・フル石川店
	221 沖縄季節料理 薬料理店
	222 レストラン マカンマカン
	223 ぜんざい家 Mother Leaf
	224 鉄板焼ステーキハウス キャピタル

分類	地域資源の名称
8. 特産・食 (つづき)	225 キャッスルハイランダー
	226 洋菓子喫茶 フクロク亭
	227 味処 田舎庵
	228 和・洋菓子とそうざいの店 ふくや
	229 Café PIPINEO
	230 hinata café
	231 珈琲豆焙煎工房グッドカンパニー
	232 お食事処 おでん いこい
	233 居酒屋 あがりしま
	234 具志川そば
	235 たまご屋
	236 いさ屋
	237 ケーキのトミーズ/ cotta café
	238 B・B・R
	239 黄金茶屋
	240 ベーカリー パンの木/ café ゆくれ
	241 うるまジェラート
	242 ごはん屋どまゐに
	243 キングタコス 与勝店
	244 万鐘 ももと庵
	245 佐久田バーラー
	246 丸一食品株式会社 塩屋店
	247 海の駅 あやはし館
	248 A.J リゾートアイランド伊計島 レストラン HIBIS(ハイビス)
	249 伊計ビーチ ビーチ食堂
	250 ぬちまーず観光製塩ファクトリー ぬちうなー レストラン「たかはなり」
	251 いっぶく屋 Island Henza
	252 海産物お食事処 ナカヌ浜
	253 フロンジェリーカフェ・ヤマシタ
	254 レストラン 平安
	255 海鮮食堂 味華(あじけー)
	256 丸吉食品
	257 古民家食堂 ていーらぶい
258 ホテル浜比嘉島リゾート レストラン 浜比庭(はびな)	
259 民宿神谷荘	
260 食事処 津堅みやらび	
261 農事組合法人うるま農場	
262 Kainowa	
263 有限会社神村酒造蔵元直売店	
264 泰石酒造	
265 うるま市石川漁業協同組合 婦人直売店	
266 Ile des pins	
267 イイダコ釣り	
268 海ぶどう養殖場	
269 照間ビーグ	
270 サポートセンターアジユテ	
271 てるる詩の木工房(木下工房李陽)	
272 株式会社 海邦商事	
273 株式会社高江洲製塩所	

うるま市の主な地域資源 (4/4)

分類	地域資源の名称
8. 特産・食 (つづき)	274 久米水産株式会社
	275 紅型Lab 邦
	276 手作り加工所 あやかりん
	277 勝連漁業協同組合
	278 昭和製紙株式会社
	279 照屋勝武三線店
	280 竹馬製作所
	281 Gallery はらいそ
	282 農業生産法人 株式会社沖縄紅茶農園
	283 農業生産法人 有限会社池宮城畜産
	284 農業生産法人 (有)たいよう
	285 農業組合法人 沖縄県薬草協同組合
	286 繭からふ工房
	287 陶扇 土火人
	288 あんだかしー専門店 龍華
	289 津波三味線店
	290 池武当新垣三線店うるま店
	291 otama
	292 うるマルシェ
	293 オキナワフレッシュ
	294 パーラー照間
	295 うるま陶器
	296 Takahanari mart.
	297 とんぼ玉工房 緑の風
	298 空とコーヒーとうきぐも
	299 島パーラー浜比嘉店
	300 沖縄そば ババイヤとスフライ
	301 churana
	302 やぎとそば太陽
	303 無化調 沖縄そば 帆掛きそば
	304 食堂 幸叶
	305 エストバーガー
	306 好きやねんハルちゃん
	307 タマゴサンドとオムライスのお店 うるたま
	308 うるまひもの食堂
	309 東海岸BBQ TERUMA
	310 麵家丸翔
	311 海中茶屋
312 肉や食堂inへんざ	
313 オープンTERUMA	
314 Ba・Cafe宙	
315 たらの芽	
316 居酒屋 島吉	
317 沖縄そば まるやす	
318 あごーりば食堂	
319 浜比嘉島レストランむいに一亭	
320 サザンホープ浜比嘉	
321 沖縄オーガニックフーズ株式会社	
322 有限会社 名嘉眞製菓	
323 琉球歴史探訪社	
324 農業生産法人合同会社 萌芽	
325 Life Style café	
326 Tettoh Coffee	
327 合同会社 海市水産	
328 株式会社 松藤	
9. 宿泊	329 ココガーデンリゾートオキナワ
	330 春日観光ホテル
	331 ホテル浜比嘉島リゾート
	332 ホテル潮騒

分類	地域資源の名称
9. 宿泊 (つづき)	333 民宿やすま
	334 民宿神谷荘
	335 コテージ伊計 海の唄
	336 民宿レキオ
	337 民宿中央荘
	338 ザ・ホワイトトリフ
	339 ゲストハウス ラフスタイル
	340 かりゆしコンドミニウムうるまレジデンシャルデルソル
	341 民宿かいほう
	342 ペンション山城
	343 ホテルハーバー
	344 ゲストハウス 赤道直家
	345 民宿ちねん
	346 AJリゾートアイランド伊計島
	347 はなりびら
	348 アイランドフリーダム
	349 観光ビジネスホテル平安
	350 アイランドホテルへんざ
	351 413 hamahiga hotel&café
	352 ゆがふの郷
	353 民宿つけん
	354 民宿おうち-ouchi-
	355 南原旅館
	356 アンサ沖縄リゾート
	357 HIDEOUT OKINAWA URUMA
	358 AMAWARI HOTEL
	359 FUNBASE うるま
	360 URUMA DOME OKINAWA
	361 宿&喫茶アガリメジャー
	362 ISLAND RESORT 76
	363 ホテル沖縄
	364 トリップショットヴィラス・ハマヒガ
	365 THE STELLA HAMAHIGA
	366 コテージ伊計海の唄
	367 Henza Getaway
	368 カフーイン勝連シートピア
	369 HOTEL R9 The Yardうるま
370 浜比嘉島地域交流拠点施設/hamachū (ハマチュー)	
10. 産業 ・団体・教育	371 具志川火力発電所
	372 石川火力発電所(夜間ライトアップ)
	373 うるま市メガソーラー発電所
	374 沖縄石油基地
	375 沖縄IT 津梁パーク
	376 うるま市IT 事業支援センター
	377 いちゅい具志川じんぶん館
	378 石川地域活性化センター舞天館
	379 中城湾港(クルーズ客船)
	380 一般社団法人うるま市観光物産協会
	381 一般社団法人プロモーションうるま
	382 特定非営利活動法人 ぶるぶ
	383 沖縄SV
	384 ゆがふ製糖株式会社
	385 N 高等学校
	386 介護旅行うるまファミリー
	387 有限会社ステージングオキナワ
	388 株式会社黒糖本舗 垣乃花
	389 株式会社 NATION
	390 うるま市 闘牛組合

巻末資料－2：観光客アンケート調査結果

うるま市観光客アンケート

観光客の満足度やニーズ、観光動向、消費金額を把握することを目的として、WEB アンケート調査（調査会社を通じた調査）を実施した。

実施概要

観光客アンケートについて、実施概要を以下に示す。

以下の集計については、コロナ禍にうるま市来訪経験あり（県外）300 サンプルを代表的な結果として示し、その他の項目（県内来訪あり、県外未来訪、県内未来訪）については、参考結果として示す。

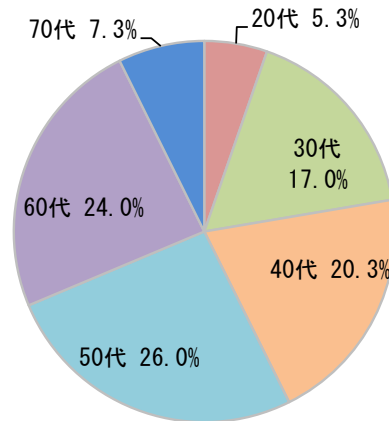
項目	内容
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ○18 歳以上の県内外の観光客（コロナ禍に来訪） ○本調査は前回と同数の 1,000 人程度とし、事前調査は本調査の人数が取得可能な数とする ○前回調査との比較のため、下記の4区分で分類する。（沖縄来訪3年以内とする） <ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍にうるま市来訪経験あり（県外）300 サンプル ②コロナ禍にうるま市来訪経験あり（県内）300 サンプル ③コロナ禍沖縄来訪・うるま市未来訪者（県外）300 サンプル ④うるま市未来訪者（県内）100 サンプル
調査方法	WEB調査
質問項目	<ul style="list-style-type: none"> ○過年度と同様の設問 <ul style="list-style-type: none"> ・県内で来訪したことのある市町村 ・来訪目的 ・同行者 ・旅行で興味・関心のある項目 ・市内での宿泊数 ・立ち寄った観光地 ・行ったことが無い理由 ・うるま市の地域資源の認知度及び関心度 ・うるま市観光の満足度 ・一人当たり消費額 ・観光客がうるま市へ求めているもの（食、観光に対する要望） 等 ○過年度設問からの追加設問（コロナに対する設問） <ul style="list-style-type: none"> ・目標設数値の検証に資する項目（現状値、市内消費額、宿泊日数、観光の満足度、お土産購入割合） ・コロナ禍における観光動態の変化（来訪意欲、来訪頻度、安全性への配慮） ・コロナ禍におけるうるま市観光への期待 ○観光客調査、市民調査と比較可能な設問 <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興に向けて期待すること、うるま市の課題 など
とりまとめイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ○目標設数値の検証 ○コロナ前・コロナ禍における観光動態の変化 ○コロナ禍における観光の課題などを整理

※次項以降に沖縄県外からの旅行者の結果を掲載する。ただし、本編に掲載している分析結果（グラフ等）は重複の為割愛する。

実施結果

①年代

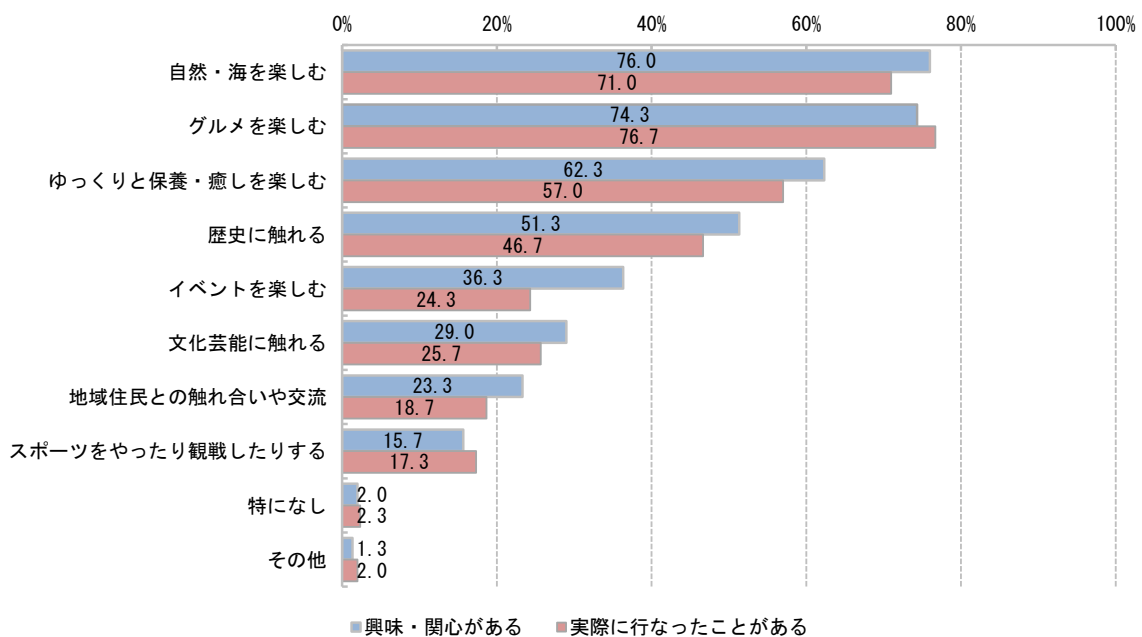
〇年代については、「50代」が26.0%と最も多く、ついで「60代」が24.0%、「40代」が20.3%となっている。



n=300

②沖縄県内の旅行で、興味・関心のあるものと、実際に行なったことのあるもの

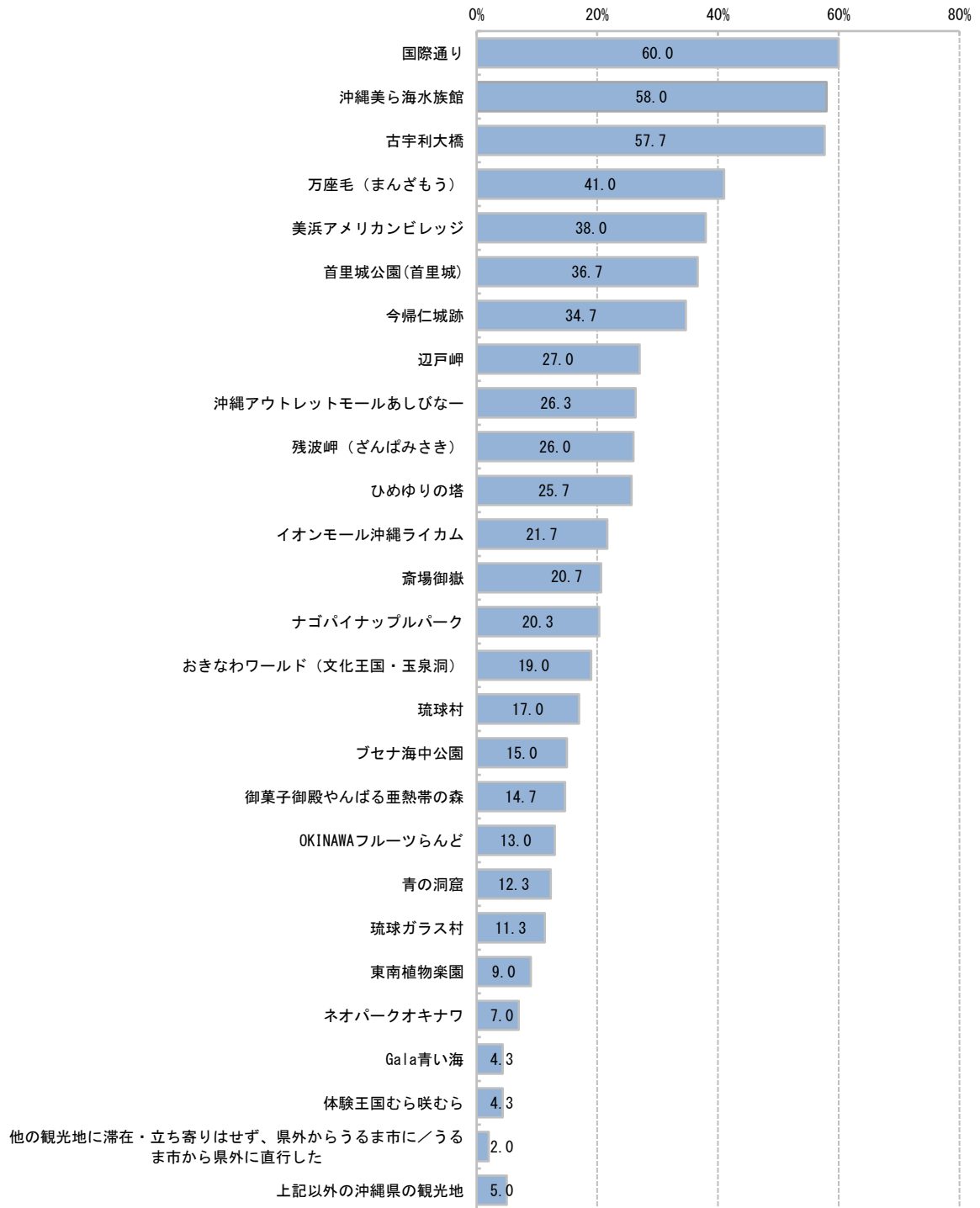
〇興味・関心のあるものについては、「自然・海を楽しむ」が76.0%と最も多く、ついで「グルメを楽しむ」が74.3%、「ゆっくりと保養・癒しを楽しむ」が62.3%となっている。
 〇実際に行ったことがあるものについては、「グルメを楽しむ」が76.7%と最も多く、ついで「自然・海を楽しむ」が71.0%、「ゆっくりと保養・癒しを楽しむ」が57.0%となっている。



n=300

③旅行中に滞在または立寄った沖縄県内の観光地

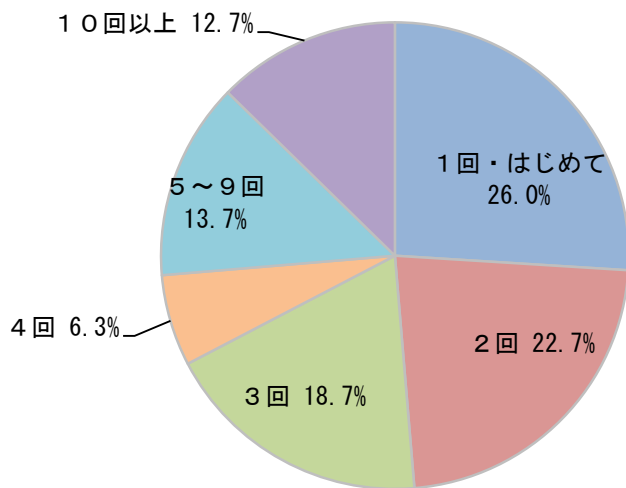
○旅行中に滞在または立寄った沖縄県内の観光地については、「国際通り」が60.0%と最も多く、ついで「沖縄美ら海水族館」が58.0%、「古宇利大橋」が57.7%となっている。



n=300

⑤これまでの「うるま市」への来訪回数

○これまでの「うるま市」への来訪回数について、「1回・初めて」が26.0%と最も多く、ついで「2回」22.7%、「3回」18.7%となっている。

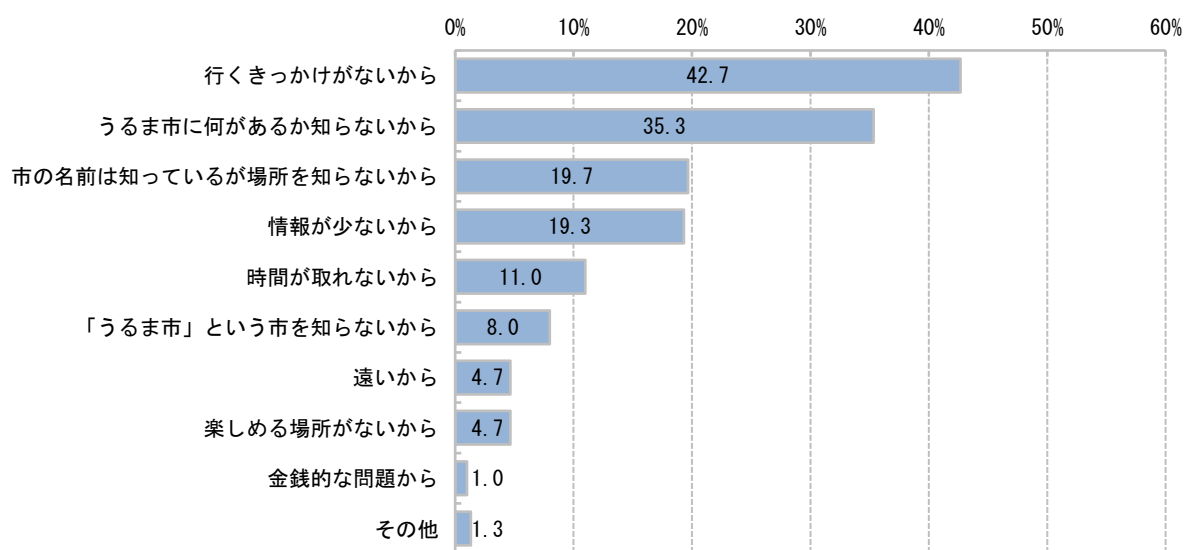


n=300

参考：うるま市に行ったことがない理由

※県外のうるま市へ来訪経験がない方対象

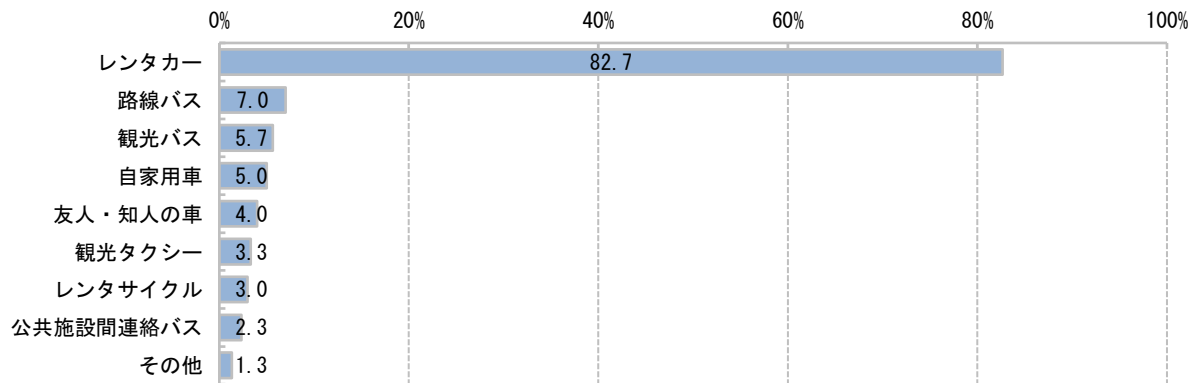
○うるま市に行ったことがない理由について、「行くきっかけがないから」が42.7%と最も多く、次いで「うるま市に何があるか知らないから」35.3%、「市の名前は知っているが場所を知らないから」19.7%となっている。



n=300

⑥うるま市までの交通手段および市内の交通手段

○交通手段については、「レンタカー」が82.7%と最も多く、ついで「路線バス」が7.0%、「観光バス」が5.7%となっている。



n=300

⑦うるま市を訪れた直近のご旅行で、うるま市内でお支払いになった1人あたりの金額

○平均値は「宿泊費」が22,834円、「市内交通費」3,102円、「土産・買物」5,505円、「飲食費」7,268円、「娯楽・入場費」2,842円、「その他」893円であった。

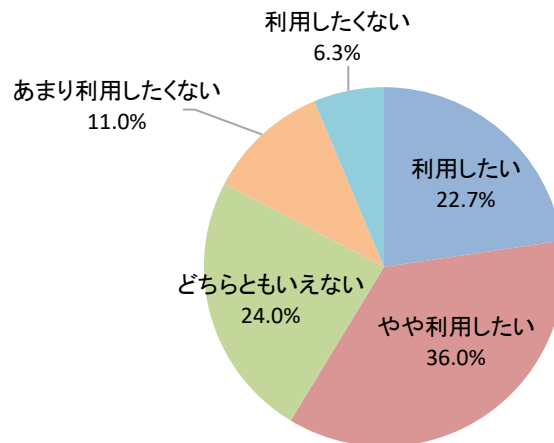
	平均値
宿泊費	22,834
市内交通費	3,102
土産・買物	5,505
飲食費	7,268
娯楽・入場費	2,842
その他（上記以外の項目で使用した金額があれば回答ください）	893

n=300

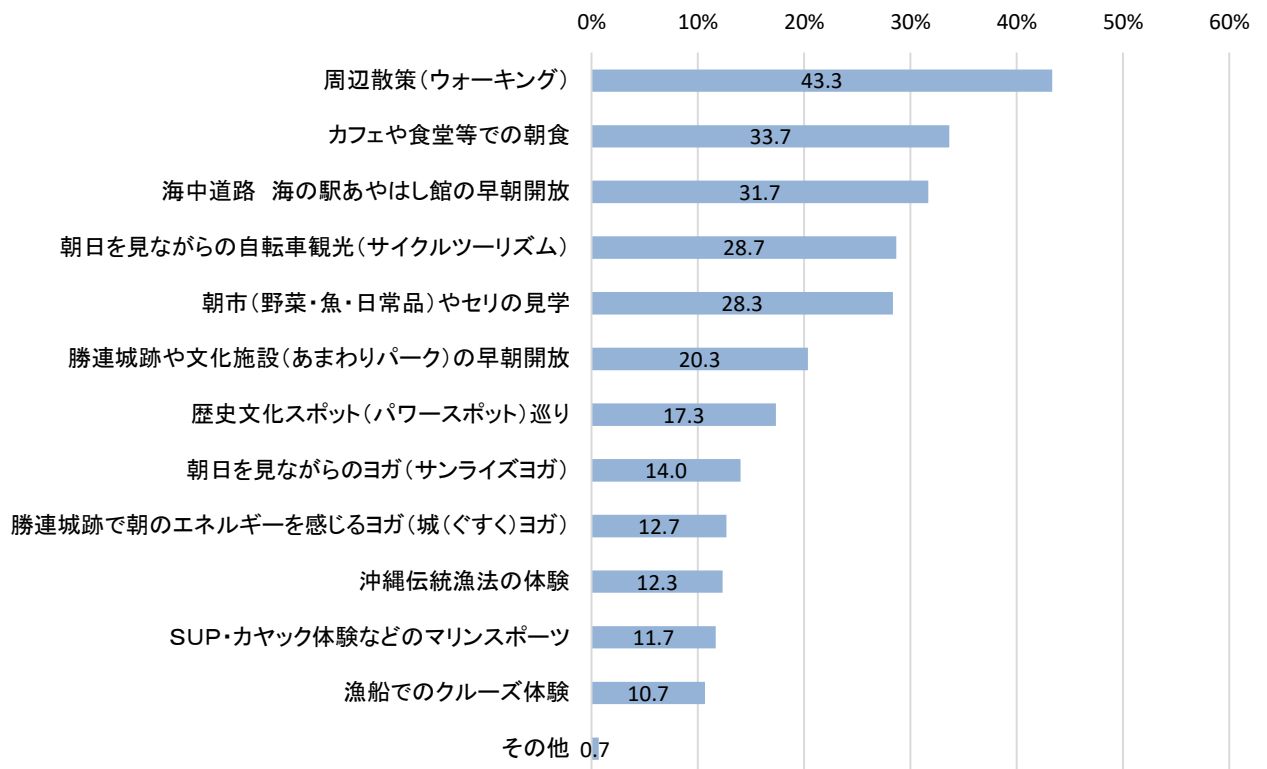
⑨早朝の体験意向・体験したい早朝の飲食やコンテンツ

○早朝の体験意向について、「利用したい」22.7%、「やや利用したい」36.0%と肯定的な回答が58.7%となっている。中立的な回答は24.0%、否定的な回答は17.6%となっている。

○体験したい早朝の飲食やコンテンツについては、「周辺散策（ウォーキング）」が43.3%と最も多く、ついで「カフェや食堂等での朝食」が33.7%、「海中道路 海の駅あやはし館の早朝開放」31.7%となっている。



n=300

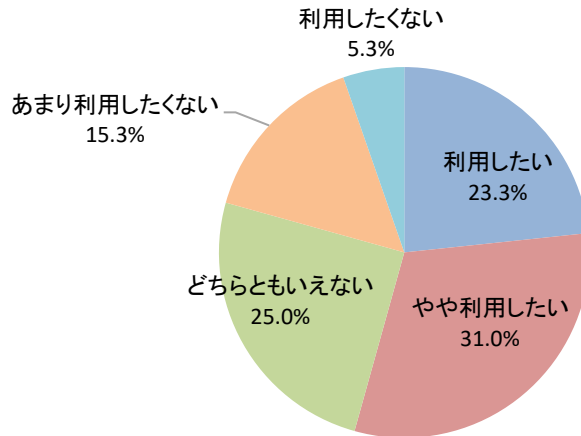


n=300

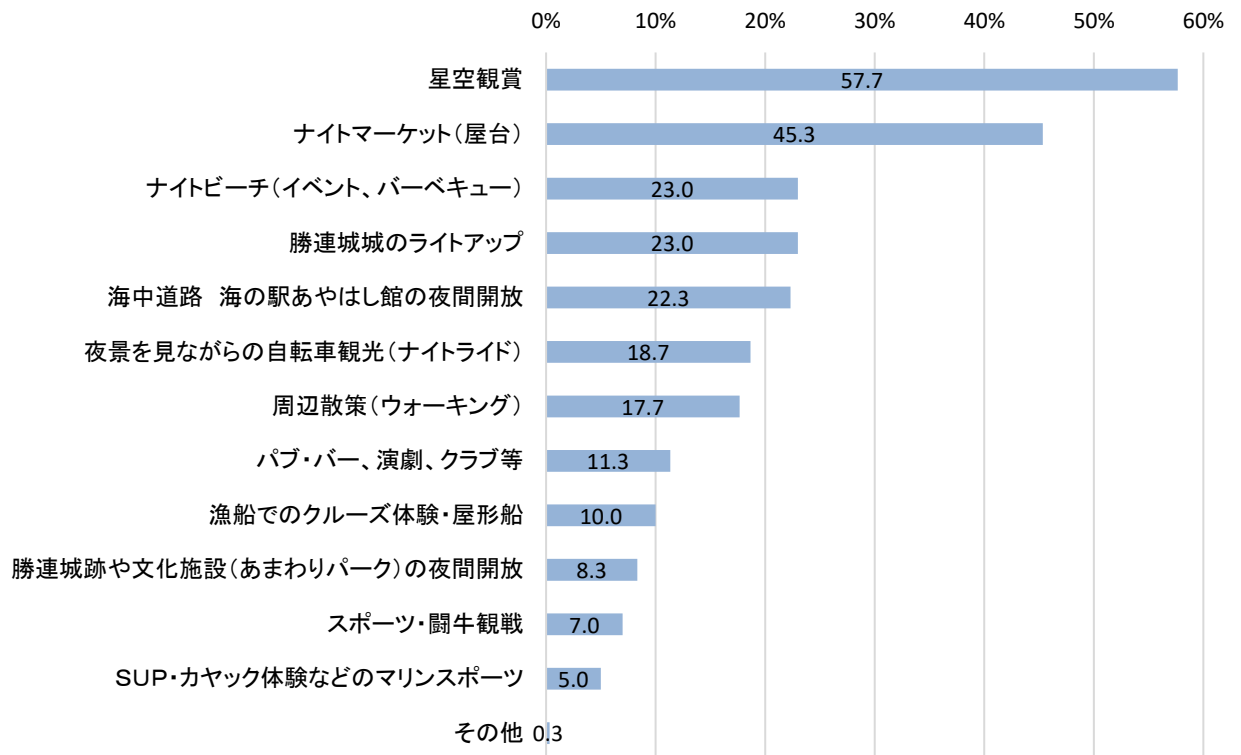
⑩夜間の体験意向・体験したい夜間の飲食やコンテンツ

○夜間の体験意向について、「利用したい」23.3%、「やや利用したい」31.0%と肯定的な回答が54.3%となっている。中立的な回答は25.0%、否定的な回答は20.6%となっている。

○体験したい夜間の飲食やコンテンツについては、「星空観賞」が57.7%と最も多く、ついで「ナイトマーケット（屋台）」が45.3%、「ナイトビーチ（イベント、バーベキュー）」が23.0%となっている。



n=300



n=300

巻末資料－3：市民アンケート調査結果

市民アンケート

- ・うるま市民を対象に、コロナ禍における観光まちづくり推進に対する期待や懸念事項等を把握するため、市民アンケート調査を実施した。
- ・コロナ禍前の過年度調査との比較のため、過年度の設問を踏襲して設計し、コロナ禍における新たな観光振興の課題把握の設問を追加した。
- ・4地区（石川・具志川・勝連・与那城）別の観光動態、課題等を把握するため、うるま市自治会長にも別途調査を依頼し、自治会長の意向も把握するとともに、4地区別のクロス集計を実施し、観光振興の意向の違いを把握した。

実施概要

市民アンケートについて、実施概要を以下に示す。

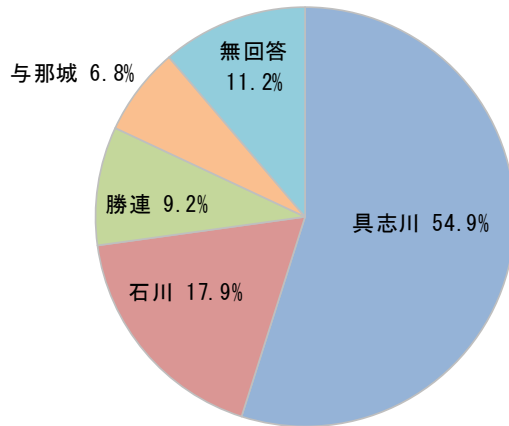
項目	市民	(参考：前回調査)
調査対象	<p>【市民全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○18歳以上のうるま市 ○無作為抽出した3,500人 <p>【追加内容：うるま市自治会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4地区：63名 	<p>【市民全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○20歳以上のうるま市民 ○無作為抽出した4,000名
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・市民全般：郵送配布・郵送回収 ・郵送に加えWEBアンケート ・うるま市自治会長 ※郵送配布・郵送回収 ※市から事前に依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・郵送配布・郵送回収
質問項目	<ul style="list-style-type: none"> ○過年度と同様の設問 <ul style="list-style-type: none"> ・うるま市における観光産業の発展に対する期待 ・県外の人に勧めたい地域資源 ・観光振興の結果として期待すること ・観光振興が進むことにより心配される影響 ・観光振興への関わりについての現状と意思 ○過年度設問からの追加設問（経済分析にかかる分析を想定） <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における新たな観光振興の課題 ・持続的な観光まちづくりとして取組可能な施策 ・期待する項目 ・産業振興を図るための施策 ○観光客調査、市民調査と比較可能な設問 <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興に向けて期待すること、うるま市の課題 など 	

※次項以降に結果を掲載する。ただし、本編に掲載している分析結果（グラフ等）は重複の為割愛。

実施結果

①居住地

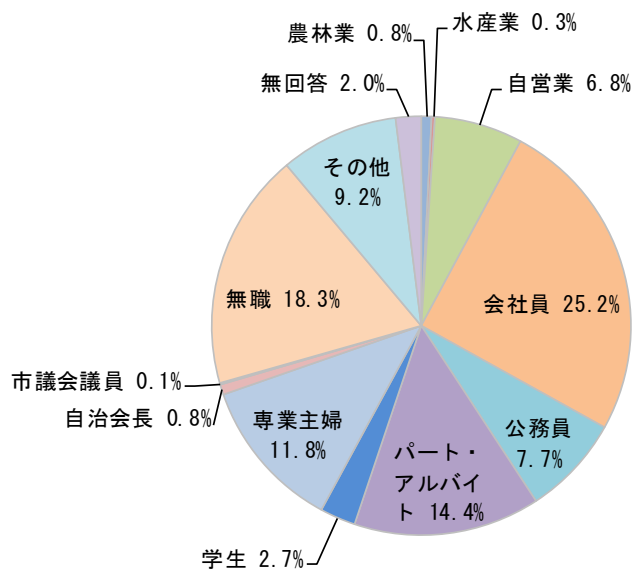
○居住地について、「具志川」が54.9%と最も多く、ついで「石川」が17.9%、「勝連」が9.2%となっている。



n=765

②職業

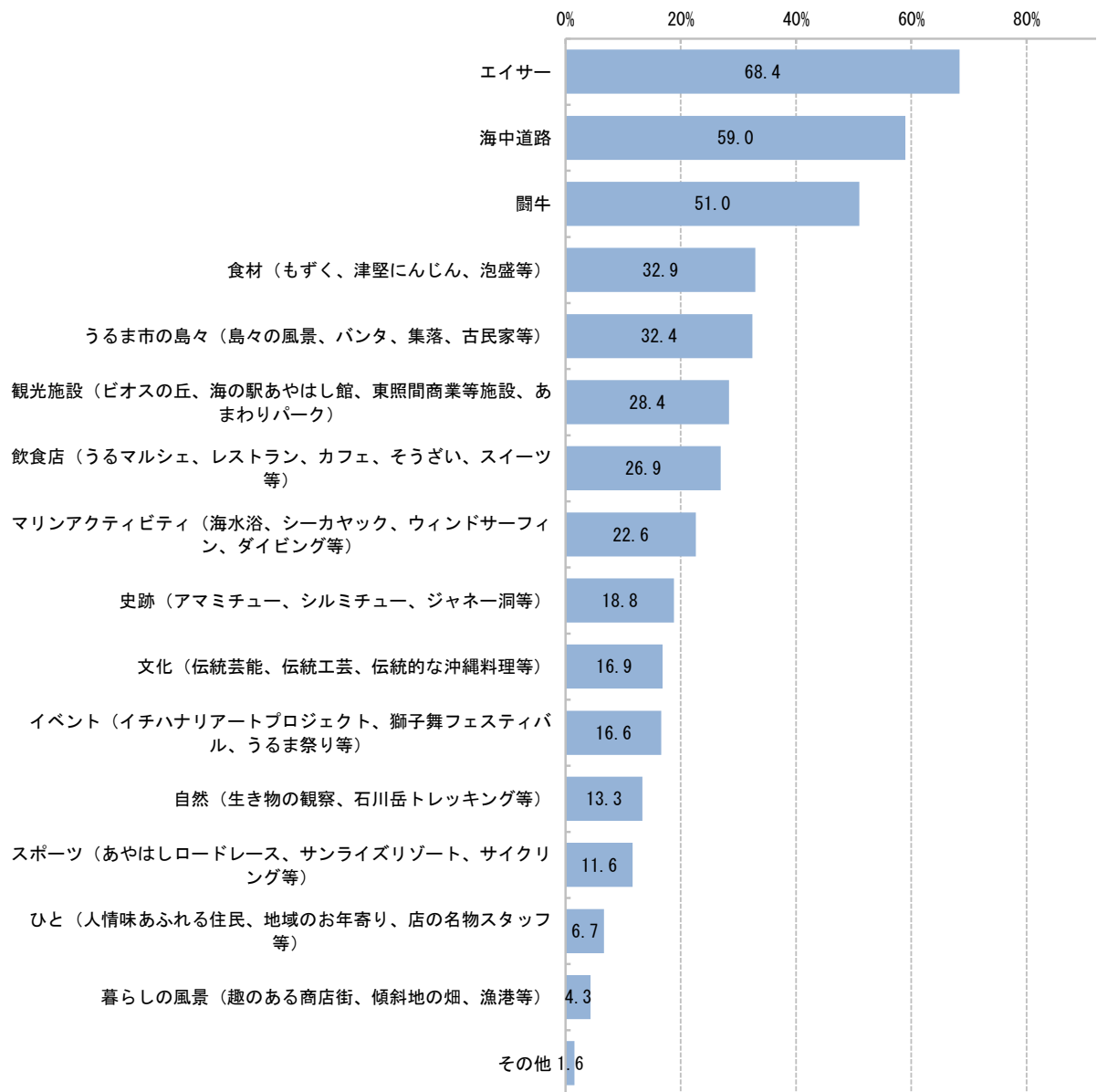
○職業について、「会社員」が25.2%と最も多く、ついで「無職」が18.3%、「パート・アルバイト」が14.4%となっている。



n=765

③市外や県外の人に勧めたいうるま市の観光の素材は何ですか。(上位5つを回答)

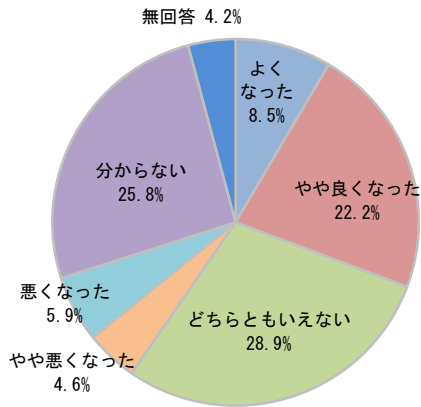
○市外や県外の人に勧めたいうるま市の観光の素材について、「エイサー」が68.4%と最も多く、ついで「海中道路」59.0%、「闘牛」51.0%、「食材（もずく、津堅にんじん、泡盛等）」32.9%となっている。



n=765

④この5年で、うるま市の観光をめぐる状況はどう変わったと思いますか。

〇うるま市の観光をめぐる状況について、「どちらともいえない」が28.9%と最も多く、ついで「分からない」が25.8%、「やや良くなった」が22.2%となっている。



n=765

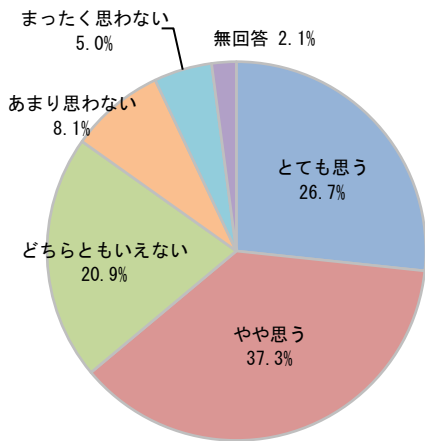
【参考：地域別自治会長クロス回答】

	全体	よくなっ た	やや良く なった	どちらと もいえな い	やや悪く なった	悪くなっ た	分からな い	無回答
全体	(57) (%)	4 7.0	18 31.6	16 28.1	3 5.3	4 7.0	5 8.8	7 12.3
具志川	(27) (%)	4 14.8	9 33.3	5 18.5	2 7.4	4 14.8	3 11.1	0 0.0
石川	(12) (%)	0 0.0	3 25.0	4 33.3	1 8.3	0 0.0	1 8.3	3 25.0
勝連	(7) (%)	0 0.0	2 28.6	3 42.9	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3
与那城	(10) (%)	0 0.0	3 30.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0

n=57

⑤観光が発展すると、あなたの生活も豊かになると思いますか。

〇観光が発展すると、あなたの生活も豊かになると思うかについて、「やや思う」37.3%、「とても思う」26.7%で、肯定的な回答が全体の64%と半数以上が期待している。否定的な意見では13.1%、中立的な意見が20.9%となっている。



n=765

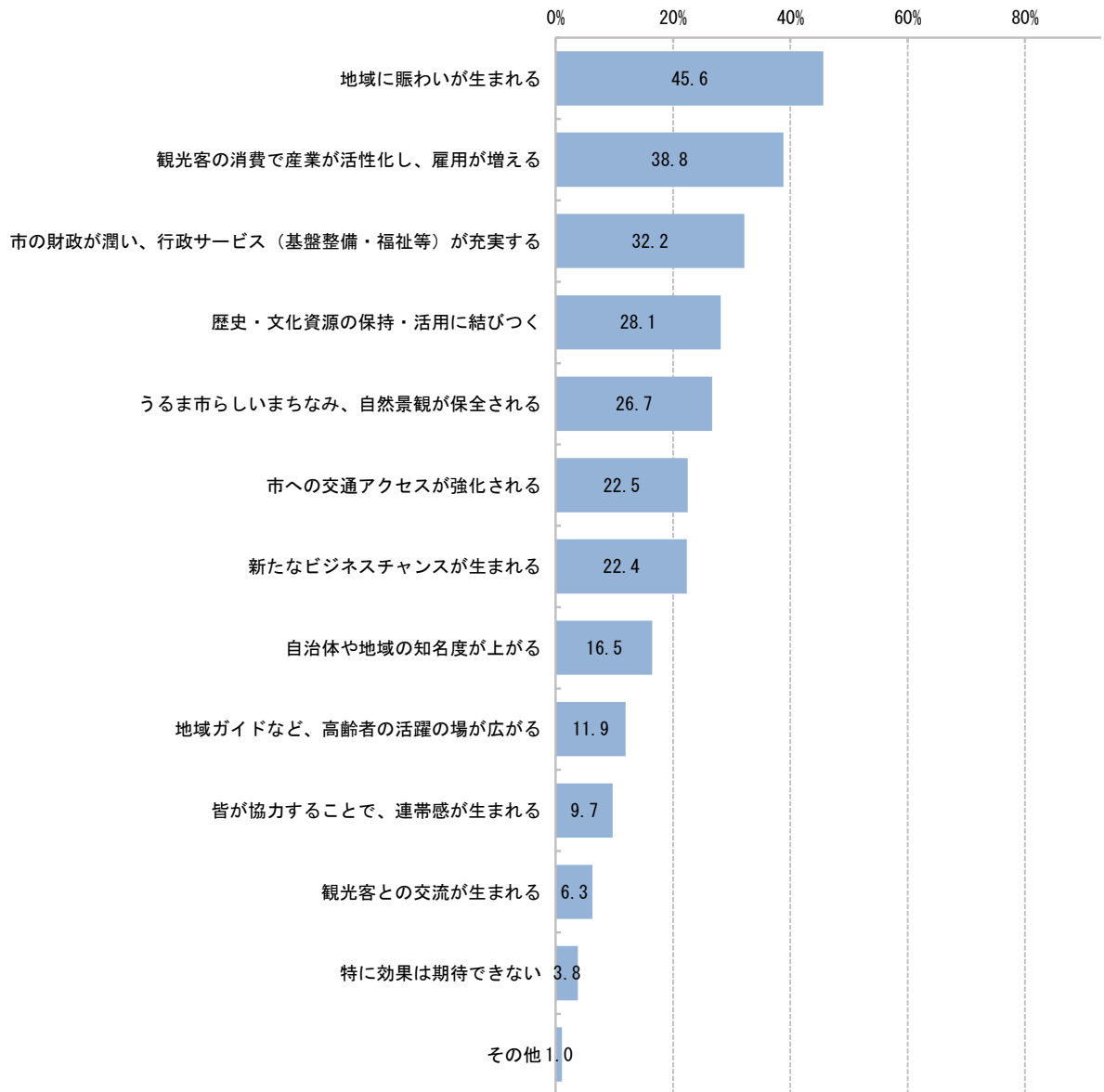
【参考：地域別自治会長クロス回答】

	全体	とても思 う	やや思 う	どちらと もいえな い	あまり思 わな い	まったく 思わな い	無回答
全体	(57) (%)	18 31.6	19 33.3	15 26.3	3 5.3	1 1.8	1 1.8
具志川	(27) (%)	9 33.3	13 48.1	3 11.1	0 0.0	1 3.7	1 3.7
石川	(12) (%)	4 33.3	3 25.0	4 33.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0
勝連	(7) (%)	2 28.6	1 14.3	4 57.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
与那城	(10) (%)	3 30.0	2 20.0	3 30.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0

n=57

⑥うるま市の観光まちづくりに期待することは何ですか。（該当する番号を3つまで回答）

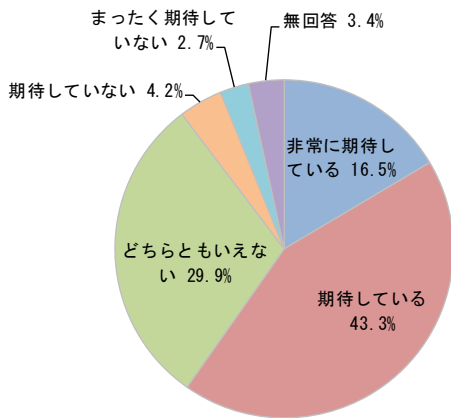
〇うるま市の観光まちづくりに期待することについて、「地域に賑わいが生まれる」が45.6%と最も多く、ついで「観光客の消費で産業が活性化し、雇用が増える」が38.8%、「市の財政が潤い、行政サービス（基盤整備・福祉等）が充実する」が32.2%となっている。



n=765

⑦うるま市における観光振興の発展に期待していますか。

○観光が発展すると、あなたの生活も豊かになると思うかについて、「期待している」43.3%、「非常に期待している」16.5%で、肯定的な回答は全体の59.8%と半数以上が今後の展開に期待している。否定的な意見では6.9%、中立的な意見が29.9%となっている



n=765

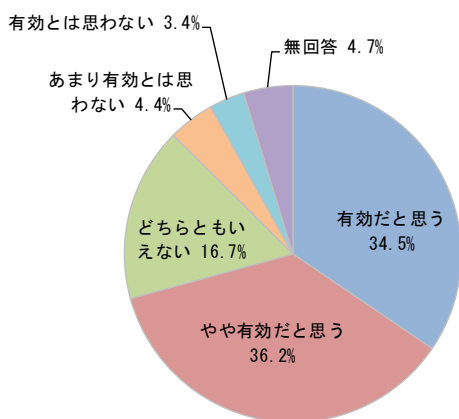
【参考：地域別自治会長クロス回答】

	全体	非常に期待している	期待している	どちらともいえない	期待していない	まったく期待していない	無回答
全体	(57) (%)	16 28.1	28 49.1	8 14.0	3 5.3	1 1.8	1 1.8
具志川	(27) (%)	9 33.3	13 48.1	2 7.4	1 3.7	1 3.7	1 3.7
石川	(12) (%)	2 16.7	8 66.7	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
勝連	(7) (%)	1 14.3	4 57.1	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
与那城	(10) (%)	4 40.0	3 30.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0

n=57

⑧うるま市の失業率は、沖縄県内で最も高い水準になっています。観光振興は、雇用の確保と失業率の低下に有効だと思いますか。

○「有効だと思おう」34.5%、「やや有効だと思おう」36.2%で、肯定的な回答は全体の70.7%となった。否定的な意見では7.8%、中立的な意見が16.7%となっている



n=765

【参考：地域別自治会長クロス回答】

	全体	有効だと思おう	やや有効だと思おう	どちらともいえない	あまり有効とは思わない	有効とは思わない	無回答
全体	(57) (%)	25 43.9	13 22.8	13 22.8	4 7.0	1 1.8	1 1.8
具志川	(27) (%)	15 55.6	7 25.9	2 7.4	1 3.7	1 3.7	1 3.7
石川	(12) (%)	3 25.0	2 16.7	6 50.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0
勝連	(7) (%)	2 28.6	2 28.6	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
与那城	(10) (%)	5 50.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0

n=57

巻末資料－４：観光事業者アンケート調査結果

観光事業者アンケート

- ・うるま市内の観光関連事業者を対象に、コロナ禍における観光まちづくり推進に対する期待や懸念事項等を把握するため、観光関連事業者等アンケート調査を実施した。
- ・コロナ禍前の過年度調査との比較のため、過年度の設問を踏襲して設計し、コロナ禍における新たな観光振興の課題把握の設問を追加する。加えて前回調査の回答事業者及び主要な施設（うるまマルシェ、東照間商業施設等）については、ヒアリング調査を行い、コロナ前後の観光動態の変化などを詳細に把握した。
- ・対象事業者は、うるまいろ（パンフレット）掲載事業者、観光協会事業者、iタウンページ掲載事業者（旅行業・運送業を対象）の100事業者程度とし、発注者と協議して決定した。

実施概要

観光事業者アンケートについて、実施概要を以下に示す。

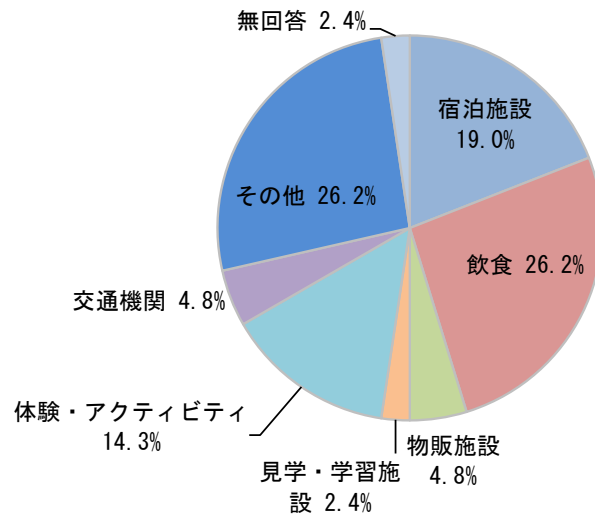
項目	事業者	（参考：前回調査）
調査対象	○旅行業、宿泊業、飲食業、運送業、製造業、レジャー産業の観光関連事業者 ○100事業者程度	○旅行業、宿泊業、飲食業、運送業、製造業等の観光関連事業者 ○30事業者
調査方法	・郵送配布・郵送回収 ・郵送に加えてWEBアンケートによる回収も実施	・ヒアリング調査
質問項目	○過年度と同様の設問 <ul style="list-style-type: none"> ・県外観光客・外国人観光客の占める割合 ・現在抱えている課題 ・うるま市の観光振興のためにどのような貢献ができるか ・観光振興に向けてうるま市へ期待すること ・観光振興に向けて（一社）うるま市観光物産協会へ期待すること ○過年度設問からの追加設問（産業振興に係る項目を想定） <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における新たな観光振興の課題 ・持続的な観光まちづくりとして取組可能な施策 ・期待する項目 ・産業振興を図るための施策 ○観光客調査、市民調査と比較可能な設問 <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興に向けて期待すること、うるま市の課題 など 	

※次項以降に結果を掲載する。ただし、本編に掲載している分析結果（グラフ等）は重複の為割愛する。

実施結果

①業種

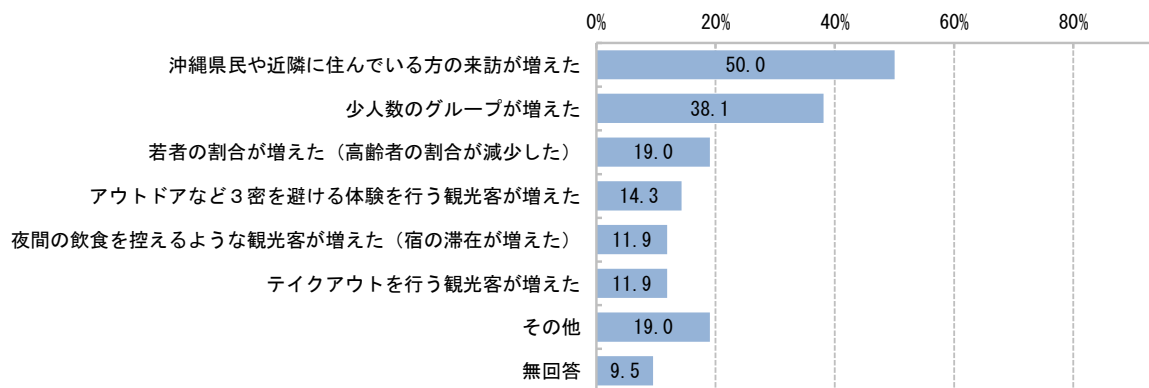
○業種について、「飲食店」が26.2%、「宿泊施設」が19.0%と多くなっている。



n=42

②コロナ禍後（令和2（2020）年4月以降）における観光客の行動変化があれば教えてください。

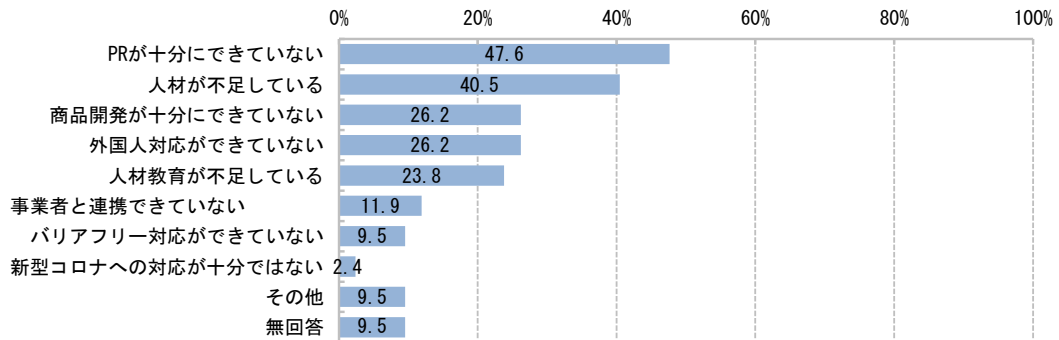
○コロナ禍後（令和2（2020）年4月以降）における観光客の行動変化について、「沖縄県民や近隣に住んでいる方の来訪が増えた」が50.0%と最も多く、次いで「少人数のグループが増えた」が38.1%と多くなっている。



n=42

③貴施設において、現状の観光客を対象とした取組の中で問題だと感じていることをお答え下さい。

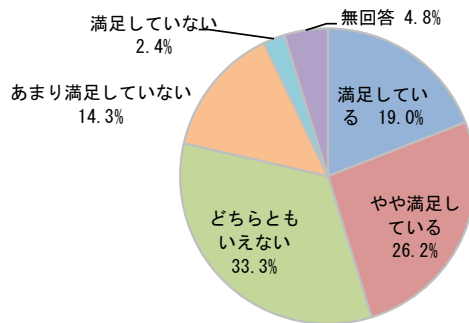
○現状の観光客を対象とした取組の中で問題だと感じていることについて、「PRが十分にできていない」が47.6%と最も多く、次いで「人材が不足している」が40.5%と多くなっている。



n=42

④うるま市の観光振興の取組についての満足度をお答え下さい。

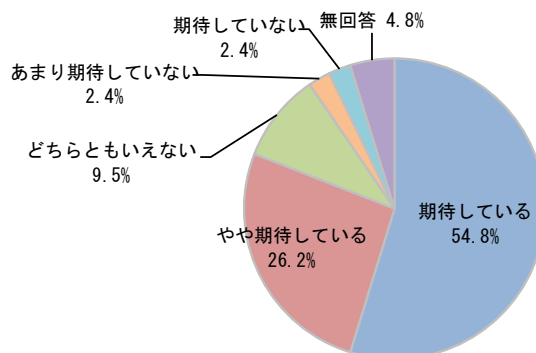
○うるま市の観光振興の取組についての満足度について、「やや満足している」が26.2%となっており、「満足している」が19.0%となっている。



n=42

⑤うるま市の今後の観光振興の取組の期待度をお答え下さい。

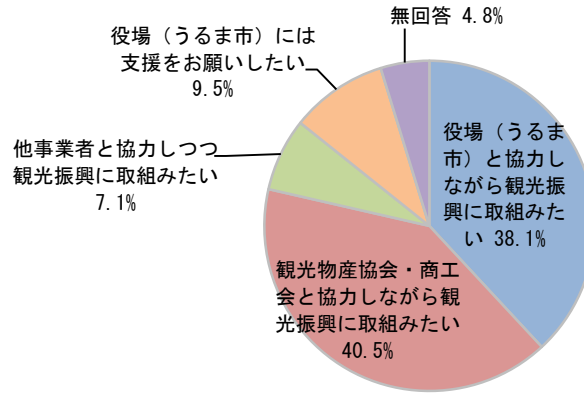
○うるま市の今後の観光振興の取組の期待度について、「期待している」が54.8%となっており、「やや期待している」が26.2%となっている。



n=42

⑥観光振興に対する関係者との協働意識について最も近いものをお答えください。

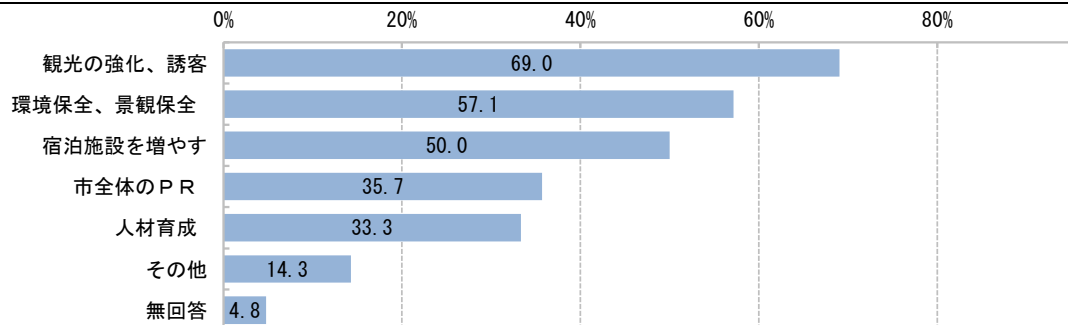
○観光振興に対する関係者との協働意識について、「観光物産協会・商工会と協力しながら観光振興に取り組みたい」が40.5%と最も多く、ついで「役場（うるま市）と協力しながら観光振興に取り組みたい」が38.1%となっている。



n=42

⑦うるま市の観光振興に向けて、うるま市に期待することをお答えください。

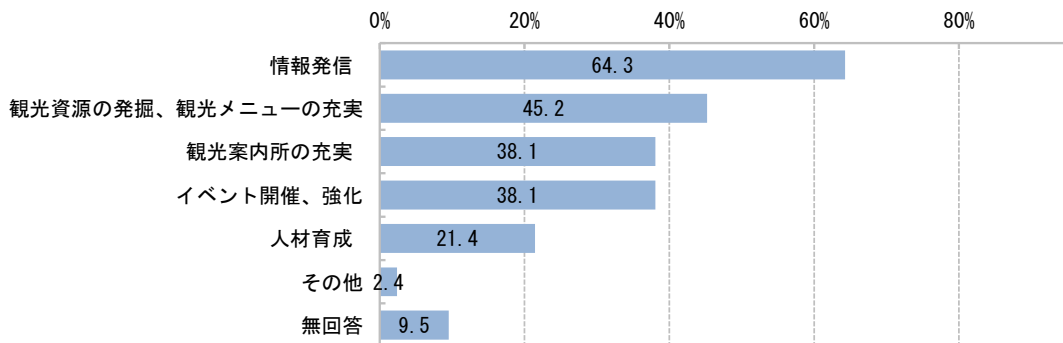
○観光振興に向けて、うるま市に期待することについて、「観光の強化・誘客」が69.0%と最も多く、ついで「環境保全、景観保全」が57.1%となっている。



n=42

⑧うるま市観光物産協会に期待することをお答えください。

○うるま市観光物産協会に期待することについて、「情報発信」が64.3%と最も多く、ついで「観光資源の発掘、観光メニューの充実」が45.2%となっている。



n=42

巻末資料－5：各種会議・WGの開催結果

観光まちづくり推進協議会

第5回 うるま市観光まちづくり推進協議会（令和4（2022）年度第1回）
日時：令和4（2022）年8月15日（月）15:00～17:00
場所：うるま市役所本庁舎（西棟）1階 中会議室（WEB会議ツール（Zoom）にて開催）
参加人数：18名
議題：1 開会あいさつ（協議会会長）
2 委員紹介
3 報告及び協議事項
（1）第2次うるま市観光振興ビジョン改定の方向性
（2）うるま市観光の動向について（上位・関連計画）
（3）基礎データの整理・分析・調査について
（4）その他意見交換
4 閉会あいさつ



第6回 うるま市観光まちづくり推進協議会（令和4（2022）年度第2回）
日時：令和4（2022）年12月6日（火）10:00～12:00
場所：うるま市役所本庁舎（西棟）1階 中会議室（WEB会議ツール（Zoom）にて開催）
参加人数：18名
議題：1 開会あいさつ（協議会会長）
2 第1回観光振興計画策定委員会の実施報告及び改定の考え方
3 報告及び協議事項
（1）第1回庁内WGの実施結果
（2）第1回事業者ワーキングの実施結果
（3）うるま市観光の動向
（4）第2次うるま市観光振興ビジョン（骨子）
（5）意見交換
4 閉会あいさつ



第7回 うるま市観光まちづくり推進協議会（令和4（2022）年度第3回）
日時：令和5（2023）年2月27日（月）15:00～17:00
場所：うるま市役所本庁舎（西棟）1階 中会議室（WEB会議ツール（Zoom）にて開催）
参加人数：13名
議題：1 開会あいさつ（協議会会長）
2 第6回うるま市観光まちづくり推進協議会の実施報告
3 第2回観光振興計画策定委員会の実施報告
（1）庁内会議の実施結果
（2）事業者ワーキングの実施結果
（3）第2次うるま市観光振興ビジョン（素案）
（4）意見交換
4 閉会あいさつ

庁内会議

第2次うるま市観光振興ビジョン改定事業 第1回 庁内会議
 日時 : 令和4(2022)年10月25日(火) 10:00~12:00
 場所 : うるま市役所本庁舎(西棟)1階 中会議室
 参加人数 : 15名
 議題 : 1 開会あいさつ(観光振興課・係長)
 2 報告及び協議事項
 (1) 第2次うるま市観光振興ビジョン改定の方向性
 (2) 各実施事業の進捗確認及び今後の施策展開
 (3) その他意見交換
 3 閉会あいさつ



第2次うるま市観光振興ビジョン改定事業 第2回 庁内会議
 日時 : 令和5(2023)年1月24日(火) 13:30~15:30
 場所 : うるま市役所本庁舎(西棟)1階 中会議室
 参加人数 : 14名
 議題 : 1 開会あいさつ(観光振興課・係長)
 2 報告: 改定に向けたスケジュール、進捗状況等の報告
 (1) 改定に向けたスケジュールおよび進捗状況
 (2) 各会議等における主な意見
 3 協議事項: 観光振興ビジョン改定版(素案)について
 (1) 計画の考え方(目的、位置づけ、構成)
 (2) 基本理念、基本方針、展開施策
 (3) 実施主体、PDCA
 4 閉会あいさつ

事業者ワーキンググループ

第2次うるま市観光振興ビジョン改定事業 第1回 事業者ワーキンググループ

日時 : 令和4(2022)年11月17日(木) 17:00~19:30

場所 : うるま市役所本庁舎(東棟)3階 大講堂

参加人数: 24名

- 議題 :
- 1 開会・あいさつ(経済産業部 観光振興課)
 - 2 事業の説明
 - 3 自己紹介(事業者の取組、問題点、課題)
 - 4 観光振興計画の見直しに向けて(観光動向の変化など)
 - 5 ワーク
「今後のうるま市観光の創造に向けて
~これからのうるま市観光の課題、大切にしたいこと、取組~」
 - 6 閉会・あいさつ(経済産業部 観光振興課)



第2次うるま市観光振興ビジョン改定事業 第2回 事業者ワーキンググループ

日時 : 令和4(2022)年12月15日(木) 17:45~19:45

場所 : うるま市役所本庁舎(東棟)3階 大講堂

参加人数: 20名

- 議題 :
- 1 開会・あいさつ(経済産業部 観光振興課)
 - 2 第1回ワーキングの実施報告
 - 3 自己紹介(新規参加者のみ)
 - 4 観光振興計画の見直しに向けて
~うるま市観光振興ビジョンの素案について
(基本理念、基本方針、施策体系、体制等)~
 - 5 ワーク「うるま市観光の基本方針及び具体施策について」
 - 6 閉会・あいさつ(経済産業部 観光振興課)



第2次うるま市観光振興ビジョン改定事業 第3回 事業者ワーキンググループ

日時 : 令和5(2023)年2月14日(火) 17:45~19:45

場所 : うるま市庁舎 東棟 3階 大講堂

参加人数: 10名

- 議題 :
- 1 開会・あいさつ(経済産業部 観光振興課)
 - 2 第2回ワーキングの実施報告
 - 3 「第2次うるま市観光振興ビジョン(改定)」(素案)の説明
 - 4 ワークのテーマ「今後のうるま市観光振興に向けた推進体制」
~計画の内容の確認・意見交換、うるま市観光振興に向けた推進体制の検討~
 - 5 閉会・あいさつ(経済産業部 観光振興課)

巻末資料－6：うるま市観光まちづくり推進協議会設置要綱・委員会名簿

〇うるま市観光まちづくり推進協議会規則

平成21年7月7日 規則第36号

改正 平成23年7月6日規則第28号

平成23年12月12日規則第40号

平成30年3月19日規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、うるま市附属機関設置条例（平成17年うるま市条例第19号）第3条の規定に基づき、うるま市観光まちづくり推進協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 協議会は、うるま市観光振興ビジョンに基づく各種施策の推進及び観光振興に関し必要な事項について協議するものとする。

(組織及び任期)

第3条 協議会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 知識経験を有する者
- (2) 関係団体及び関係機関に従事する者
- (3) 公募の市民
- (4) 関係行政機関の職員
- (5) 市職員
- (6) その他特に市長が必要と認める者

3 委員の任期は、委嘱又は任命の日から翌々年の3月末日までとする。ただし、再任を妨げない。

4 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

(プロジェクトチーム等)

第6条 協議会に、特定の事項等を調査審議させるため、必要に応じプロジェクトチーム等を置くことができる。

2 プロジェクトチーム等は、協議会の求めに応じ、調査審議の経過及び結果等を協議会に報告しなければならない。

3 前2項に定めるもののほか、プロジェクトチーム等に関し必要な事項は、協議会で別に定める。

(意見の聴取等)

第7条 会議において、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、経済部観光振興課において処理する。

(補則)

第9条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行し、平成20年10月3日から適用する。

(うるま市観光振興ビジョン策定委員会に関する規則の廃止)

2 うるま市観光振興ビジョン策定委員会に関する規則（平成18年うるま市規則第48号）は、廃止する。

(任期の特例)

3 第3条第3項の規定にかかわらず、平成23年12月12日から平成24年3月31日までの間に同条第2項の規定に基づく委員の任期は、平成26年3月31日までとする。

附 則（平成23年7月6日規則第28号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成23年12月12日規則第40号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成30年3月19日規則第5号）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

うるま市観光まちづくり推進協議会委員名簿

任期：任命された日から令和5（2023）年3月31日まで

No.	区分	氏名	フリガナ	所属
1	1号委員	波多野 想	ハタノ ヨシノ	琉球大学島嶼地域科学研究所 所長
2	2号委員	石川 裕憲	イシカワ ヲクノ	一般社団法人うるま市観光物産協会 理事長
3		石川 満	イシカワ ミツル	うるま市商工会 会長
4		松田 尊	マツダ タカ	一般社団法人 うるま市観光物産協会 事務局 局長
5		伊波 仁	イハ ヒトシ	うるま市商工会 事務局 局長
6	3号委員	普久原 朝之	フキハラ アサノ	市民公募
7	4号委員	金城 康司	キヌヅ ヨシノリ	沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策課 課長
8		目島 憲弘	メジマ ノブヒロ	一般財団法人沖縄観光コンベンション ビューロー 事務局 局長
9	5号委員	松岡 秀光	マツオカ ヒデミツ	うるま市経済産業部長
10		岸本 力	キシモト ツトム	うるま市企画部 プロジェクト推進2課 課長
11		宮城 伸一	ミヤギ ノブイチ	うるま市社会教育部 文化財課 課長
12	6号委員	屋宜 真道	ヤスナオ マチノ	一般社団法人 うるま市観光物産協会 観光部 会長
13		瀬名波 良彦	セナハ リョウヘン	うるま市商工会 観光サービス業部 会長
14		宮城 健	ミヤギ ケン	うるマルシェ 統括支配人
15		伊波 大志	イハ タシ	ワイドーaiプロ株式会社 取締役 (闘牛実況アナウンサー)

事務局

No	区分	氏名	フリガナ	所属
1	事務局	新垣 健	ニガハキ ケン	うるま市観光振興課 課長
2	〃	仲地 こずえ	ナカチ コズエ	うるま市観光振興課 観光振興係 係長
3	〃	横田 竜	ヨコダ リウ	うるま市観光振興課 観光振興係

1号委員：知識経験を有する者

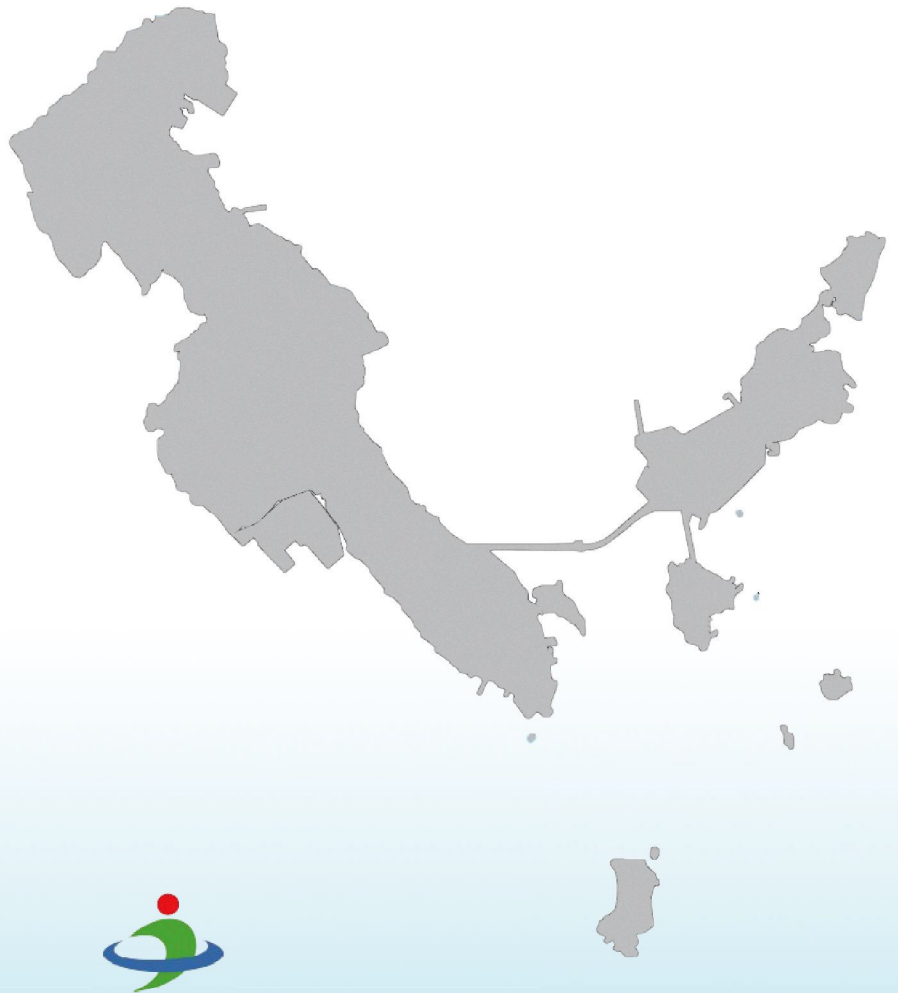
4号委員：関係行政機関の職員

2号委員：関係団体及び関係機関に従事する者

5号委員：市職員

3号委員：公募の市民

6号委員：その他特に市長が必要と認める者



第2次うるま市観光振興ビジョン改定版

発行日 / 令和5年3月
発行 / うるま市
編集 / 経済産業部 観光振興課
〒904-2292
沖縄県うるま市みどり町一丁目1番1号
TEL : 098-923-7612 FAX : 098-923-7623
URL : <https://www.city.uruma.lg.jp>

(制作協力：株式会社オリエンタルコンサルタンツ沖縄支社)